

## 第3次静岡市総合計画 「基本構想」・「基本計画」の骨子案

項 目	備 考	頁 数
1 全体構成		1
2 基本構想		2
3 基本計画	かがみ	6
(1) 重点プロジェクト	かがみ、政策×2ページ	8
(2) 分野設定	かがみ	11
(3) 計画推進にあたっての基本的な考え方		12
(4) 分野別の基本的な方向性	10分野×2ページ	13
(5) 土地利用構想（都市構造軸の考え方、各区の取組）		33
4 附属資料	かがみ	36
(1) 人口フレーム		37
(2) 財政状況、行財政改革の状況		38
(3) アセットマネジメントの取組		39

- ・本資料は、第3次静岡市総合計画の「基本構想」及び「基本計画」の骨子を示すものです。
- ・今後、本資料等に対する市民、団体等の皆様の意見等を反映しながら、平成27年3月までに「第3次静岡市総合計画」を策定してまいりますので、よろしくをお願いします。（「基本構想」「基本計画」については、平成26年市議会11月定例会に上程予定）
- ・なお、掲載している写真やイラスト等は、あくまでもイメージとなっておりますので、よろしくをお願いします。

# 第3次静岡市総合計画 全体構成

市議会議決事項

市議会報告事項

## 策定の背景等

### ①構成

- ・ 3層構造(基本構想・基本計画・実施計画)
- ・ 静岡市自治基本条例、静岡市議会の議決すべき事件等を定める条例に基づき策定

### ②2次総までの総括

- ・ 新・静岡市としての一体化の推進
- ・ 指定都市としての基盤づくり
- ・ 新たな「まちみがき」計画の取組

### ③社会全体の潮流

- ・ グローバル化、ICTの進展
- ・ 社会的課題(エネルギー、格差等)顕在
- ・ 地域コミュニティの希薄化
- ・ 「地域の個性」の時代
- ・ 創造性、絆意識の芽生え

### ④静岡市の現状と課題

- 人口
  - ・ 人口減少、少子化・高齢化が進展
  - ・ 若者、特に女性の転出超過の傾向
- 都市力
  - ・ 一定の都市機能の集積と産業があり、市外から人を集める中核性がある。
  - ・ 他の政令指定都市と比べて大学・学生数、ホテル客室数が少ない。
- 産業力
  - ・ 本市経済をけん引する産業が少なく、工場の市外転出などにより産業規模も縮小傾向
- 知名度
  - ・ 何となく知られてはいるが、具体的なイメージが弱い。
- 地域資源
  - ・ 長い歴史と豊かな自然に育まれた多彩な地域資源が豊富
- 土地利用
  - ・ 市街地の人口密度が低下

## 基本構想(『百年構想』)

### ①目指すべき将来像

## 「世界に輝く静岡」の実現

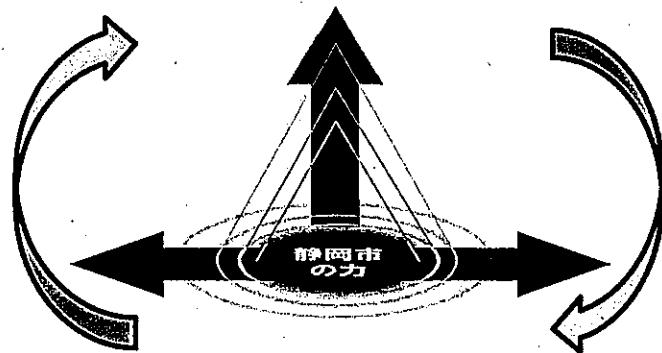
「世界に輝く静岡」とは、住む人が「誇り」を持ち、訪れる人が「憧れ」を抱く世界水準の都市

### ②中心となる考え方

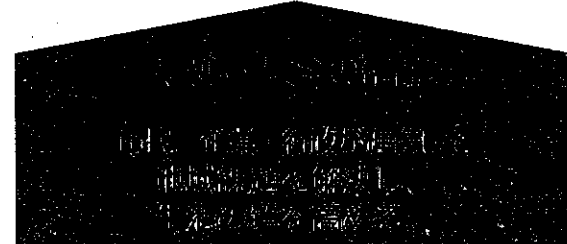
#### 経済・産業の振興

本市の持つ地域資源に新しい価値を与え、地域経済を活性化する。

## 「創造する力」による都市の発展



## 「つながる力」による暮らしの充実

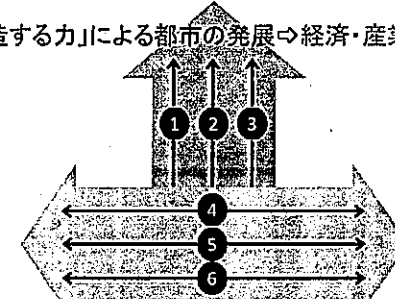


## 基本計画(8年:H27-34)

### ①8年間で取り組む重点プロジェクト

- 重点的かつ庁内横断的に取り組む施策

「創造する力」による都市の発展→経済・産業の振興

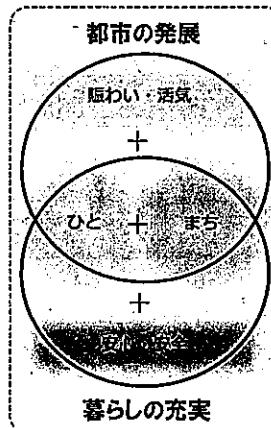


「つながる力」による暮らしの充実→安心・安全の確保

### ②計画推進にあたっての基本的な考え方

オール静岡で創る未来の静岡市  
みんなで共有する市民自治の意識  
みんなで展開する都市経営の指針

### ③分野別の基本的な方向性



「賑わい・活気」  
「ひと」  
「まち」  
「安心・安全」  
の要素別に10分野を設定

### ④土地利用構想

- 都市構造軸の考え方
- 各区の取組

## 実施計画

前期  
4年

後期  
4年

各分野の重点的な事業

ネクストプラン

フューチャープラン

4次総以降

# 第3次静岡市総合計画 「基本構想」

## 静岡市 新・基本構想 <静岡市百年構想>

### ～ 静岡市 新時代の幕開け ～

今、時代は変革の時を迎えています。

1990年代初頭のバブル崩壊を契機に訪れた社会の潮流の変化は、20年以上にわたる経済の停滞を我が国にもたらしました。

また、東日本大震災を経て、市民の意識は、物や量の豊かさから、心の豊かさや、絆、つながりを重視するものへと大きく変化し、日本社会は、成長社会から成熟社会への転換期を迎えています。グローバル社会が進展していく中、精神的な豊かさや生活の質の向上を求め、多様な価値観を認め合う社会へと変革しています。

この間、静岡市においては、平成の大合併において、その象徴ともなった大型合併を実現させ、さらに、地域の悲願であった政令指定都市へ移行することで、将来の飛躍に向けた基盤を確立したところであり、次なる100年に向けて、歩み出すべき時を今、迎えています。

## 1 静岡市のちから

### ◆ 悠久の歴史都市・静岡

静岡市には、日本武尊（やまとたけるのみこと）伝説を今に伝える縁（ゆかり）の地があります。草薙の剣（つるぎ）にまつわる草薙神社が、大和平（やまとだいら）とも呼ばれていた日本平の地に鎮座しています。弥生時代には、農耕集落があり、現在、国の特別史跡に指定されている登呂遺跡が農村の営みや稲作農耕文化の原点を伝えています。

古墳時代には、国指定史跡の賤機山古墳や県指定史跡の三池平古墳などが築造され、古墳文化が展開しました。奈良時代には、国指定史跡の片山廃寺跡として遺構を残す古代寺院が造営されるなど、仏教文化が伝来するとともに国府が置かれ、また安倍の市が立つなど、地域の中核的な役割を担っていました。戦国時代には、今川義元公が駿河国を治め今川文化を開花させ、その後、徳川家康公が大御所政治を行い、駿府と呼ばれた静岡市が、日本の首都機能を担っていました。

このように、東海道の要衝の地として、脈々とその歴史と文化が育まれています。

### ◆ 世界の中で静岡市（駿府）が輝いていた400年前

徳川家康公が駿府城に居を構えていた400年前、ヨーロッパ諸国の外交団が、幾度となく訪れていました。江戸時代には、日本全国の名工が集結し静岡浅間神社が造営されるなど、静岡市は、時代の先端を担う人々が集まるまちでした。

また、朝鮮王朝からの朝鮮通信使の派遣が、徳川家康公の努力により復活し、清見寺にて朝鮮通信使を迎えるなど、平和外交が展開されました。そして、パックス・トクガワーナ（徳川の平和）とも呼ばれている、約260年にわたる世界史上、類を見ない平和な時代が始まりました。

### ◆ 幾多の試練を乗り越え、現代に

明治維新を迎え、静岡市には多くの幕臣が移り住み、近代化へ向けて苦難の道を歩み始めました。そして明治22年、初の市制施行により、全国35市とともに静岡市が誕生しました。

昭和に入り、静岡大火や戦災に見舞われましたが、先人達のたゆまぬ努力により、見事に復興を遂げました。また、七夕豪雨をはじめ幾多の風水害、自然災害を受けましたが、これらを乗り越えて、今日の繁栄が築かれています。

### ◆ 静岡市の可能性

南アルプスから駿河湾に至る広大な市域を持つ静岡市には、多様な自然資産があります。三保松原は芸術の源泉と信仰の対象として、平成25年、世界文化遺産富士山の構成資産として認められました。そして、翌年の平成26年、南アルプスが、ユネスコエコパークとして登録されるなど、オクシズ<sup>\*</sup>には世界から認められた自然と文化があります。安倍川や興津川の清流、そして駿河湾の恵みは、我々に心豊かな暮らしと文化、多種多彩で魅力的な食をもたらし続けています。

また、静岡市は、恵まれた温暖な気候と豊かな自然を持つ、大変住みやすいまちであるとともに、首都圏と中京圏の間に位置し、多様な高次都市機能を有しており、強い求心力を持つ中心市街地を活かしたコンパクトシティの実現を目指しています。

※オクシズ：奥大井、奥藁科、安倍奥、奥清水の4つの地域から構成される奥静岡エリアの愛称

### ◆ 今、始まる ～静岡市 新時代の幕開け～

このように、静岡市は、有史前から、人々の営みの中で、歴史を紡ぎ、日本の発展の一翼を担う拠点都市として繁栄してきました。

今を生きる私たちは、静岡市の自然や歴史、文化を誇りとし、これらを活かし、静岡市に関わる様々な人々とともに、新しい価値を創り出すことで、「静岡市」というブランド力を持ち、世界的にその価値が認められ、世界から人々が訪れたいと思う世界水準の都市を目指していきます。

今、まさに、「静岡市 新時代の幕開け」です。

## 2 静岡市を取り巻く今

### (1) 世界的な時代の潮流

#### ◆地球規模での環境問題

地球温暖化の進行は、人類にとって大きな問題となっています。これを防止していくためには、まずは、エネルギー問題に真剣に取り組んでいかななくてはなりません。

また、世界の人口は増え続けており、飢餓と飽食の格差が進むなか、地球環境の変化は、食糧問題や水問題にも大きく関係しています。

#### ◆情報通信技術(ICT)の劇的な進歩

インターネットは市民生活を支える重要な社会基盤となり、すでに我々の生活に欠かせないものとなっています。また、高速ネットワーク、高速モバイル通信の普及を背景に、スマートフォン・タブレット端末の利用が一般化し、以前では考えられないような大量で多様な情報がやり取りされるようになりました。

このように、大量に流通・蓄積される情報資源であるビッグデータ<sup>※1</sup>やオープンデータ<sup>※2</sup>の活用は、企業等での戦略策定や価値創造に大きく貢献すると期待されています。

しかし、このような可能性の一方で、生活を脅かすような危険性がインターネット社会に潜んでいることも現実であり、ネット社会を生きるための教育の充実などが課題となっています。

#### ◆グローバル化の進展

グローバル化や情報化の進展により、世界中の膨大な量の情報が瞬時に入り、それらによる影響も、より身近なものとなるなど、大交流時代が到来しています。

また、東南アジアやBRICs<sup>※3</sup>などの新興市場が急成長するとともに、安い労働力を求めてアフリカへの工場のシフトが始まるなど、世界市場の一体化が進展しています。

#### ◆世界都市から創造都市へ

21世紀は、「国民国家から都市へ」という社会の大きなパラダイム転換が起きています。ロンドン・パリ・ニューヨークといった「世界都市」と呼ばれる巨大都市のみが注目されるのではなく、小規模でありながらも独自の文化を育て、多様な経済基盤を持つ「創造都市」に対する関心が高まっています。

創造的な産業や、多様性から生み出される文化、そして文化が持つ創造性を包摂的な社会づくりに活かす動きも出ています。

### (2) 静岡市の現況

#### ◆都市の発展のための基盤の整備

静岡市は、平成の大合併を実現し、平成17年に政令指定都市へ移行しました。平成24年には新東名高速道路が開通し、また、国際拠点港湾であり、日本三大美港でもある清水港の機能強化に向けた整備が進んでおり、新しい社会基盤が整ってきています。

#### ◆都市経営の転換点が到来

少子高齢化の影響が顕著になってきており、人口減少社会へ突入しています。

本市においても、高度成長期以降に整備してきた学校や市営住宅などの公共建築物、また道路、橋りょうなど、市民の社会生活の基盤となるインフラ資産の老朽化が進み、今後、一斉に改修や建て替えの時期を迎えるため、多額の費用が必要となる見込みです。

このため、計画的な整備や維持管理を行うことで、これら公共施設の寿命を延ばし、長期にわたって安心・安全に利用できる施設を提供していくという「アセットマネジメント」の取組が大きな課題となっています。

#### ◆命と暮らしを守る市政の推進

東日本大震災以降、市民の安心・安全への希求は、とても大きなものとなっています。このことにより、つながりの重要性を再認識し、地域社会への意識が大きく変わってきています。

特に、静岡市においては、駿河湾から東南海・南海トラフを震源とする巨大地震の発生が予想されているため、地域の防災力を高める必要があります。

また、自然環境に恵まれた静岡市は、環境との共生に対しても大きな責任を担っています。

#### ◆世界水準でのまちみぎの推進

これまで静岡市では、元々ある素材をみがきあげて、最大限に活かすまちづくり、いわゆる「まちみぎ」を推進してきました。これにより、三保松原が、世界文化遺産 富士山の構成資産となり、また、南アルプスがユネスコエコパークに登録されるなど、その価値は世界から認められるまでになりました。

※1 ビッグデータ…情報端末の多様化やクラウドサービスの普及など、ICTの進展により生成・収集・蓄積等が可能となった、大容量で、多様性・多源性・リアルタイム性を持ったデータ群のこと

※2 オープンデータ…機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータのこと

※3 BRICs…ブラジル(Brazil)、ロシア(Russia)、インド(India)、中国(China)の頭文字をつなげた造語

### 3 目指す未来の静岡市

このように、静岡市には「大きなちから」として、先人が築いていた歴史や文化、豊かな自然など、たくさんの恵まれた地域資源があります。

これらの地域資源を最大限に活用し、様々な課題に的確に対応して未来を切り拓いていくため、長期的な視点に立って、新しい時代における静岡市を創るための方向性として「目指す姿」を次のように定めます。

#### <静岡市のちからを活かして、目指す未来の姿>

### 「世界に輝く静岡」の実現

住む人が「誇り」を持ち、訪れる人が「憧れ」を抱く世界水準の都市へ

### 4 これからの市政運営

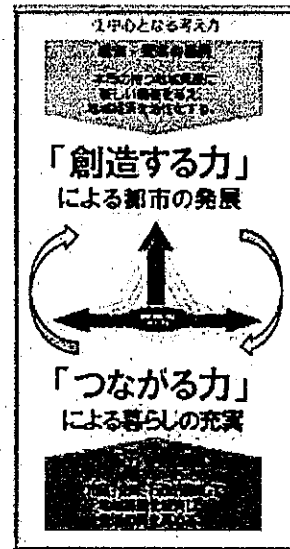
#### (1) 中心となる考え方

「世界に輝く静岡」は、「『創造する力』による都市の発展」と「『つながる力』による暮らしの充実」という2つの視点により、実現を図っていきます。

「『創造する力』による都市の発展」では、多様な地域資源をみがきあげ、新たな価値を創造することで、静岡市の有する文化力を地域の活力、経済力に変えることを目指しています。

「『つながる力』による暮らしの充実」では、市民、企業、行政が連携して地域を支え、安心・安全と暮らしの質が高く、健康長寿で住みよいまちを目指していきます。

「都市の発展」と「暮らしの充実」は、相乗効果を生み出しながら、静岡市のちからを大きくしていくものですので、この2つの視点に立ってこれからの市政を運営していきます。

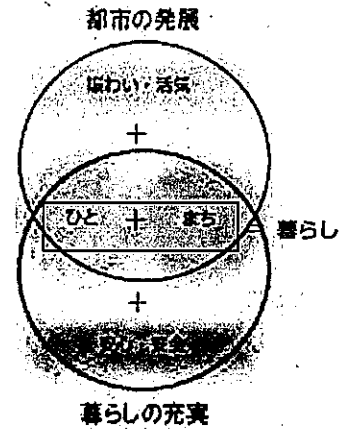


#### (2) 市政運営の構成と方向性

「世界に輝く静岡」の実現のために、必要な要素を①賑わい・活気 ②ひと ③まち ④安心・安全の4つに整理しました。

「ひと」が「まち」で活動すること、すなわち「暮らし」に、「賑わい・活気」が加わることで、「都市が発展」していきます。

また、「暮らし」に「安心・安全」が加わることで、「暮らしが充実」していきます。



それぞれの要素ごとに分野を設定し、それぞれが担う役割を明らかにした上で、市政を運営していきます。

#### ①賑わい・活気

##### 「交流・観光」

国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちを実現します

##### 「農林水産」

山から海の多彩な資源を活かして、人や地域が潤う農林水産の盛んなまちを実現します

##### 「商工・物流」

魅力的な人と企業が出会い、世界に誇れる価値を創造するまちを実現します

#### ②ひと

##### 「文化・スポーツ」

歴史に彩られた静岡の文化を国内外に発信し一人ひとりが輝くまちを実現します

##### 「子ども・教育」

健やかで、たくましく、しなやかに生きる力をもった子ども・若者が育つまちを実現します

#### ③まち

##### 「都市・交通」

快適で質の高いまちの拠点と交通環境を充実させ、新たな交流と活力を生み出すまちを実現します

##### 「社会基盤」

快適な市民生活や活発な経済活動を支える強靱な社会基盤を有するまちを実現します

#### ④安心・安全

##### 「健康・福祉」

誰もが健やかに自分らしく、地域で共に生きることのできるまちを実現します

##### 「防災・消防」

災害から市民の生命や財産を守り、安心・安全に暮らせるまちを実現します

##### 「生活・環境」

人と自然がともに生き、誰もが住み続けたいと思えるまちを実現します

第3次静岡市総合計画  
「基本計画」  
(H27～H34年度)





「『世界に輝く静岡』の実現」を目指して、8年間で取り組む重点プロジェクト

## 「創造する力」による都市の発展⇨経済・産業の振興

1	＜歴史都市＞ 悠久の歴史を誇りとして活かした風格のあるまちづくりの推進
2	＜文化都市＞ 人々が訪れてみたいと憧れを抱く個性あるまちづくりの推進
3	＜中枢都市＞ 世界中から多くの人が集まる求心力の高いまちづくりの推進

4	＜健康都市＞ 市民が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりの推進
5	＜防災都市＞ あらゆる危機に備えた減災力が高い安心なまちづくりの推進
6	＜共生都市＞ 多様な国籍をもつ人々が共に平和に暮らすまちづくりの推進

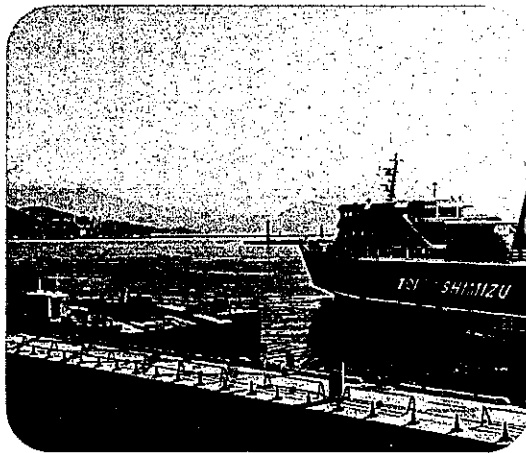
## 「つながる力」による暮らしの充実⇨安心・安全の確保

# 「創造する力」による都市の発展⇨経済・産業の振興



## ＜歴史都市＞ ～悠久の歴史を誇りとして活かした風格のあるまちづくりの推進～

- ① 駿府城公園を中心とした駿府城下町地区に、集客性の高い歴史文化施設を整備するとともに、静岡浅間神社や臨濟寺など徳川家康公ゆかりの地との回遊性の向上に取り組みます。
- ② 駿府城天守閣の再建を目指し、「サグラダ・ファミリア方式」(発掘調査から再建までの途中経過を観光資源化、財源は主に民間からの寄附、作業は市民のボランティア参加)による天守台の整備に着手します。
- ③ 「世界遺産」三保松原地区に、その保全と活用を図るために、国内外の観光客を受け入れ、世界に向けた情報発信を目指す三保松原ビジターセンターの整備を直ちに進めます。



## ＜文化都市＞ ～人々が訪れてみたいと憧れを抱く個性あるまちづくりの推進～

- ① 東静岡地区において、県有地との一体的な活用を図るなど静岡県と連携し、賑わいと交流の核となる文化・スポーツの殿堂の整備を目指します。
- ② 「ウォーターフロント」清水港周辺地区に、産学官の連携により、港町の雰囲気似合った海洋文化の拠点づくりの検討を進めます。
- ③ ユネスコエコパークに登録された南アルプスをはじめ、中山間地域(オクシズ)や駿河湾沿岸地域(しずまえ)が有する豊かな自然や産業、食、芸能など、多彩な地域資源や文化を世界に向けて積極的に発信し、地域の活性化を推進します。



## ＜中枢都市＞ ～世界中から多くの人が集まる求心力の高いまちづくりの推進～

- ① 本市産業をけん引する戦略産業(※1)の創出を推進するとともに、産業競争力の強化に向けて技術力の向上と人材育成などの支援に取り組みます。
- ② 人口増加を目指し、官民連携による空き家・空き店舗の活用策を推進するとともに、雇用・就労に関する地域企業の情報発信を行い、本市への移住・定住を促進します。
- ③ 2020東京オリンピック・パラリンピック事業などの開催を好機ととらえ、交流人口の拡大に向けたMICEの推進や、広域連携の強化に取り組みます。

※1 戦略産業…本市に所在する企業が、世界的な社会経済情勢に適応し、商品やサービスなどの研究・開発、生産を行う、本市経済成長の推進力となるべき産業

# 「つながる力」による暮らしの充実⇨安心・安全の確保



## ＜健康都市＞ ～市民が住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりの推進～

- ① 本市に暮らす人々が、地域で自分らしく生活するため、健康寿命延伸の施策を充実するとともに、**静岡型地域包括ケアシステム**(※2)を構築するなど、世界に誇れる健康長寿の都市を目指します。
- ② すべての子どもたちが笑顔で成長できるよう、また、すべての市民が多様な生き方を選択でき、生きがいや喜びを感じられるよう、**静岡型子ども・子育て支援**(※3)を推進し、日本一子育てしやすい都市を目指します。
- ③ 平坦な地形と温暖な気候を活かし、公共交通機関や自転車の利用促進を図り、環境にやさしく健康的な「歩いて楽しいまち」をハードソフト両面から整備します。

※2 静岡型地域包括ケアシステム…医療、介護、予防、住まい、生活支援を一体的に提供する体制。静岡市では、そのシステムを支える人づくりを積極的に推進する。

※3 静岡型子ども・子育て支援…平成27年4月より、乳幼児期の教育・保育の総合的な提供や、地域の子ども・子育て支援を目的とする「子ども・子育て支援新制度」が全国的に施行される。静岡市は、この新制度のスタートを機に、全国に先駆けてすべての市立幼稚園・保育園の認定こども園への移行、放課後児童対策の強化など、子育て支援環境の充実を図る。



## ＜防災都市＞ ～あらゆる危機に備えた減災力が高い安心なまちづくりの推進～

- ① 発災が危惧される南海トラフ巨大地震に備えるため、津波避難施設の整備をはじめ、消防救急の広域化(※4)やICT技術を活用した災害情報共有システム(※5)の構築などハードソフト両面から、防災対策の一層の充実を図ります。
- ② 災害時においても継続して生活が可能な自立性の高い住居の普及に向けて、**防災スマートタウン**(※6)の整備を推進します。
- ③ 災害リスクや送電ロスの低減、エネルギーの地産地消などの観点から、清水港のLNG(液化天然ガス)基地周辺へのエネルギー関連産業の立地を進めるとともに、太陽光・バイオマス・小水力などの再生可能エネルギーの導入を図り、官民連携による地域エネルギー政策を推進します。

※4 消防救急の広域化…静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町の3市2町により構成される広域消防。静岡市への委託方式により平成28年度より実施。

※5 災害情報共有システム…最新のICT技術を活用して、被害状況等を迅速に収集・整理・公開することにより、関係機関・市民との情報共有を可能にし、救助・救援の迅速化や早期の復旧・復興に貢献するシステム。

※6 防災スマートタウン…耐震性能に加え、太陽光発電システムや燃料電池など自立的エネルギーシステムを備える住宅が整備され、地域内での電力融通が可能な機能を有するなど、被災時でも自宅で過ごすことができる地震に強いまち。



## ＜共生都市＞ ～多様な国籍をもつ人々が共に平和に暮らすまちづくりの推進～

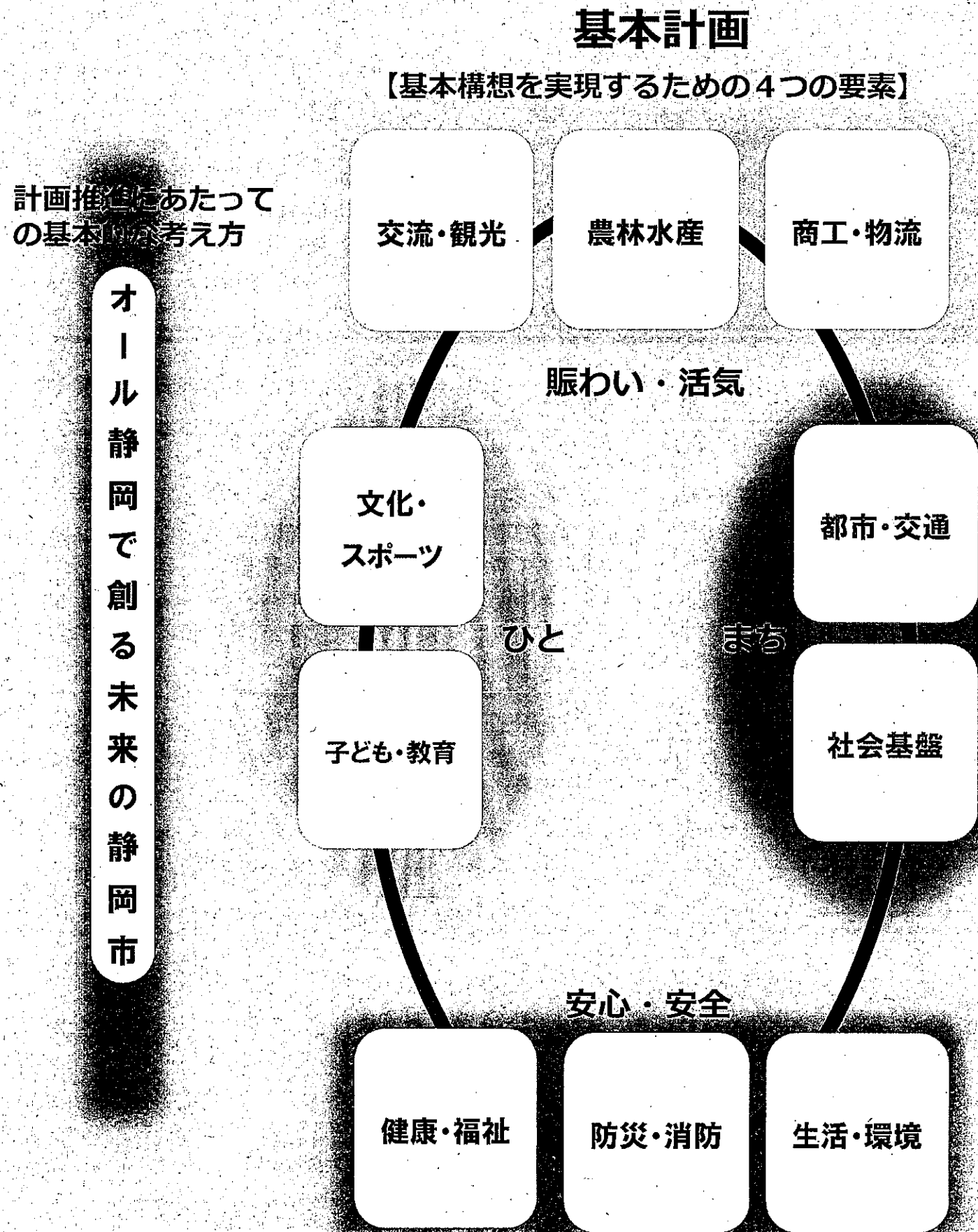
- ① 本市に暮らす人々が、国籍や文化などの違いを乗り越え、「和の精神」をもって仲良く共存できる多文化共生都市の実現を目指します。
- ② 静岡県の「ふじのくに地域・大学コンソーシアム構想(※7)」と連携し、世界各国から本市を目指す若者に優しい留学生支援策を推進するとともに、その受け皿として、大学などの高等教育機関の誘致を推進します。
- ③ グローバル教育の強化を目指して、国際バカロレア(※8)の導入の検討やインターナショナルスクールの誘致を進めます。

※7 ふじのくに地域・大学コンソーシアム構想…静岡県内高等教育機関及び行政等を中心としたネットワーク組織。連携事業等の実施により教育力・研究力の向上を図るとともに地域社会の発展に寄与することを目的とする。

※8 国際バカロレア…インターナショナルスクールや各国の現地校の卒業生に、国際的に通用する大学入学資格を付与する仕組み。

# 3次総基本計画における分野設定

## 【分野の設定】



賑わい・活気	交流・観光	国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちを実現します
	農林水産	山から海の多彩な資源を活かして、人や地域が潤う農林水産の盛んなまちを実現します
	商工・物流	魅力的な人と企業が出会い、世界に誇れる価値を創造する産業のまちを実現します
ひと	文化・スポーツ	歴史に彩られた静岡の文化を国内外に発信し一人ひとりが輝くまちを実現します
	子ども・教育	健やかで、たくましく、しなやかに生きる力をもった子ども・若者が育つまちを実現します
	都市・交通	快適で質の高いまちの拠点と交通環境を充実させ、新たな交流と活力を生み出すまちを実現します
まち	社会基盤	活発な経済活動や快適な市民生活を支える強靱な社会基盤を有するまちを実現します
	健康・福祉	誰もが健やかに自分らしく、地域で共に生きることのできるまちを実現します
安心・安全	防災・消防	災害から市民の生命や財産を守り、安心・安全に暮らせるまちを実現します
	生活・環境	人と自然が共に生き、誰もが住み続けたいと思えるまちを実現します

## オール静岡で創る未来の静岡市

### I みんなで共有する市民自治の意識

#### 1 国際性豊かな世界水準のまちづくり

世界で交通や情報のネットワークが進展し、グローバル化が進む中で、地域においても国際性豊かな世界水準のまちを実現していくため、世界の人々や都市との交流・協力を進め、国際感覚を持った人材育成に取り組んでいきます。

また、世界からの来訪者にとって、居心地のよいまちとなり、選ばれる都市、行きたい都市となるための受入れ環境整備も進めていきます。

#### 2 地域と連携した住民主体のまちづくり

住民主体のまちづくりを実現するため、「地域力」を高めるための支援を拡充します。自治会・町内会等の地域活動に対して、補助金等の既存の支援制度だけでなく、地域で活躍する人材の育成を目指した生涯学習を推進し、地域社会の様々な課題解決のための活動を後押しします。また、子ども、高齢者、障がい者、そして共に寄り添い生きる人々など誰もが地域で自分らしく健康に住み続けられる地域社会を目指します。

#### 3 男女共同参画のまちづくり

男女がともにいきいきと輝く男女共同参画社会を実現するため、女性があらゆる場面で活躍できる環境をつくり、女性の意思決定場面への参画の拡大を支援します。

また、男性の積極的な家事や育児への参加など、男性にとっての男女共同参画の推進を図ります。さらに、労働の場におけるワーク・ライフ・バランスの推進や女性に対する暴力の根絶に向けた取り組みを進めていきます。

#### 4 市民活動促進で協働のまちづくり

「より多くの市民が参加するまちづくり」を実現するため、「交流の場づくり」、「市民活動への参画の促進」、「市民活動の自立を支える環境づくり」、「協働事業の促進」を施策の柱として、市民、企業、NPO等の団体、行政の公共分野を支える主体の自立性とつながりを強化していきます。また、それぞれの主体の得意分野を活かし、協働を進めていくとともに、市民活動への意識を高め、参加を促進していきます。

#### 5 多文化共生のまちづくり

異なる文化や価値観を認め合い、誰もが安心して暮らせる多文化共生社会を実現するため、外国人住民の生活の安定につながる生活基盤の整備と充実を図ります。

また、日本人と外国人の住民双方の多文化共生意識の向上につながる事業を進めていきます。これらの取り組みにより、外国人住民の自主的参加と連携・協働による多様性の強みを活かした地域づくりを推進します。

### II みんなで展開する都市経営の指針

#### 1 行財政改革の推進

行財政改革は、単なるコスト削減を目指すのではなく、住民の豊かさを目指した自治を追求する必要があると考えます。そのため、市民、企業・NPO等の団体、行政がそれぞれの役割と責任のもと、能力を最大限に発揮し豊かな地域社会を実現するために、最適な行財政運営を目指します。

- ◆市民協働・官民連携の推進
- ◆質の高い行政運営の推進
- ◆持続可能な財政運営の確立

#### 2 アセットマネジメントの推進

学校、市営住宅、道路、橋りょうなどの公共施設について、静岡市アセットマネジメント基本方針に基づき、計画的な整備・維持管理や民間活力の導入を進めることで、長期にわたり安心・安全な利用を可能とし、市民サービスの向上と財政負担の軽減を図ります。

- ◆総資産量の適正化
- ◆長寿命化の推進
- ◆民間活力の導入

#### 3 広域行政の推進

急速に進む少子高齢化・人口減少や、首都圏や大都市への人口集中の影響による地域活力の低下が危惧されており、静岡県中部圏の中核都市として周辺市町とのいっそうの連携を図るとともに、より広域的な観点から国・県との連携、協力を推進し、活力の維持・向上を目指します。

- ◆静岡都市圏でのリーダーシップの発揮による圏域の活力維持・向上
- ◆静岡県はもとより、山梨県や長野県地域との連携の強化
- ◆政令指定都市としての国との連携・協力の推進

## 交流・観光

国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちを実現します

### 【分野の役割】

本格的な人口減少社会を迎え、本市の人口も、平成 32 年には 70 万人を下回ることが見込まれ、地域経済の活力減退が懸念されています。

こうした中、観光は、宿泊業、飲食サービス業、旅行業、運輸業、農業・漁業、小売業など関連する産業の裾野が極めて広く、地域経済の活性化に大きなポテンシャルを持っています。

地域特性や地域資源を最大限に活用し、国内外から人を呼び込む観光・交流機能の向上を図ることは、高い経済波及効果や雇用創出効果を生み出すものと期待されます。

そして、本市は、国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちを実現します。

### 【現況と課題】

#### 1 世界レベルの地域資源の活用への期待

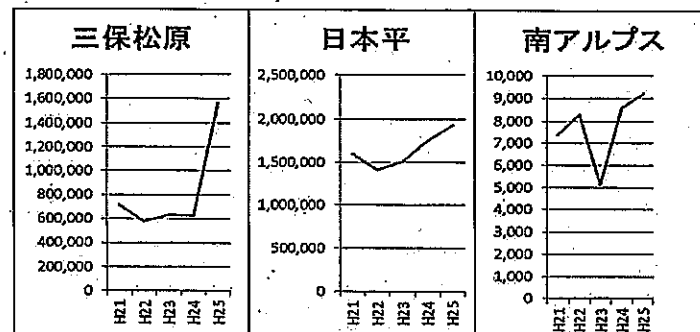
世界に誇るホビー産業、世界文化遺産富士山の構成資産となった三保松原、南アルプスユネスコエコパークなど、本市は世界レベルで評価される地域資源を有しています。また、徳川家康公に代表される歴史資源や、食、自然、スポーツなど他地域に勝る魅力も多くあります。

これらオンリーワンの資源を国内外からの観光客誘致の核として積極的に活用するとともに、自然、歴史、文化などの本市が有する様々な地域資源をさらにみがきあげ、一層の観光振興を図っていく必要があります。

#### 2 交流人口の拡大による地域活性化への期待

観光は、地域が自らを見つめ直し、その魅力を再確認していくことでもあります。こうした地域の主体的な取組は、人々の交流を活発化させ、地域の活性化にとって大変重要です。

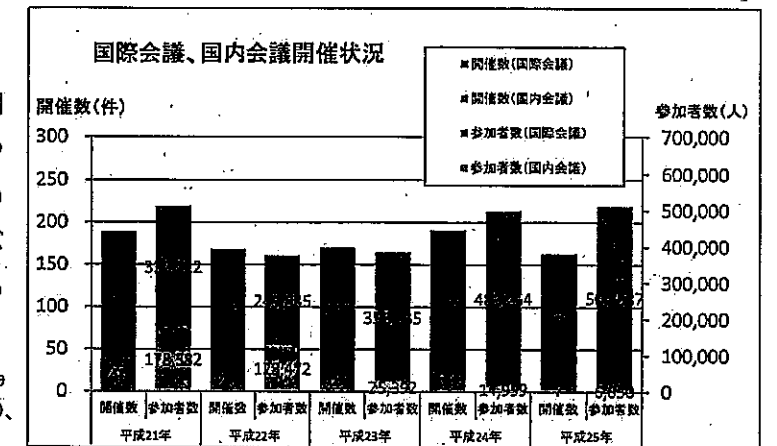
観光入込客数(単位:人)



出典:静岡市調べ

そして、それらの魅力を国内外の人に向けて発信し来訪意欲を高め、また、会議や大会の開催地として売り込むMICE※の誘致を進めることにより、多くの人を呼び込み、本市に経済効果をもたらすことにつながります。

※MICE: Meeting (会議・研修・セミナー)、Incentive tour (報奨・招待旅行)、Convention (大会・学会・国際会議)、Exhibition (展示会)の頭文字をとった造語



出典:静岡観光コンベンション協会調べ

#### 3 急がれる来訪者受入環境の整備

平成 25 年、観光ビザの発給緩和や、国の積極的な経済対策がもたらした円安効果などにより、訪日外国人旅行者数は初めて 1,000 万人を超えました。

しかしながら、外国人のみならず国内旅行者に対しても、本市での充実した滞在のための観光情報や市内を回遊するための交通手段など、受入態勢は十分に整っているとはいえ、本市の観光に魅力を感じていただく上での懸念材料の一つとなっています。

国内外からの来訪者にとって満足できる案内情報の提供や、交通アクセスの充実を図るとともに、来訪者の様々なニーズに応え、安心して楽しい滞在をしていただけるよう、市民や事業者のおもてなしの機運を高めることが急務となっています。

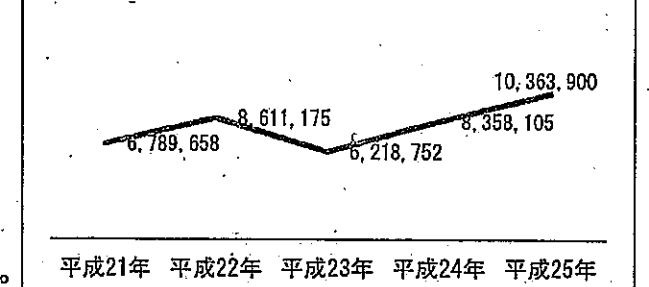
#### 4 求心力の向上が求められる中心市街地

静岡地区中心市街地では、多様な高次都市機能の集積や、質の高いサービスの提供などによる広域拠点性を背景とし、一定の賑わいを創出しています。清水地区中心市街地では、ウォーターフロントをはじめとした地域資源を活かした、賑わい創出に向けた取組が行われています。

しかしながら、静岡地区、清水地区ともに、歩行者通行量が長期的な推移としては減少傾向にあります。

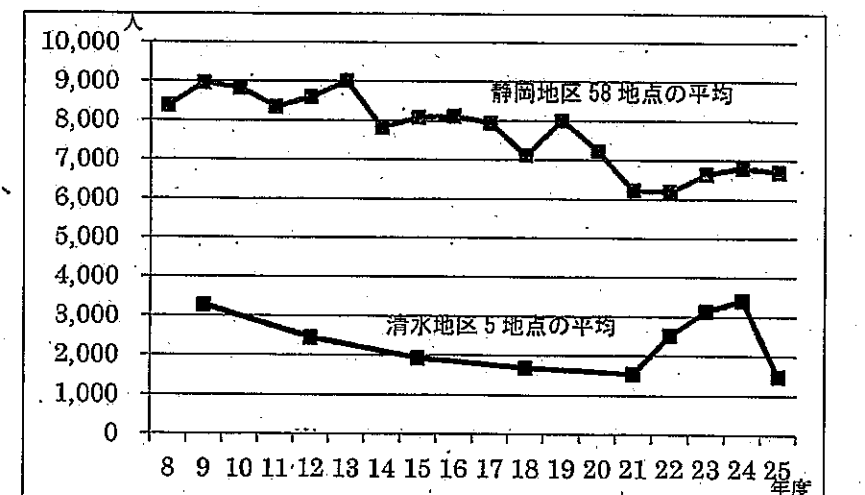
そのため、多様な都市機能の集積を活かしたコンパクトシティの実現やウォーターフロント等の地域資源を活かした取組を実施し、さらに多くの人々が訪れ、楽しめるまちづくりが求められています。

訪日外国人旅行者数の推移(単位:人)



出典:日本政府観光局(JNTO)『訪日外国人旅行者統計』

歩行者通行量の推移(単位:人)



出典:静岡商工会議所『中心市街地通行量調査』

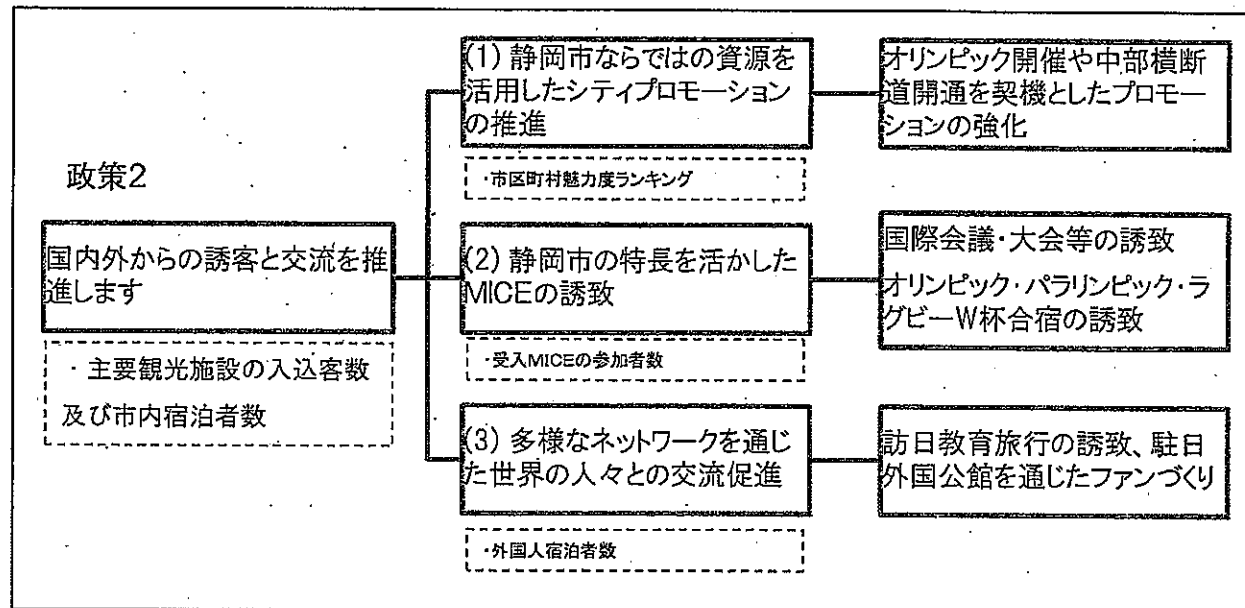
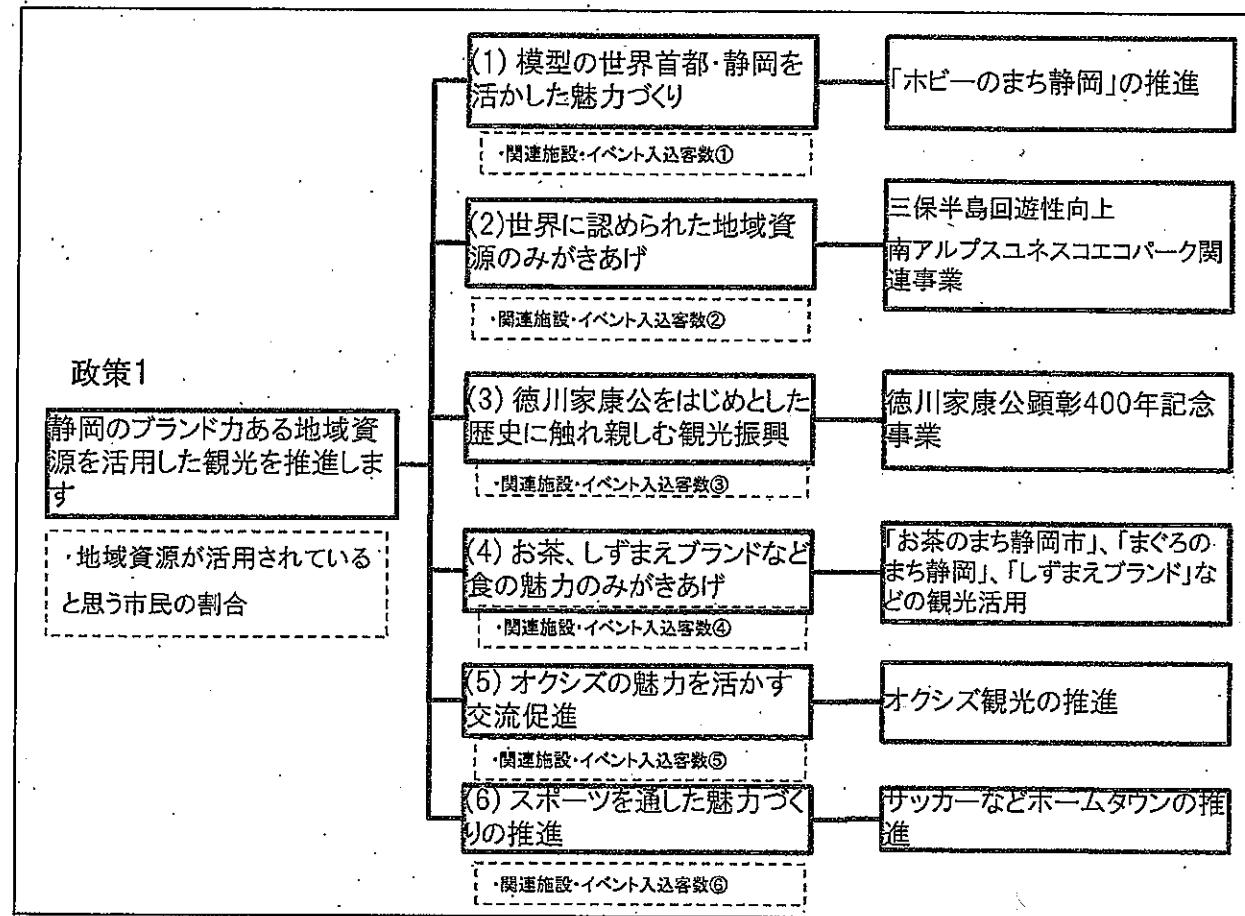
交流・観光

【課題解決に向けた取組の体系】

【政策】

【施策】

【事業イメージ】

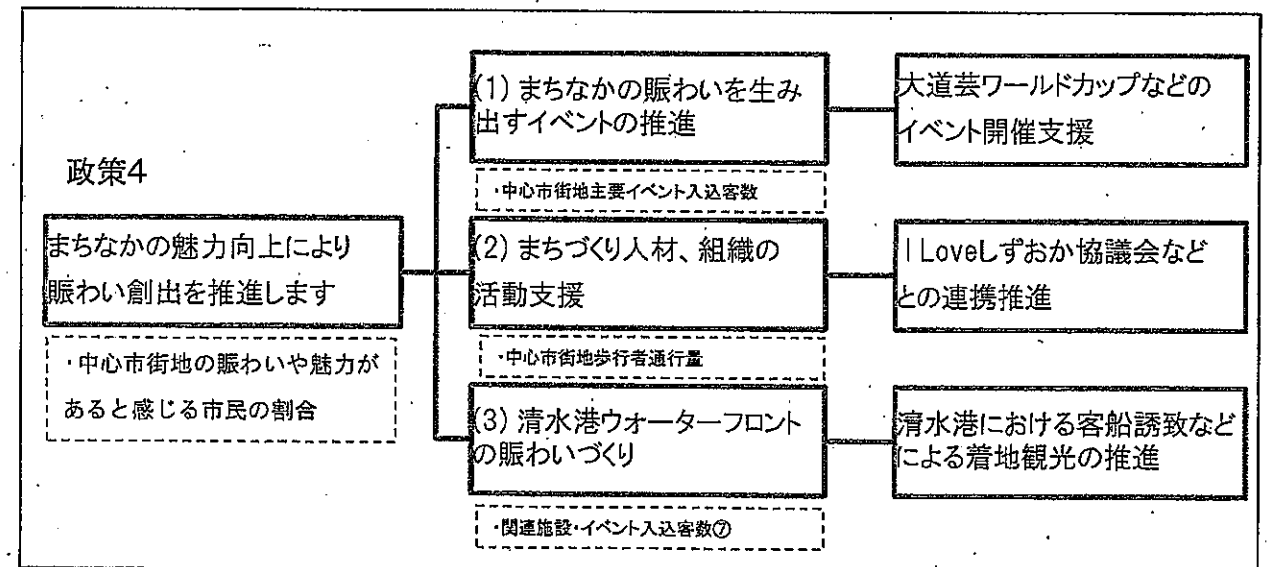
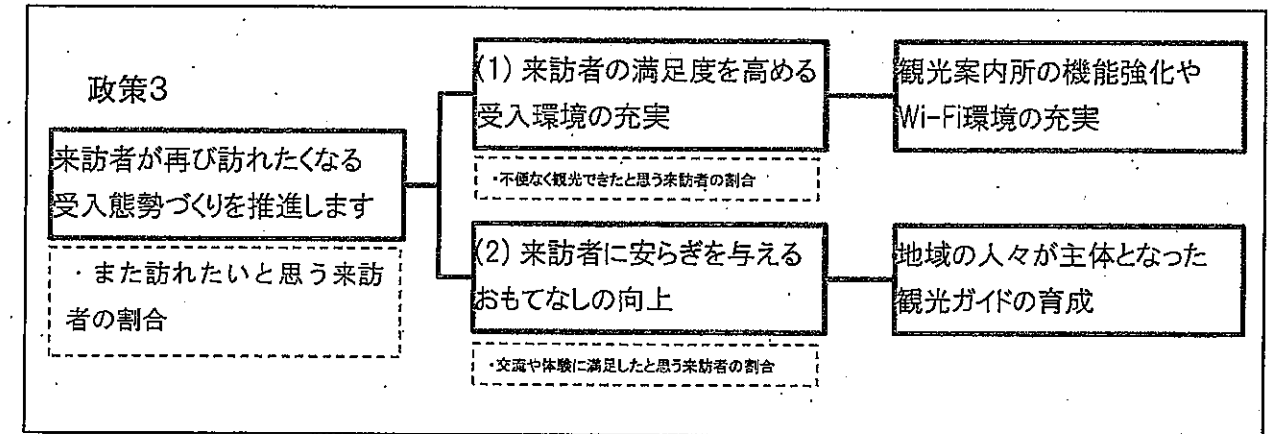


\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。

【政策】

【施策】

【事業イメージ】



## 農林水産

山から海の多彩な資源を活かして、人や地域が潤う農林水産の盛んなまちを実現します

### 【分野の役割】

現在、本市の農林水産業は、生産物価格の低迷による所得の減少、従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など、数多くの課題に直面しています。その一方で、最近では海外の日本食レストランが急増したり、平成25年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、和食の素材である日本の農林水産物やそれらを活かした食文化に対する世界の関心も高まりを見せています。

このような社会情勢を背景に、南アルプスから駿河湾まで多彩な資源を有する本市においては、その地域資源を活かすことにより、次代を担う若者が夢を持って農林水産業を営める環境づくりが求められています。そのため、お茶をはじめ、みかん、わさびなど本市の強みである既存の「静岡市ブランド」の強化や、「オクシズ」「しずまえ」といった新たな地域ブランドの普及・定着化、また、従事者の組織化や効率的な生産基盤の整備などを進め、農林水産業者の所得向上を図ります。

さらに、地域資源の活用を通して、地域活力の向上を図るとともに、洪水防止、水源涵養、大気浄化等の国土や環境の保全、体験学習、レクリエーション等の保健・休養的な機能、伝統文化の保全機能など、農林水産業の持つ公益的機能の維持に積極的に取り組みます。

そして、本市は、山から海の多彩な資源を活かして、人や地域が潤う農林水産の盛んなまちを実現します。

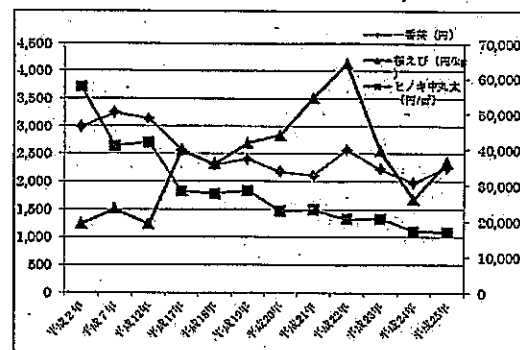
### 【現況と課題】

#### 1 農林水産物の価格の低迷

消費嗜好の多様化などの影響により、お茶などの本市の主要な特産物の価格低迷が続いています。また、TPPなどの国際交渉の影響により、国内外とのさらなる価格競争が見込まれます。

そのため、消費者ニーズに合わせた生産・開発が可能な経営管理体制への転換を図るとともに、商品の差別化や高付加価値化による、農業生産の継続を可能とする適正な生産物価格の確保が求められています。

主要農林水産物の価格の推移



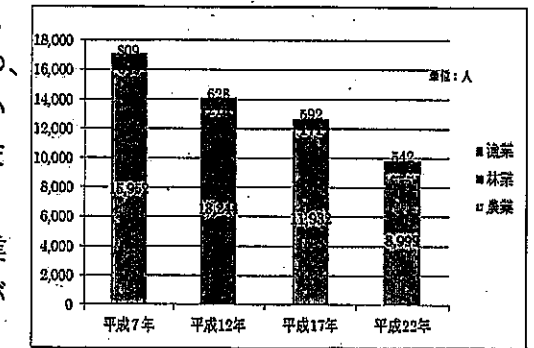
出典：静岡県茶業の現状（お茶白雲）  
静岡県森林・林業統計調査  
由比港漁業協同組合

#### 2 従事者の減少と高齢化

近年、農林水産業の従事者の減少・高齢化が進み、新たな担い手の確保が急務となっています。そのため、若い担い手の確保・育成をするとともに、それら担い手をけん引するリーダーの存在が重要となっています。

また、若者にとって魅力的な就労環境づくりや異業種から新規参入のしやすい受入態勢づくりの整備が必要となっています。

農林水産業従事者数の推移



出典：国勢調査

#### 3 条件不利地を抱える生産基盤

本市農林業の大部分は中山間地域で営まれ、小規模で生産性の低い土地が多くなっています。そのため、生産基盤の整備及び機械化による作業効率の向上と低コスト化が必要となっています。

また、水産業では、東日本大震災以降、漁港施設の安全対策への関心が高まっています。そのため、漁港及び漁港海岸施設の機能強化・安全対策が求められています。

経営規模別農林業家数(平成22年)

農家数	0.5ha未満	0.5-1.9ha	2.0-9.9ha	10-49.9ha	50ha以上	計
全国	474,250	1,004,104	337,688	89,663	93,675	2,009,380
静岡県	12,076	19,441	5,009	1,516	717	38,759
静岡市	1,643	2,214	522	67	15	4,461
全国	23.6%	50.0%	16.8%	17.5%	4.7%	100%
静岡県	31.2%	50.2%	12.9%	3.9%	1.8%	100%
静岡市	36.8%	49.6%	11.7%	1.5%	0.3%	100%

林業数	5.0-10ha	10-50ha	50ha以上	計
全国	65,417	81,386	11,591	158,394
静岡県	14,323	2,535	461	17,319
静岡市	2,019	461	133	2,613
全国	33.0%	30.2%	5.8%	100%
静岡県	72.0%	12.7%	2.3%	100%
静岡市	61.7%	14.7%	2.3%	100%

出典：2010 経済センサス

#### 4 中山間地域等の地域活力の低下

中山間地域では農林業における所得減少の影響などにより、人口減少・高齢化が進展し、耕作放棄地や野生鳥獣被害が増加しています。

また、地域コミュニティが衰退し、これまで農林水産業が担ってきた地域資源の公益的機能の喪失が懸念されます。

そのため、地域の活力を向上させ、安心・安全な地域環境づくりを進めるとともに、長期的視点に立った地域資源の保全や公益的機能の維持に向けた取組が求められています。

中山間地域の人口推移

	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
中山間地域	37,706	35,904	34,054	32,150	30,372
静岡市	713,555	711,215	704,444	710,910	719,329
比較(%)	5.3	5.0	4.8	4.5	4.2

出典：住民基本台帳（各年9月末）



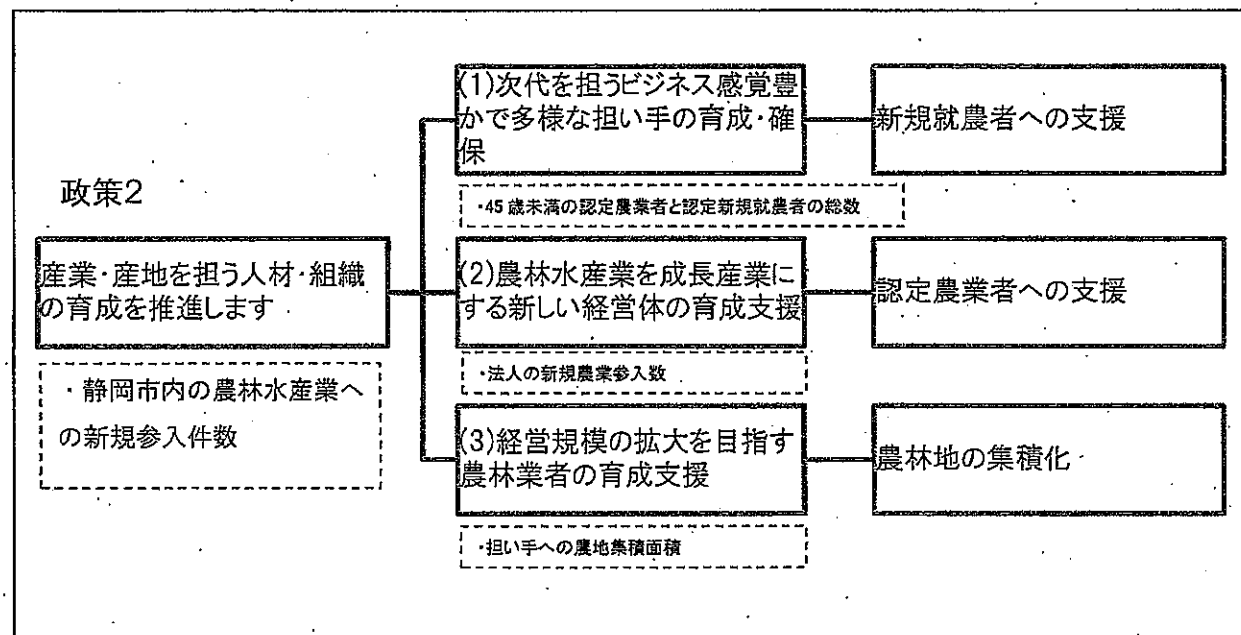
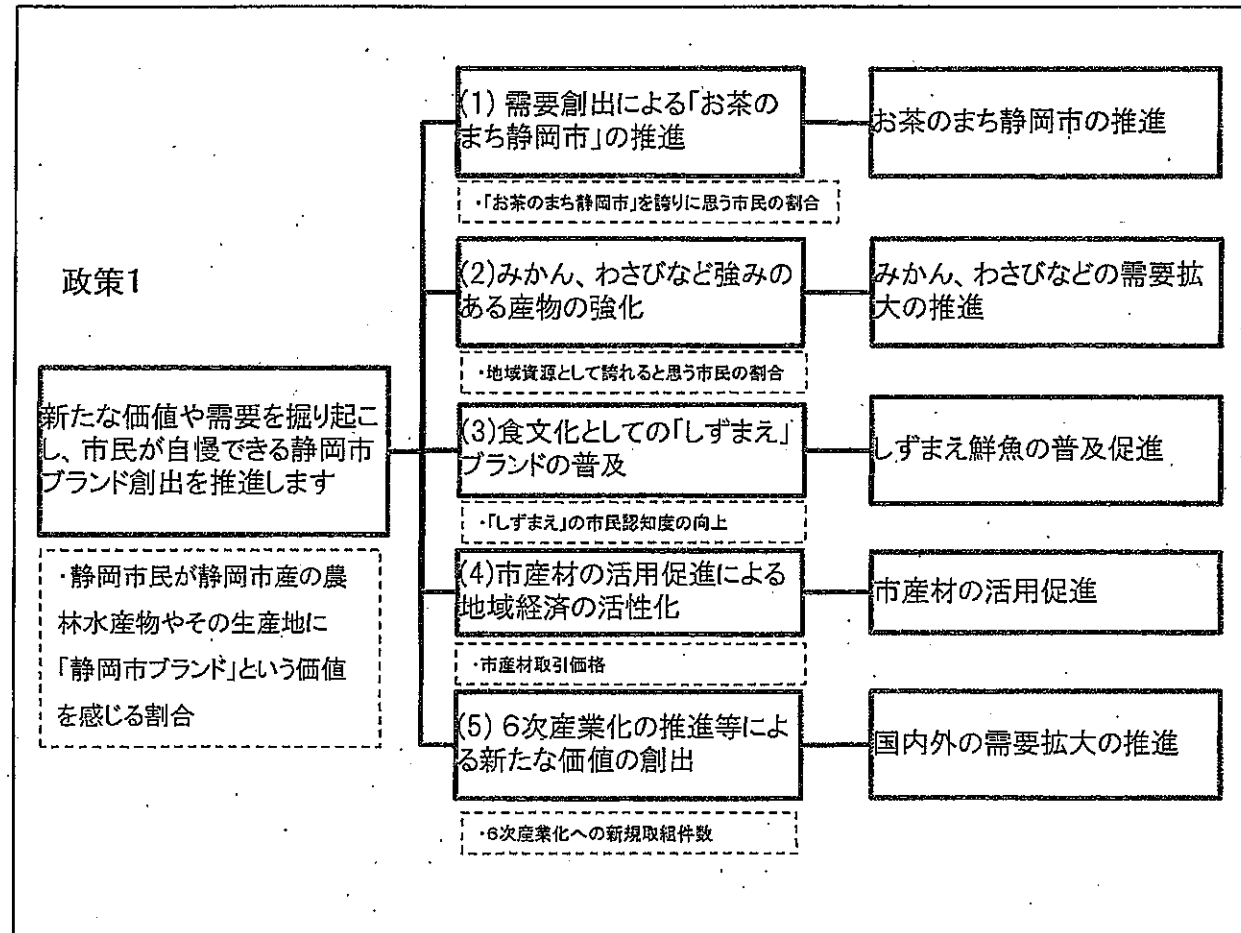
農林水産

【課題解決に向けた取組の体系】

【政策】

【施策】

【事業イメージ】

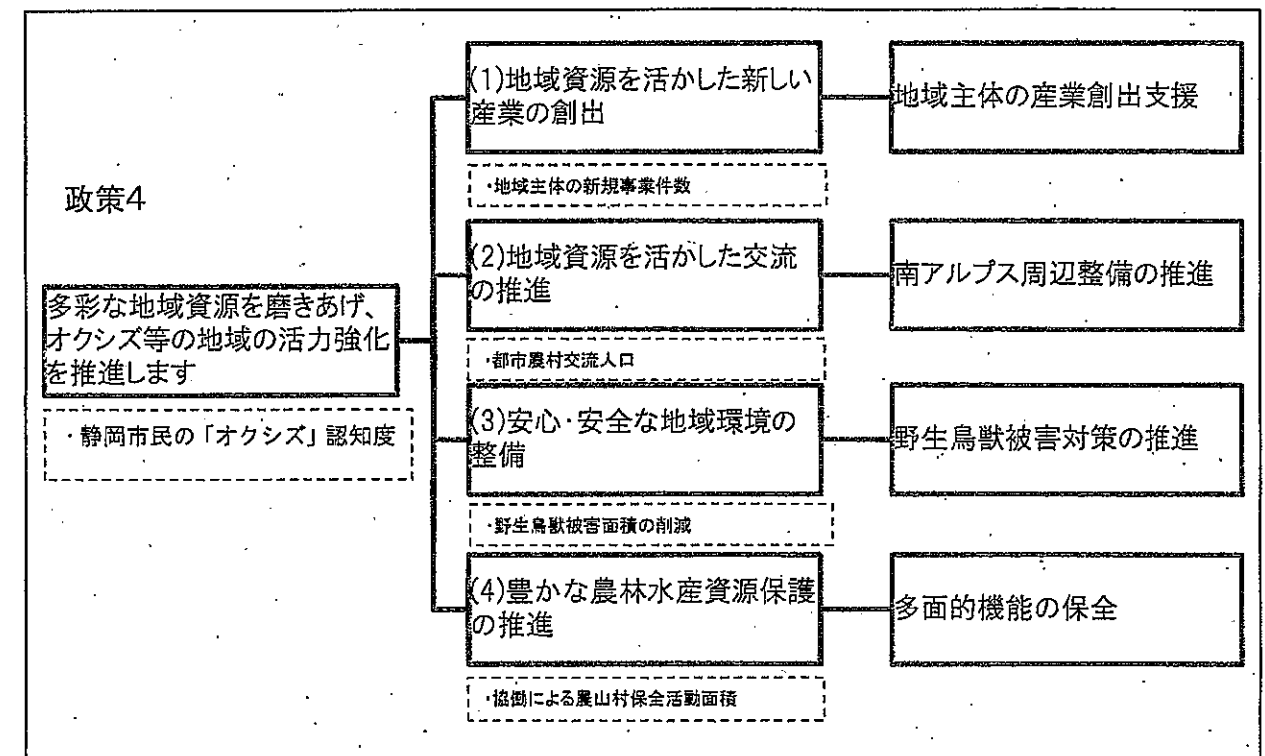
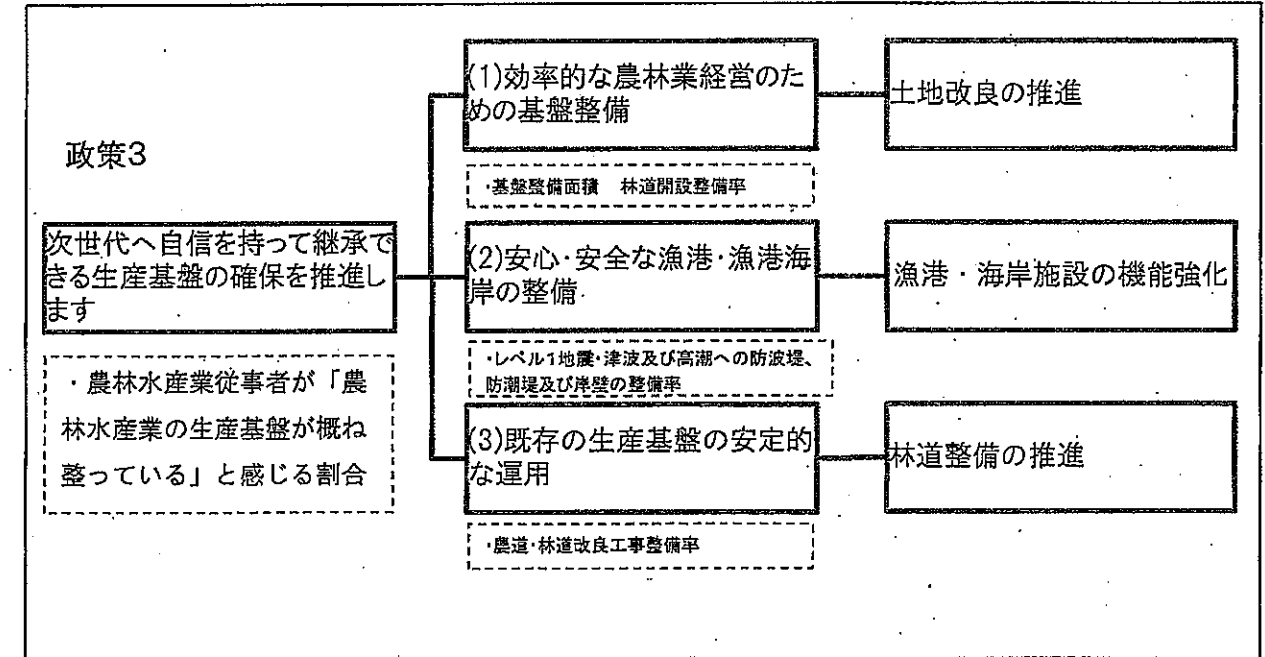


\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。

【政策】

【施策】

【事業イメージ】



## 商工・物流

魅力的な人と企業が出会い、世界に誇れる価値を創造する産業のまちを実現します

### 【分野の役割】

商工業、物流業は、本市の活発な経済活動の源であり、市民の豊かな暮らしと都市の発展を支えるための大変重要な産業です。

わが国のほぼ中央に位置し、東海道や清水港を擁する本市は、古くから政治、経済、文化及び交通の要所であり、今日に至るまで活気あふれる商業都市、港湾都市として栄えてきました。

また、江戸時代以来の伝統と優れた技術による伝統工芸やそれを礎とした家具、木製品、プラスチックモデルなどをつくり出す地域産業、さらに清水港を中心として発展してきた食品関連産業、機械器具製造業など、ものづくり産業の歴史と伝統を有しています。

このような歴史と伝統を背景に、新東名高速道路や中部横断自動車道などの交通ネットワークの充実と相まって、本市産業は、今後もさらなる発展が期待されています。

しかし、少子高齢化や経済のグローバル化の進展などの社会経済情勢の変化により、商工業、物流業を取り巻く環境も大きく変化しています。このような変化は、市民生活や地域経済などに様々な影響を及ぼす一方で、新たな価値を創造する好機として前向きにとらえることもできます。

そこで、本市は、市民の豊かな暮らしやまちの魅力を引き継ぐとともに、魅力ある人と企業が出会い、新たな価値を創造し、世界に発信していく産業のまちを実現します。

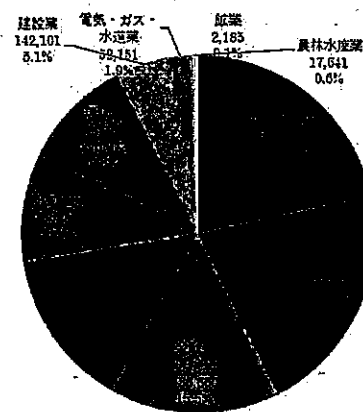
### 【現況と課題】

#### 1 地域経済をけん引する産業の創出

本市の産業構造は、多様な業種によりバランス良く構成されていますが、今後は、知名度があり、販売額や雇用者数などが大きく、本市経済をけん引していく力強い産業の創出と成長が望まれています。

社会情勢を見据えたうえで飛躍が見込まれる潜在能力を秘めた産業を、重点的かつ積極的に強化していかねばなりません。

市内 GDP (単位：百万円)



出典：「しずおかけんの地域経済計算」  
市内総生産・産業の数値より作成

## 2 既存産業の縮小への懸念

本市では、電気機械や一般機械、食品製造などの製造産業のほか、伝統工芸や家具、プラスチックモデルなどの地域産業、小売業をはじめとした商業、清水港を中心とした物流産業が盛んです。

しかし、近年では、経済のグローバル化や国内の人口減による市内市場の縮小により、工場等の市外移転などの懸念があり、本市産業の再興が求められています。企業が、本市で引き続き活動し発展していくためには、自然や歴史、文化などの地域資源の活用や、独自の着想・創意工夫などによる製品の高付加価値化、差別化を図り、企業の競争力を高めていかなければなりません。

市内事業所数/従業者数		H19	H24	単位：箇所/人
製造業	事業所数	1,821	→ 1,582	-239 (13.1%減)
	従業者数	49,334	→ 45,822	-3,512 (7.1%減)
商業 (卸売・小売業)	事業所数	10,625	→ 7,629	-2,996 (28.2%減)
	従業者数	72,375	→ 53,202	-19,173 (26.5%減)

出典：工業統計調査「従業員4人以上の事業所」経済センサス(H24商業のみ)

## 3 大規模社会資本の整備と活用

新東名高速道路や中部横断自動車道などの高規格幹線道路(※1)の整備、清水港の拡充、富士山静岡空港の整備によって、陸・海・空の社会基盤の構築が進むなど、本市の産業にとって良好な環境が整いつつあります。本市の地理的特性や陸・海・空の社会基盤などの優位性を活かして、広く国内外から荷物が効率よく集散する物流機能を強化し、ロジスティクス産業(※2)などの振興や立地を進めなければなりません。

(※1) 高規格幹線道路

全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路

(※2) ロジスティクス産業

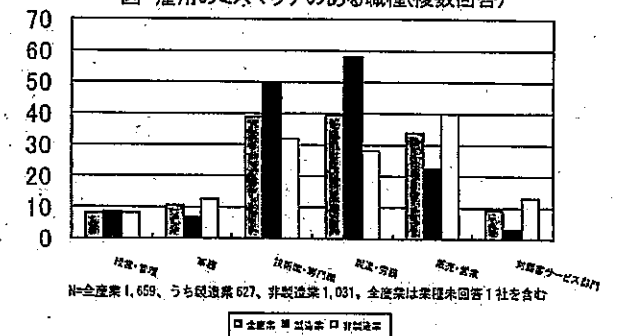
流通・運輸業に加えて、空港や港湾、高速道路などの交通ネットワーク、小売・卸売業、商社これらを支える支援産業を総称したもの

## 4 企業が求める人材の育成と定着

本市では、サービス産業などの3次産業を中心に、多様な雇用の場が創出されていますが、若年層や女性の社会移動の影響による労働力不足が懸念されています。特に中小企業においては、企業の人材ニーズと求職者の就労ニーズのミスマッチが生じています。

社会経済情勢の変化に柔軟に対応し、優れた技術や能力を有する人材を確保・育成するとともに、優れた人材が本市に定着するための環境づくりを行わなければなりません。

図 雇用のミスマッチのある職種(複数回答)



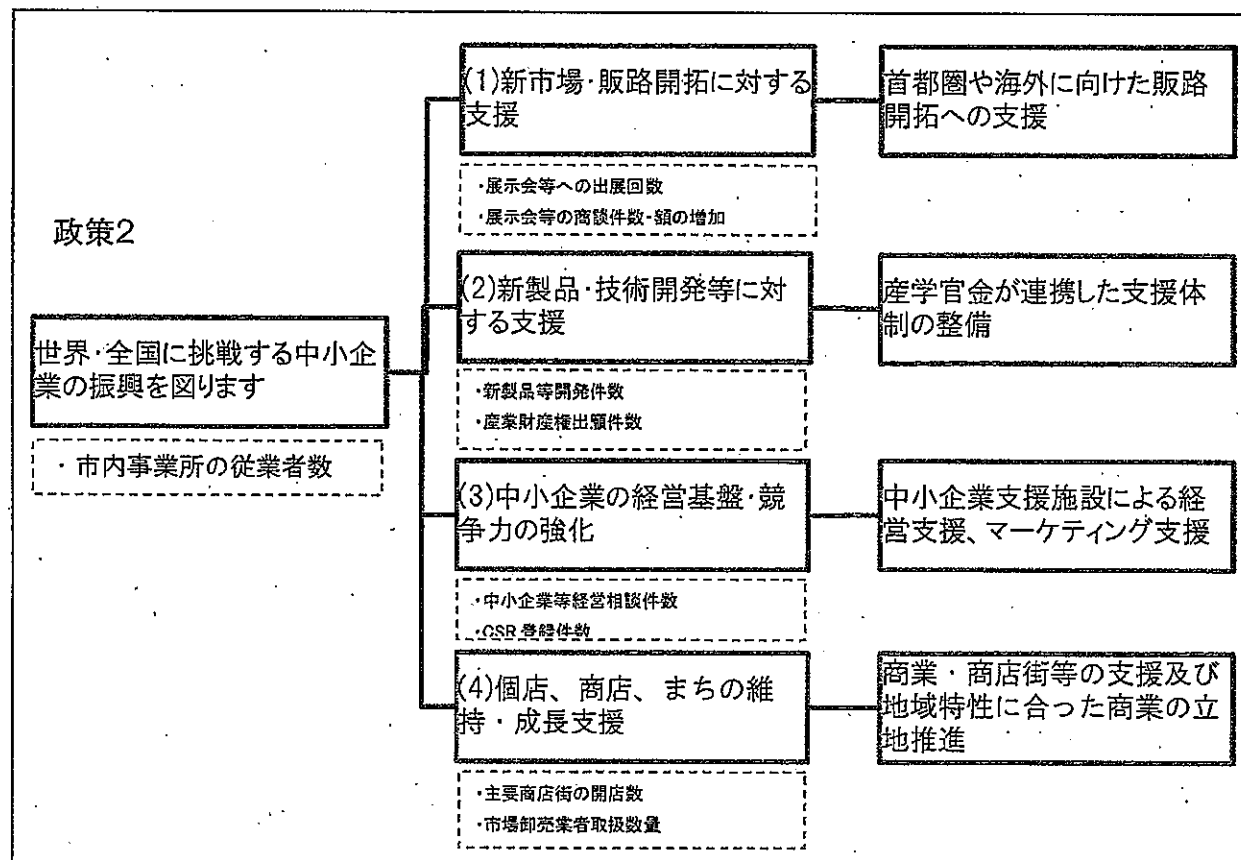
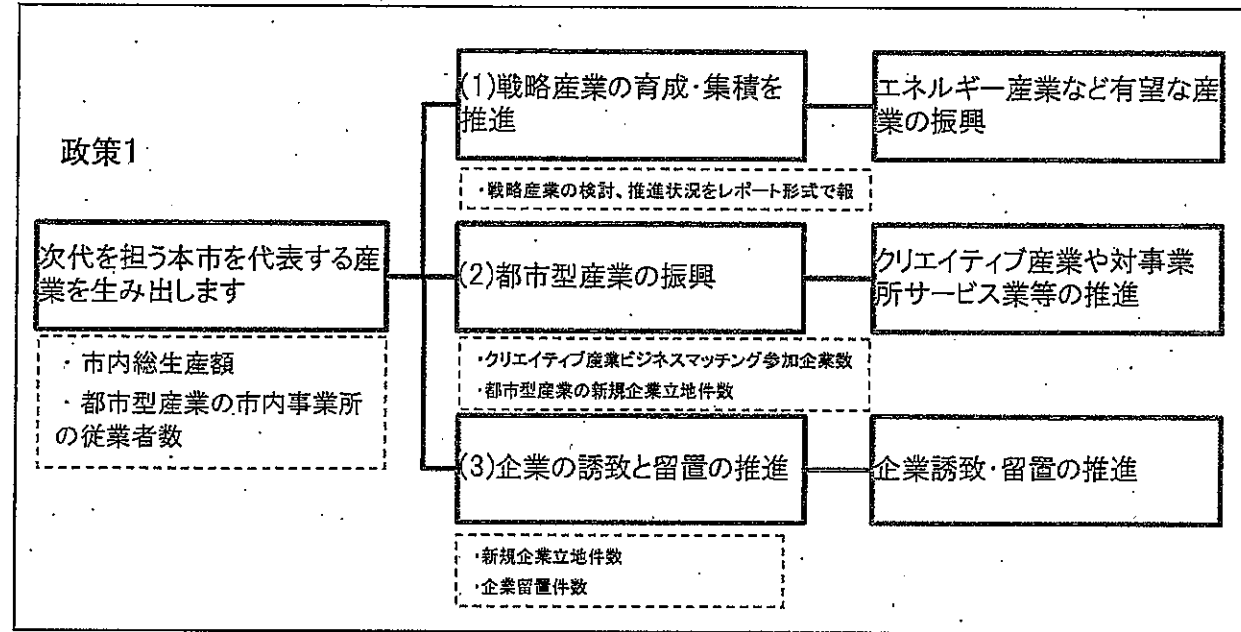
商工・物流

【課題解決に向けた取組の体系】

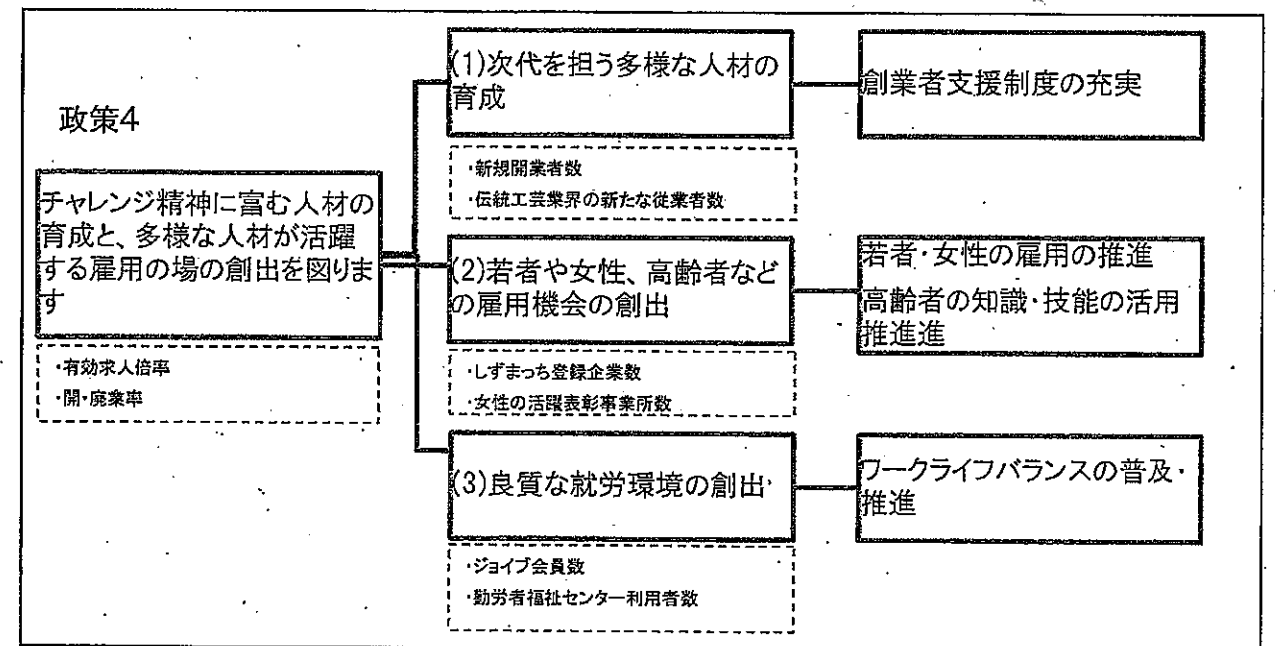
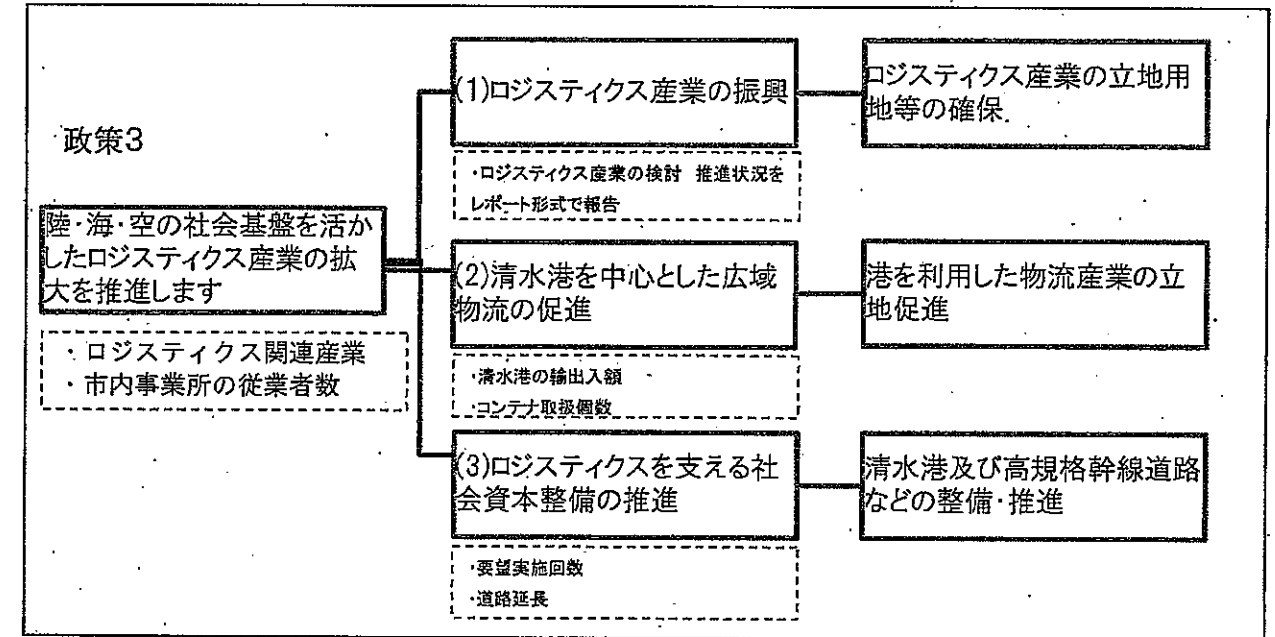
【政策】

【施策】

【事業イメージ】



\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。



## 文化・スポーツ

歴史に彩られた静岡の文化を国内外に発信し一人ひとりが輝くまちを実現します

### 【分野の役割】

歴史、芸術、スポーツ・レクリエーション活動、生涯学習など、文化・学習にかかわる活動は、人々の豊かな心とたくましい体を育むとともに、生活の質を高め、人生に潤いを与えるものであり、まちづくりにも多様な影響や効果をもたらすものです。

本市は、市民が文化・学習に親しむ環境を整備・充実させ、市民が主体的にこれらの活動に参加できるよう支援を行い、市民一人ひとりが輝くまちを実現します。

長い歴史と伝統が息づく本市では、市民による文化創造活動も活発です。世界文化遺産富士山の構成資産である三保松原や、弥生時代の農耕集落跡である登呂遺跡など、市内各地に蓄積された文化財の保護・活用を進めるとともに、文化活動の振興・支援などを通して、全国・世界に向けて静岡の文化を発信していきます。

市民の健康・体力づくりのためには、生涯にわたりスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる環境整備が重要です。ライフステージに応じたスポーツ機会を提供するとともに、全国に誇る競技スポーツの振興に努めていきます。スポーツによる交流の活性化を図るため、2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う合宿を誘致するなど、世界レベルのスポーツ大会の開催等に取り組んでいきます。

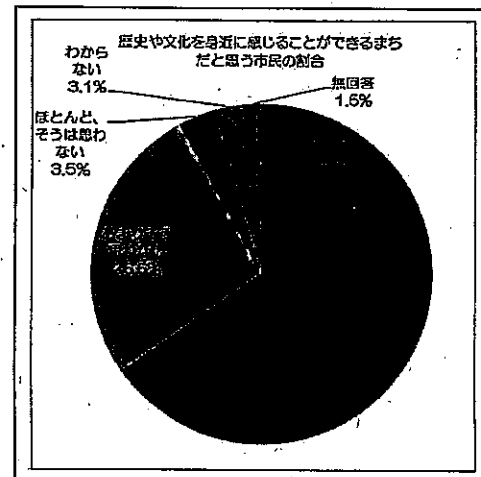
地域社会では、すでに幅広い年代の市民による生涯学習活動が行われていますが、多様な個人の学びを充実しつつ、その成果をまちづくりに活かすよう支援していきます。

### 【現況と課題】

#### 1 歴史的・文化的資産の保全と活用に対する機運の高まり

本市は、縄文時代・弥生時代から育まれた地域文化を基礎とし、古墳時代を経て国府が置かれ、以来、今川・徳川時代と歴史の変遷の中心にあった悠久の歴史都市であり、貴重な歴史的資産が豊富にあります。しかし、歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思う市民の割合は65%に留まっています。

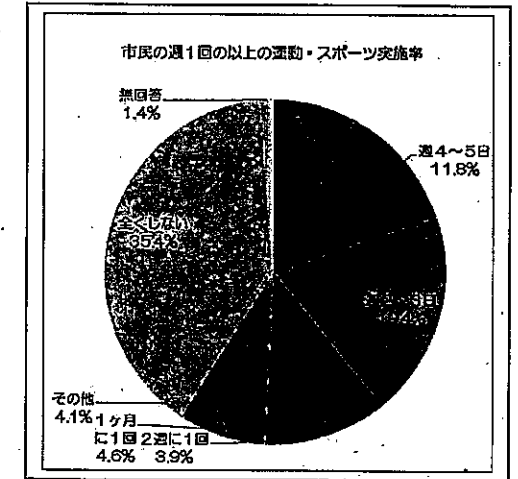
より多くの市民が地域の文化財に親しむ環境を構築し、ひいては本市を国内外にアピールしていくため、文化財を保存・継承、活用し、その価値の発信に努めることが求められています。



#### 2 市民の運動・スポーツ実施率の伸び悩み

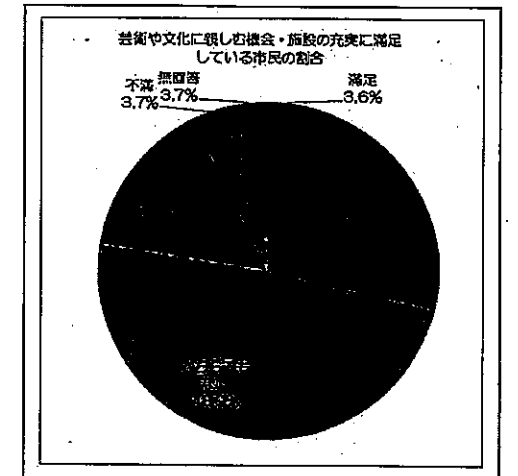
スポーツは、市民が心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものです。週1回以上運動・スポーツを行っている市民（成人）の割合は、平成21年に50.4%であったのに対し、平成25年度は50.7%に留まっています。

世界レベルのスポーツイベントの誘致により、市民のスポーツに対する意識を高めるとともに、市民一人ひとりがスポーツに取り組みやすい環境を整え、だれもが参加したくなるスポーツイベントを開催するなど、スポーツ参加機会の拡充が必要です。



#### 3 芸術文化活動に対する市民満足度の向上と環境の整備

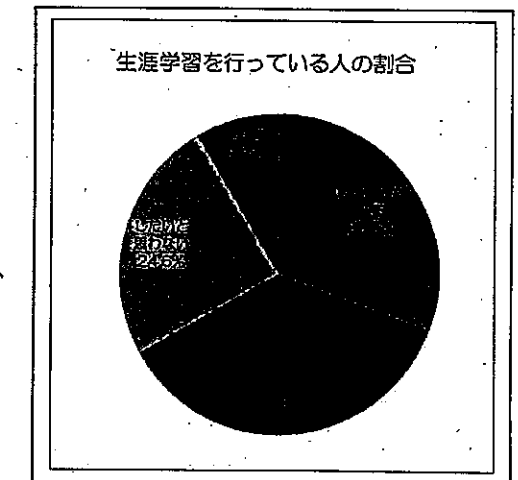
芸術文化は、市民の生活に潤いをもたらすだけでなく、地域に多様な影響や効果をもたらす、まちづくりに寄与するものです。しかし、芸術文化活動に対する市民の満足度は低く、また施設も老朽化が進んでいます。市民が世界中の多彩な芸術文化活動に触れ、また交流を推進することにより、芸術文化活動に対する市民満足度を上げていくことが必要となります。あわせて、芸術文化活動をより一層推進するための環境を整備することが望まれています。



#### 4 生涯学習に対する市民のニーズの高まり

市民意識調査において、1年間に生涯学習を行ったと答えた割合は30%に留まり、全国平均の57%を大きく下回っています。一方で生涯学習を行ってみたいと答えた割合を合わせると67%となっています。

生涯学習に関する潜在的ニーズに応えるため、だれもが、いつでもどこでも学べる環境を整えるとともに、学んだ成果を活かして、社会に参加できるような循環型の生涯学習社会を構築していく必要があります。



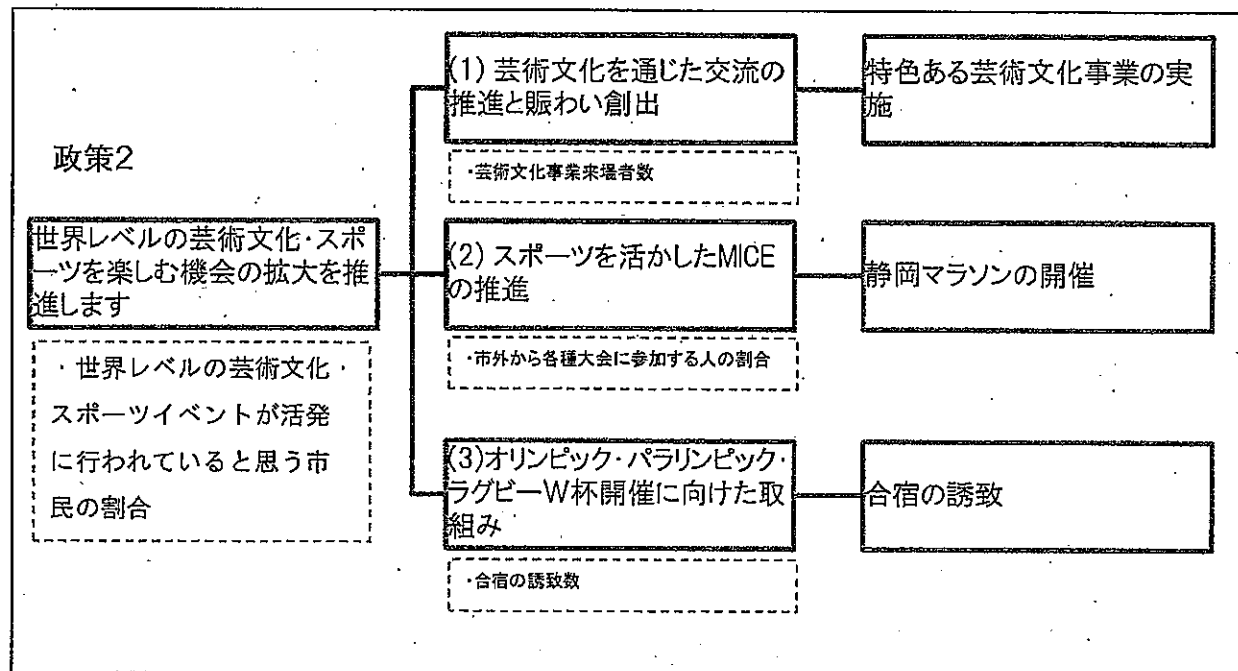
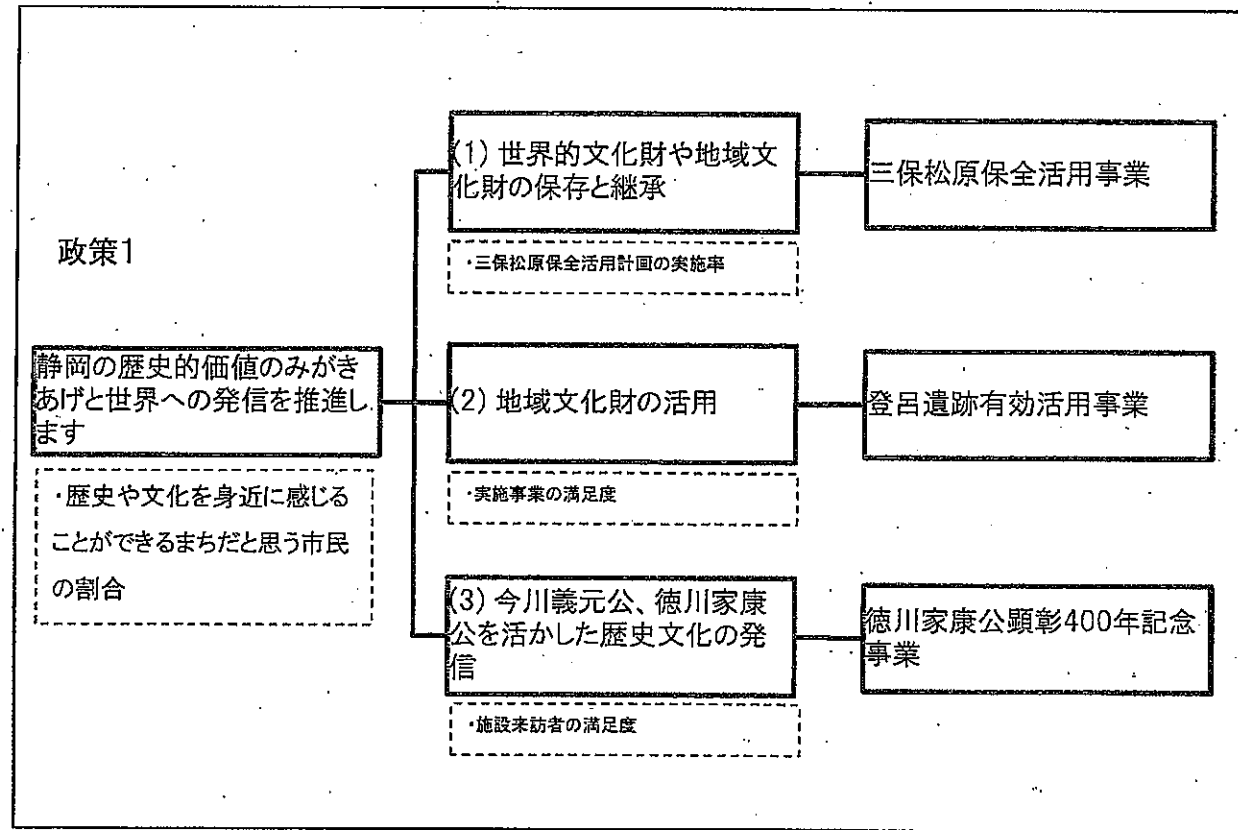
文化・スポーツ

【課題解決に向けた取組の体系】

【政策】

【施策】

【事業イメージ】

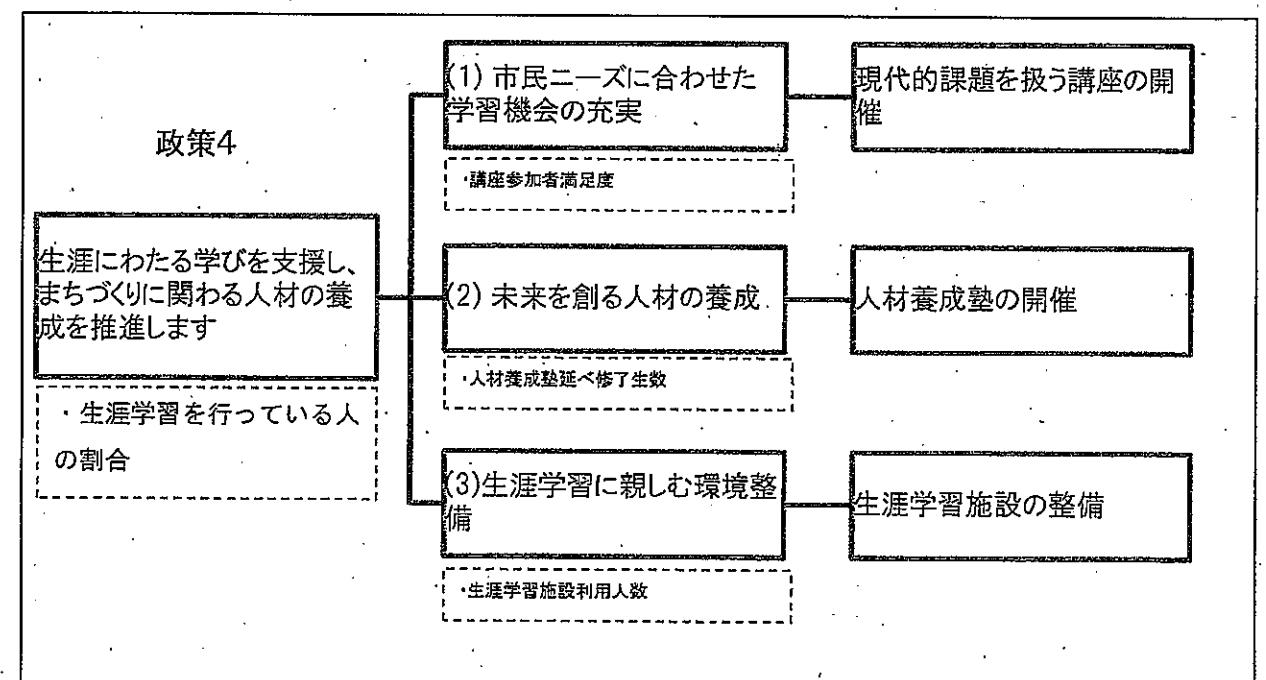
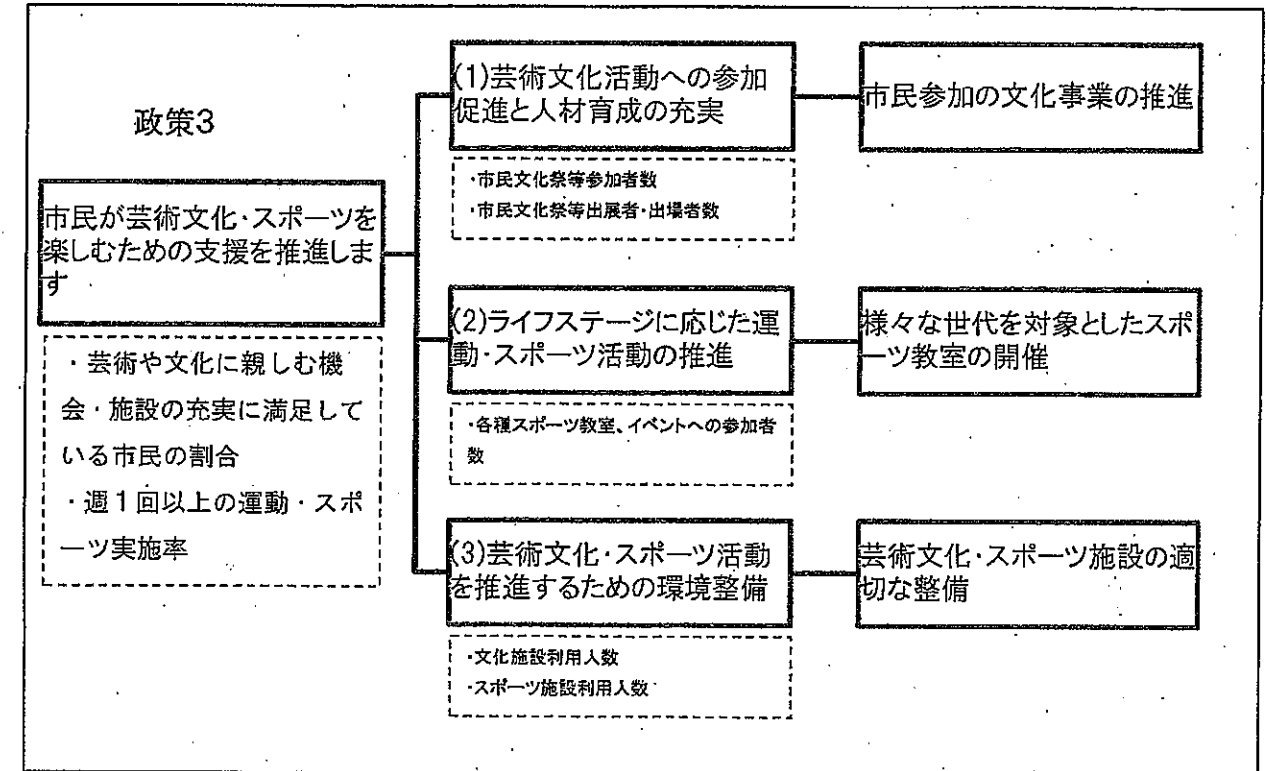


\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。

【政策】

【施策】

【事業イメージ】



## 子ども・教育

健やかで、たくましく、しなやかに生きる力をもった子ども・若者が育つまちを実現します

### 【分野の役割】

これからの未来を創る子どもたちが、よりよい環境の中で、健やかに、たくましく、しなやかに生きる力もち育つこと、それは社会全体の切なる願いです。

急速な少子化・高齢化による人口減少の中、経済・雇用環境の変化、核家族化・地域コミュニティの希薄化による家庭や地域の子育て力の低下、また情報化がもたらす様々な影響など、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化しています。

一方で、ヒト・モノ・カネ・情報や、様々な文化・価値観が世界中を行き交うグローバル化のうねりは、より大きなものになるうとしています。

このような社会状況の中、静岡市は活気あふれる未来を切り拓くため、ゆるぎない信念を持って「しずおか」の総力を結集し、安心して子どもを産み、育てられるまちづくりを推進していきます。

また、人や社会とのつながりに喜びを感じ、それぞれが持つ力を社会で十分に発揮できるよう、すべての子ども・若者が、その置かれた環境にかかわらず、生き活きと輝ける環境づくりを推進していきます。

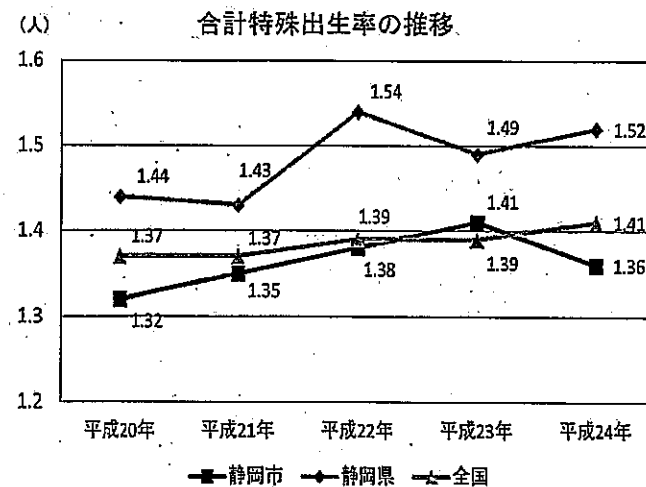
さらに、子どもたち一人ひとりを大切にされた教育を進め、学校、家庭、地域が連携し、「社会を生き抜く力をもった子どもたち」を育むとともに、地域社会や世界で活躍する人材、そして、市域を超えた発想で本市の発展をけん引する人材を育てていきます。

### 【現況と課題】

#### 1 少子化社会、子ども・子育て支援ニーズの多様化

近年の急速な少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加や雇用状況の変化など、子どもと家庭を取り巻く環境は大きく変化し、子育てに関する支援ニーズは多様化しています。

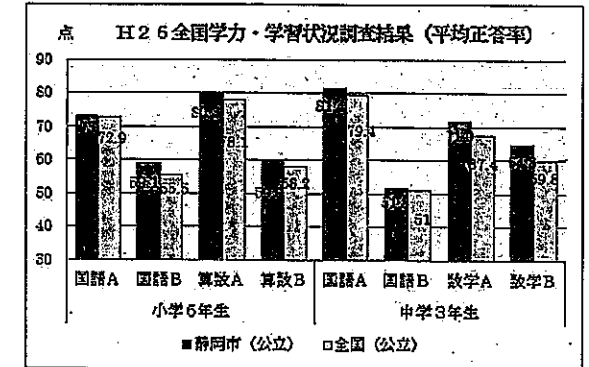
働きやすく、産み、育てやすいまちを実現するため、支援ニーズを的確に把握し、支援の質・量ともに充実される必要があります。



#### 2 さらに求められている学力・体力・道徳心の向上

学力調査の結果によると、本市の子どもたちには課題解決のための思考力・判断力・表現力のさらなる向上が必要です。また、体力調査の結果からは、バランスのとれた基礎体力の育成が求められます。

変化が激しい現代社会においては、基礎的な学力・体力とともに、自ら考え主体的に判断し行動できる力、他人を思いやる心や豊かな人間性など、バランスのとれた子どもの育成が必要不可欠です。



#### 3 グローバル化の進展などに対応した人材育成

ヒト・モノ・カネ・情報や、様々な文化・価値観が世界中を行き交うグローバル化の波は、確実に本市にも押し寄せ、地域社会も大きく変化しています。

義務教育から高等学校教育を通じて、郷土を愛する心の育成や英語によるコミュニケーション能力の向上など、子どもたちにグローバル社会に対応できる基礎的な力を身に付けさせるだけでなく、地域社会の発展を支える人材として育成する必要があります。

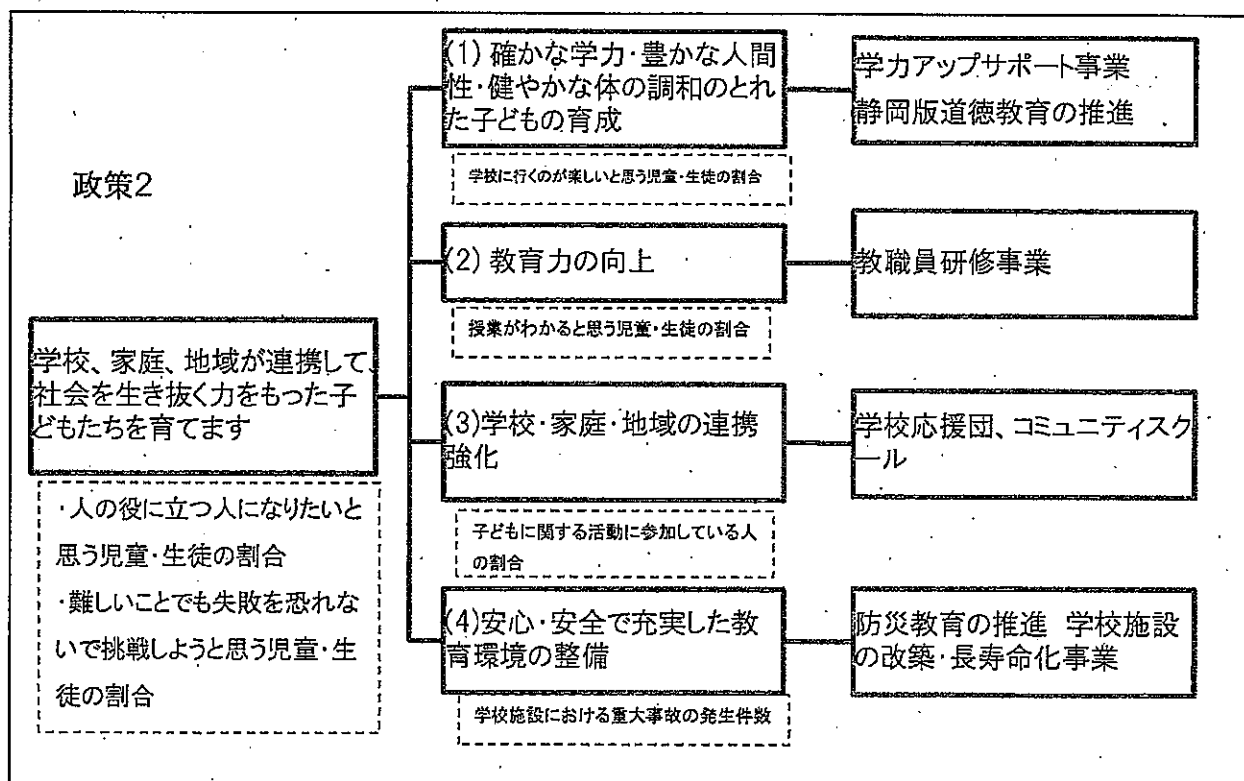
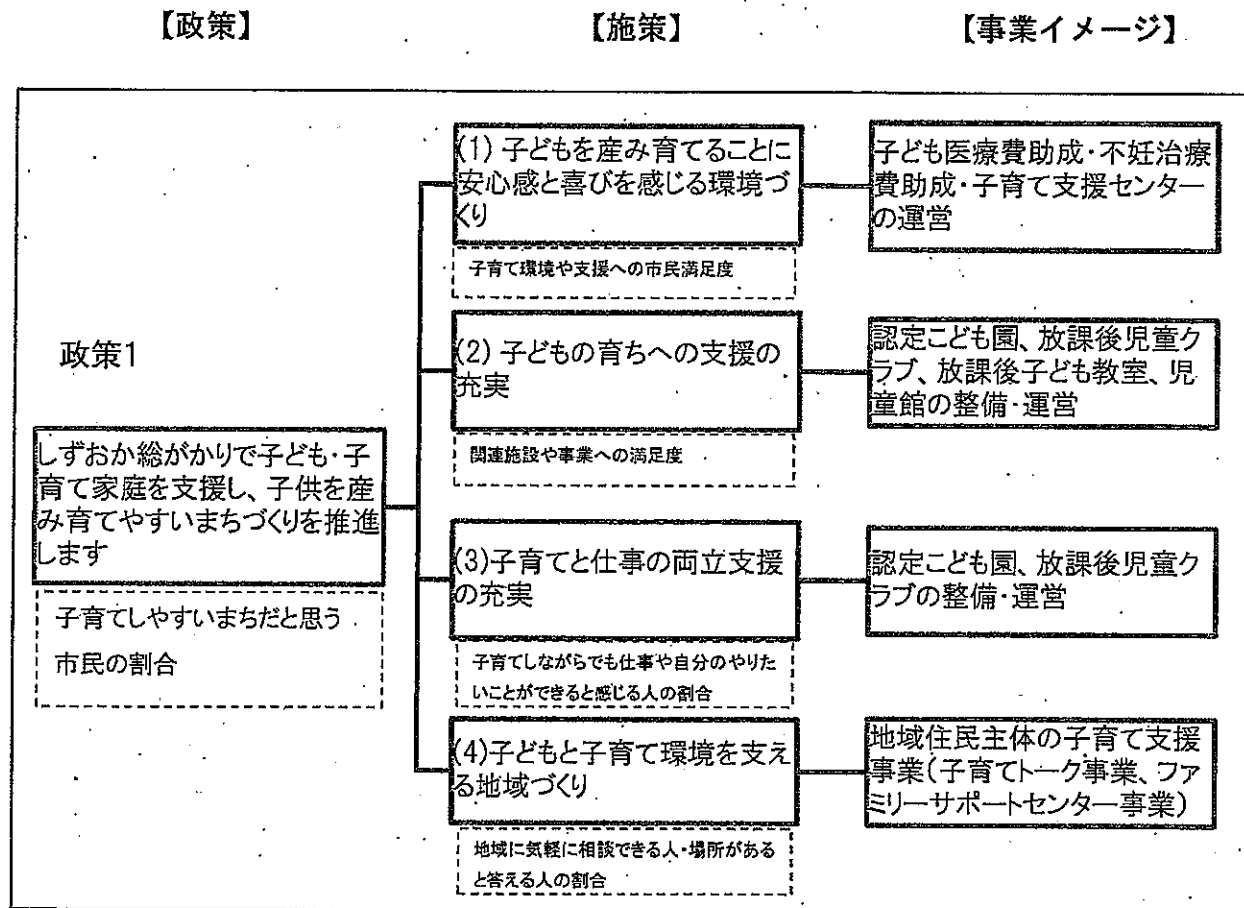
#### 4 子ども・若者を取り巻く環境の変化

経済・雇用環境の変化、核家族化・地域コミュニティの希薄化による家庭や地域の子育て力の低下、また情報化が子ども・若者にもたらす様々な影響などを背景として、児童虐待・いじめ・不登校・ニート・ひきこもりなどの問題が生じています。

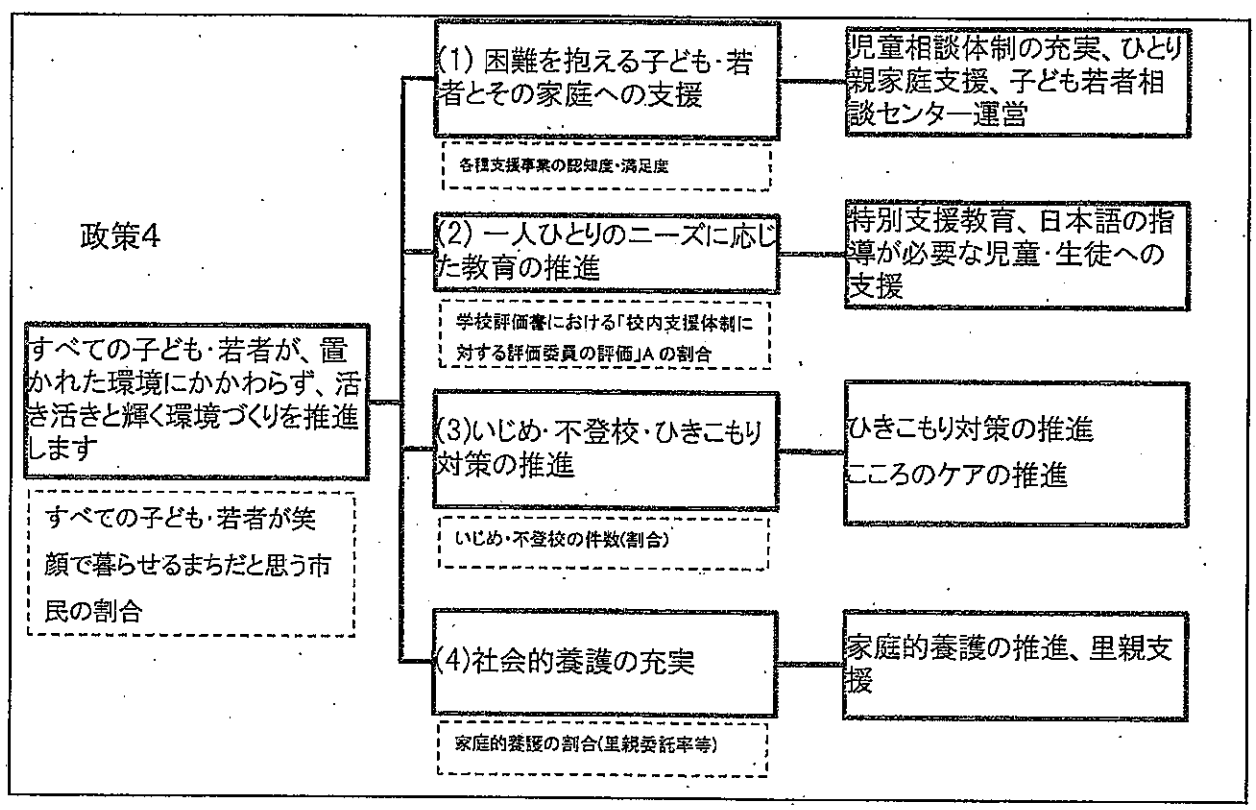
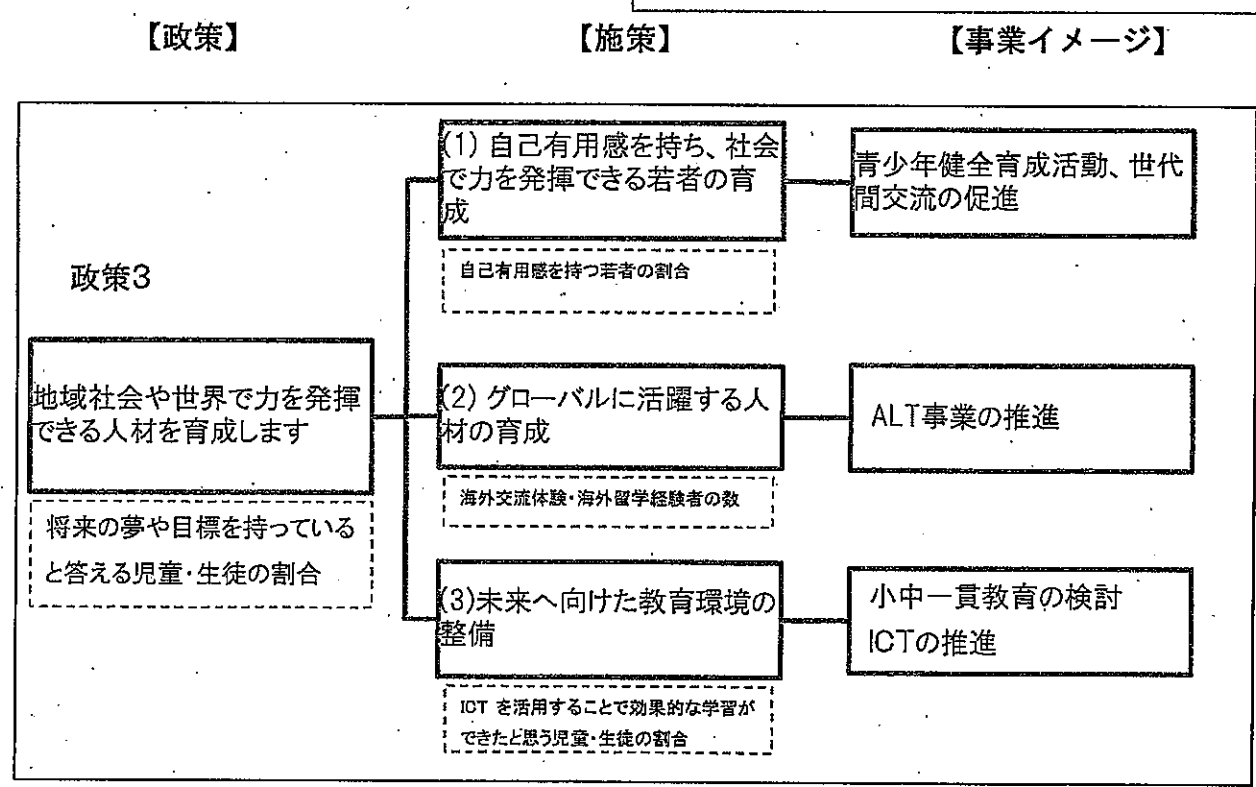
すべての子ども・若者が健やかに成長し、生き活きと幸せに生きていく力を身に付けられるよう、社会全体で見守り支え合う環境づくりが必要となっています。

子ども・教育

【課題解決に向けた取組の体系】



\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。



## 都市・交通

快適で質の高いまちの拠点と交通環境を充実させ、新たな交流と活力を生み出すまちを実現します

### 【分野の役割】

本市では、これまで、県都にふさわしい都市基盤を構築するため、都市拠点の整備、交通軸の整備、市街地の整備を重点的に行い、都心・副都心を中心とした東西に広がる都市構造を充実させてきました。

今後は、都心・副都心の魅力に磨きをかけるとともに、広域交通の新たな玄関口となる中部横断自動車道の開通や大谷・小鹿地区の東名高速道路新インターチェンジの設置を見据え、三保松原周辺、清水港ウォーターフロント、東名高速道路新インターチェンジ周辺などの交流拠点の整備を進めます。

整備にあたっては、より高い効果や付加価値を創出するため、多様な主体による地域づくり、いわゆる「新しい公共」を念頭に置き推進していきます。

これらの基盤整備を有機的に結び付け、市民の生活の足として、また観光に訪れた方々も快適に移動できるよう、鉄道、バス、自転車の利用環境を充実させ、超高齢社会・低炭素社会に対応した交通ネットワークの構築を目指します。

また、市民の「暮らしの充実」につながる、建築物の耐震化や身近な公園の整備等に取り組み、安心とうるおいが感じられ、市民が「誇り」を持てるまちづくりを進めていきます。

このように、快適で質の高いまちの拠点と交通環境を充実させ、新たな交流と活力を生み出すまちの実現を目指します。

### 【現況と課題】

#### 1 「まちの顔」となる都市拠点のさらなる魅力向上

静岡・清水の両都心の来訪者数は減少傾向にあるものの、静岡都心は、商業、業務、情報などの都市機能の集積で一定の賑わいがあり、清水都心は、都心に接する豊かな水辺空間を活用したまちづくりが進められています。

また、東静岡副都心は、区画整理事業の完了を控え、計画の総仕上げを行っています。これら都市拠点において、さらなる交流と活力の向上を図るため、都市機能や各地区の回遊性を高めるとともに、市民、地域、企業、行政が一体となってまちづくりに取り組むことが必要です。

#### 2 「地域の特色に応じたまちづくり」への気運の高まり

JR草薙駅・安倍川駅周辺では、地域の拠点にふさわしい駅舎や駅前広場などの整備とともに、地域主体のまちづくりが進められています。

大谷・小鹿地区では、東名新インターチェンジの整備が進み、新たなまちづくりへの期待が高まっています。三保松原や日本平では、世界遺産富士山の構成資産や富士山を望める名勝地にふさわしい環境整備が進められています。

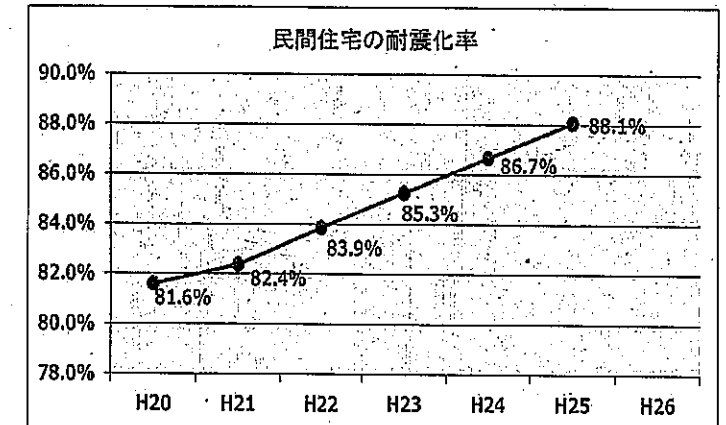
これらの取組を通じて、市全体の活力向上や市民生活の利便性の向上を図り、地域の特色に応じた持続的なまちづくりにつなげていくことが必要です。

#### 3 安全で快適な住環境の確保

発生が危惧される南海トラフ巨大地震への備えとして、民間住宅等の建築物の耐震化が急務となっていますが、目標とする耐震化率には至っていません。

また、市民の憩いの場として、生活を豊かにする身近な公園が不足しています。

誰もが安全・快適に過ごせる住環境を実現するために、建築物の耐震化、長期優良住宅などの高性能住宅の普及促進、公園整備が必要です。



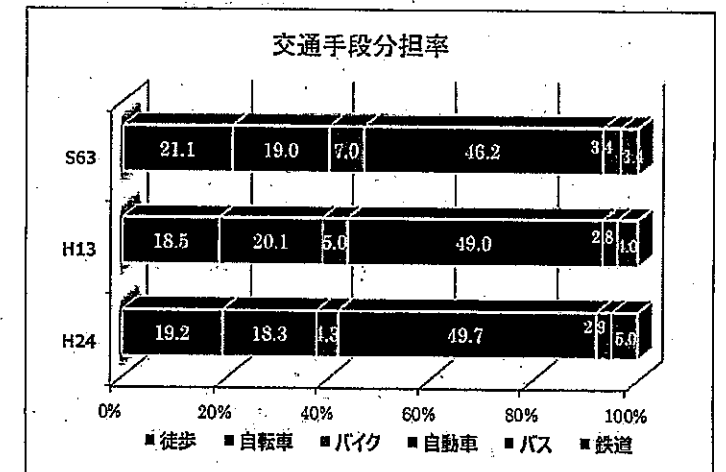
出典：静岡市建築指導課推計

#### 4 超高齢社会・低炭素社会に対応した交通環境への転換

モータリゼーションの進展により、市民が主に利用する交通手段として、半数近くが自動車を利用しています。

一方、誰もが利用でき、環境にやさしい公共交通（鉄道・バス）の利用者が減少しています。また、本市は自転車利用が多いことが特徴ですが、利用環境などに対する満足度が低い状況となっています。

超高齢社会への対応や、低炭素社会を実現するために、自動車に過度に頼らない交通体系の構築が必要です。



出典：『静岡中部都市圏パーソンドリップ調査』



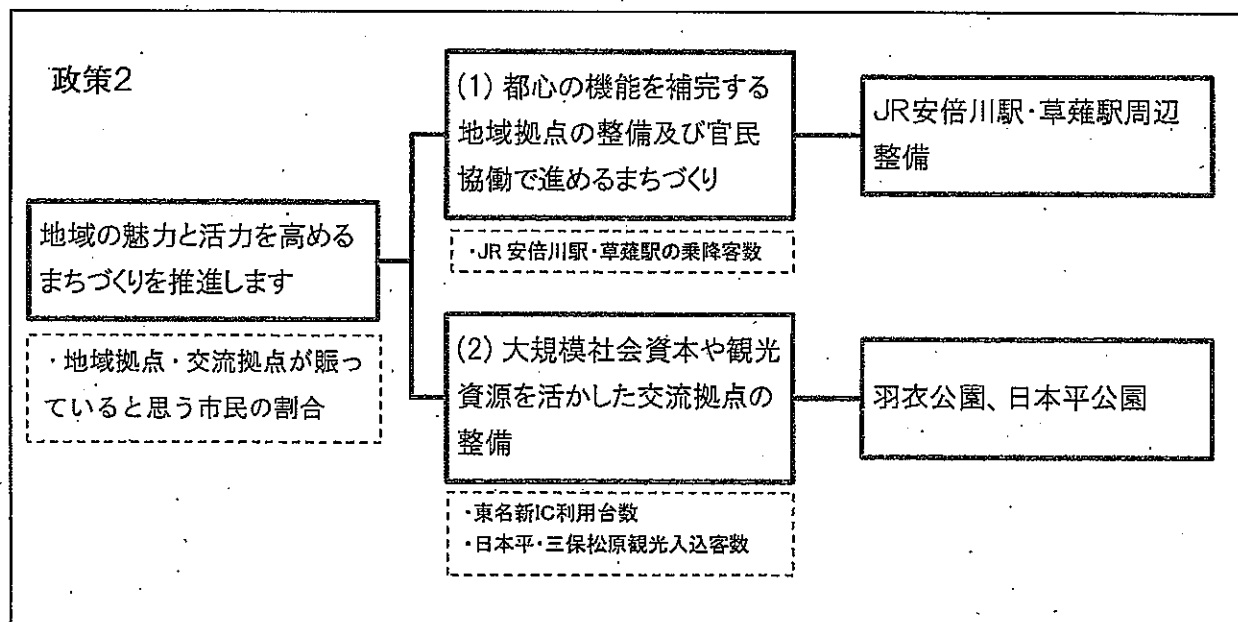
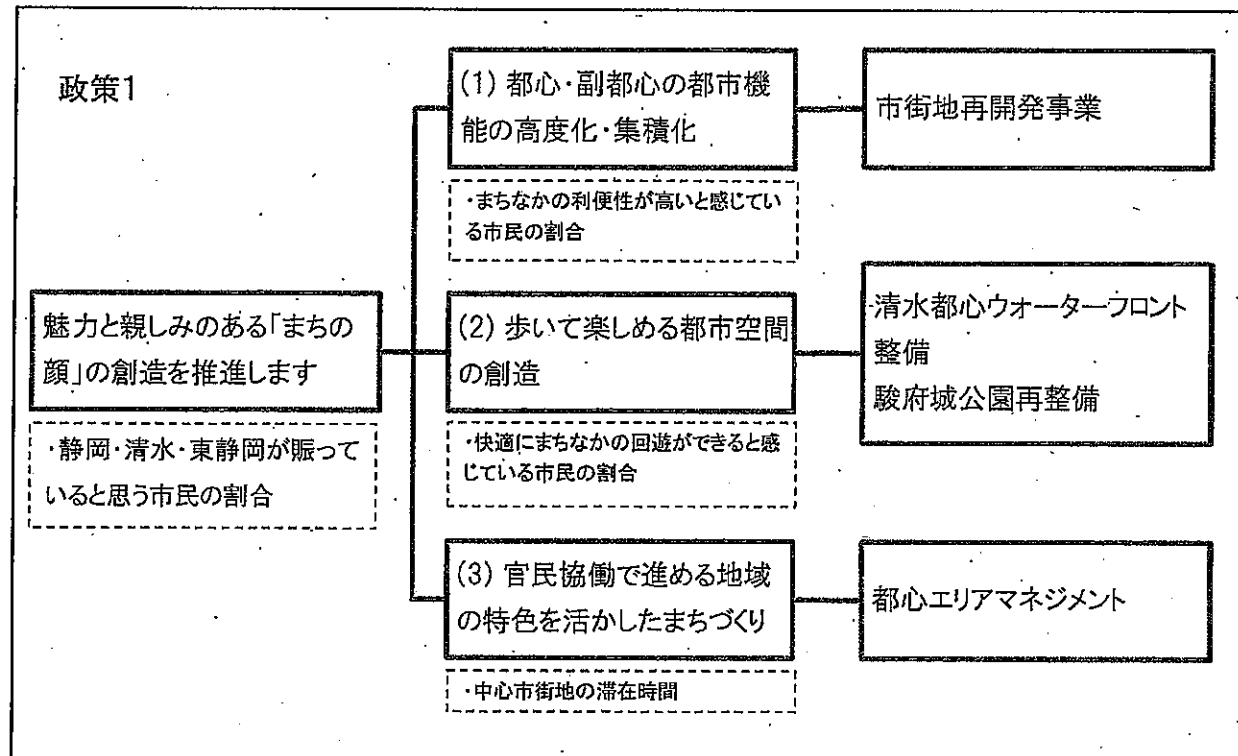
都市・交通

【課題解決に向けた取組の体系】

【政策】

【施策】

【事業イメージ】

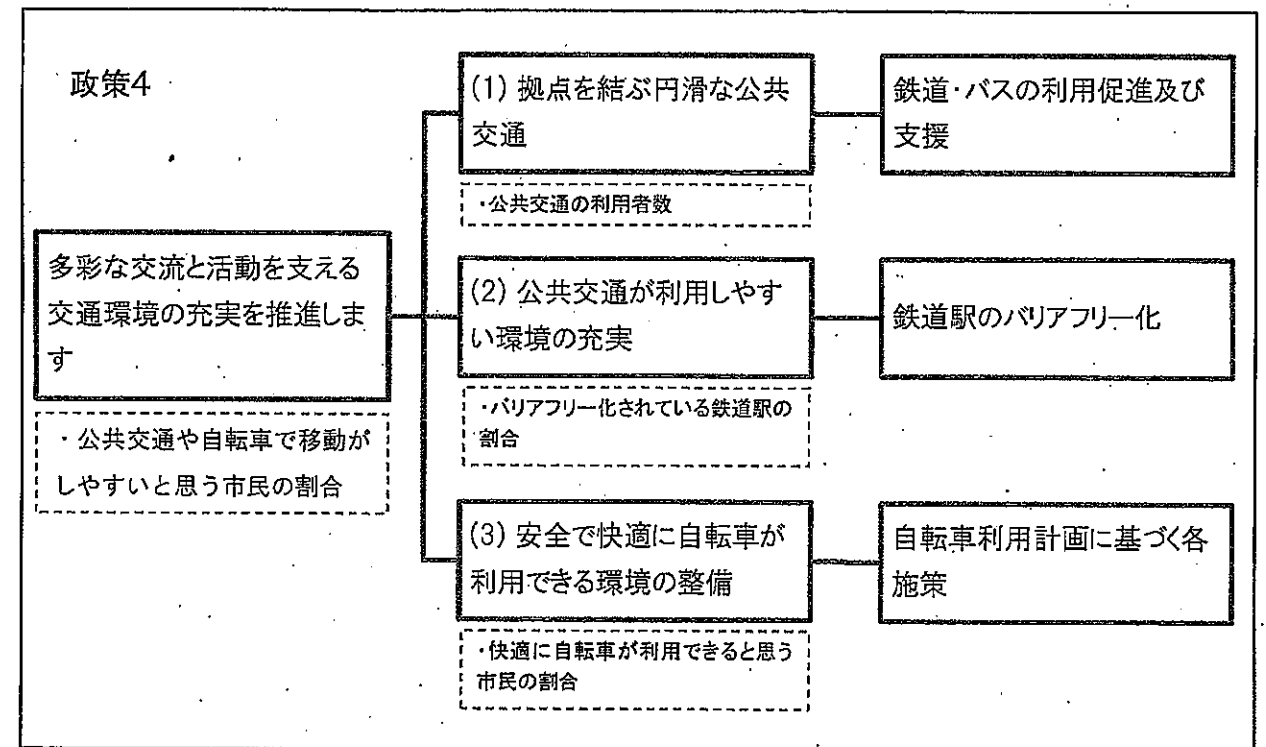
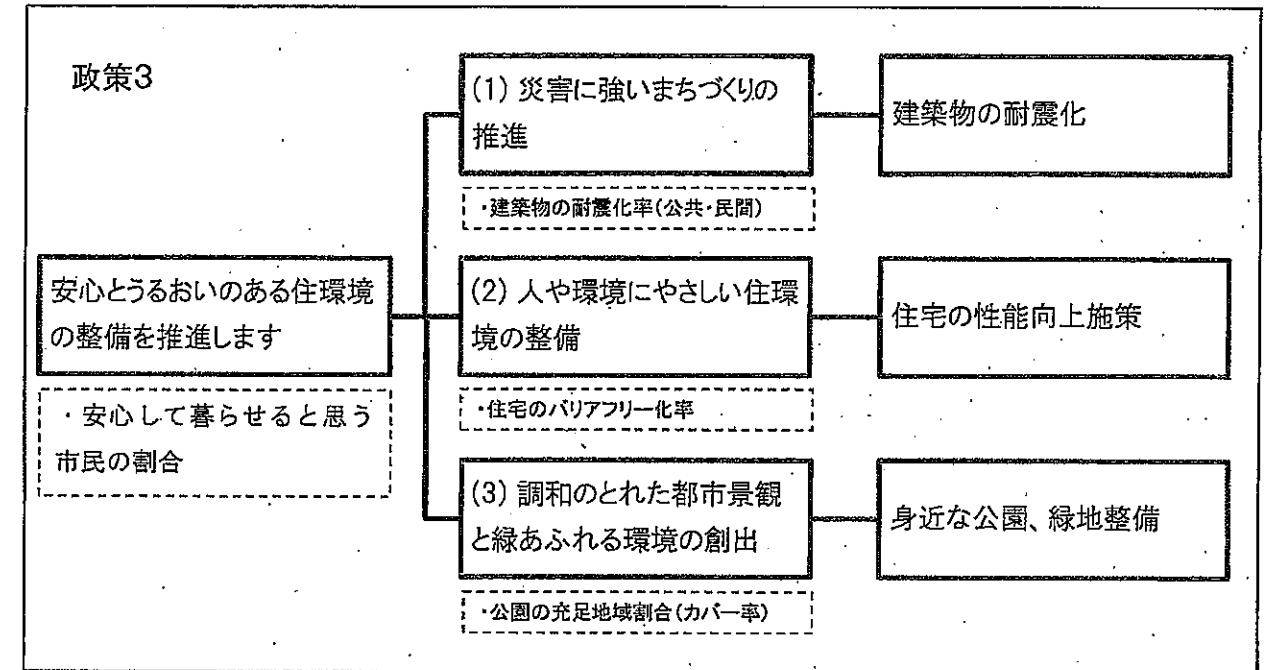


\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標（案）です。なお、目標値については現在調整中です。

【政策】

【施策】

【事業イメージ】



## 社会基盤

活発な経済活動や快適な市民生活を支える強靱な社会基盤を有するまちを実現します

### 【分野の役割】

道路、河川、上下水道は、社会基盤施設として、活発な経済活動や市民が安心・安全・快適な日常生活を送る上で、不可欠な役割を果たしています。

道路については、交流人口の拡大を図るため、東名・新東名高速道路や中部横断自動車道、国道1号静岡バイパスといった、広域連携を支える大規模社会資本の整備を促進するとともに、それらへのアクセス道路整備や渋滞対策を推進し、機動性の高い交通ネットワークを構築することで、観光拠点へのアクセス性向上や物流の効率化など、本市の持続的な発展を支えていきます。

さらに、超高齢社会や多発する交通事故に対応した、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備に努めていきます。

また、上下水道は、安全でおいしい水を安定して供給する水道事業と、衛生的なまちづくりや公共用水域の水質保全及び浸水から市民の生命、財産を守る下水道事業で成り立っています。ともに市民の日常生活を支える重要なライフラインであることから、施設の整備を進め効率的な運用に努めていきます。

一方で、これまで整備してきた社会基盤施設を、継続して安心・安全に利用して行くことは極めて重要な課題であり、高齢化・老朽化が進む膨大な施設の適切かつ計画的な維持管理・更新を推進するとともに、南海トラフ巨大地震や多発する豪雨などの自然災害時においても、その機能を発揮させることはもちろんのこと、本市の復旧・復興を支える基軸としての役割を果たせるよう対策の強化に努めていきます。

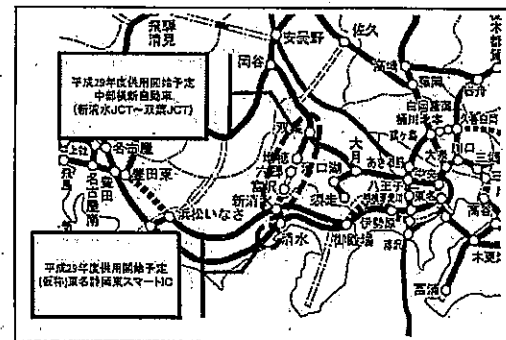
そして、活発な経済活動や快適な市民生活を支える強靱な社会基盤を有するまち実現します。

### 【現況と課題】

#### 1 地域活性化に貢献する道路の整備・活用

中部横断自動車道の開通や東名新インターチェンジの供用開始(平成29年度末)、国道1号静岡バイパスの4車線化・立体化が予定され、広域的な交通利便性はさらに向上していきます。

大規模社会資本の充実を地域の活性化につなげるため、道路ネットワークの構築により連携・交流機能を向上させる必要があります。



#### 2 道路環境の安全性・快適性の確保

市内における交通事故の年間発生件数は減少傾向にあるものの、さらに低減させる必要があります。

また、市民は今後の道路整備について、“安全性の確保”や“歩道の歩きやすさの確保”を求めています。

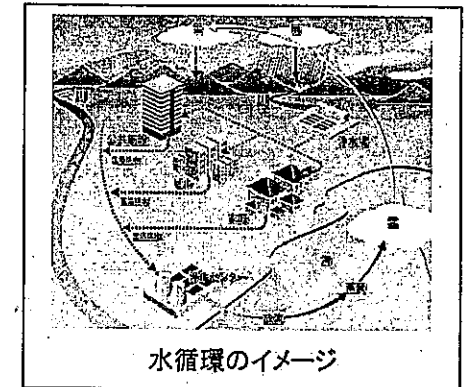
“安全性の向上”と“快適性の向上”を両立し、誰もが安全・快適に利用できる道路環境を整備する必要があります。

#### 3 市民の日常生活を支えるライフラインの維持

本市では、日本有数の清流を水源とした、上質な水道水を供給しています。

また、家庭や事業所から排出された汚水は、下水処理施設により浄化し、駿河湾へ放流しています。

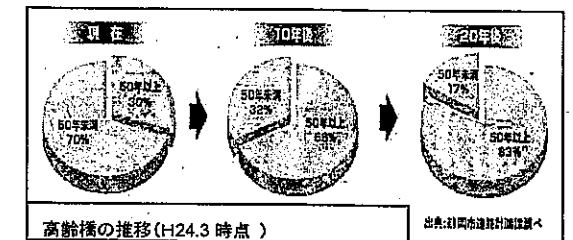
これら市民の日常生活を支えるライフラインである上下水道事業を、効率的な経営により、将来にわたり安定的に維持していく必要があります。



#### 4 社会基盤施設の増加と高齢化・老朽化の進展

高度経済成長期などに整備された社会基盤施設の高齢化・老朽化が進み、更新を要する施設の増加により、多額の維持更新費が必要になると見込まれています。

そこで、施設の特性を考慮し、「アセットマネジメント」の考え方を盛り込んだ管理計画に基づき、管理水準及び施設規模の最適化や、環境に配慮した持続可能な維持管理を行う必要があります。



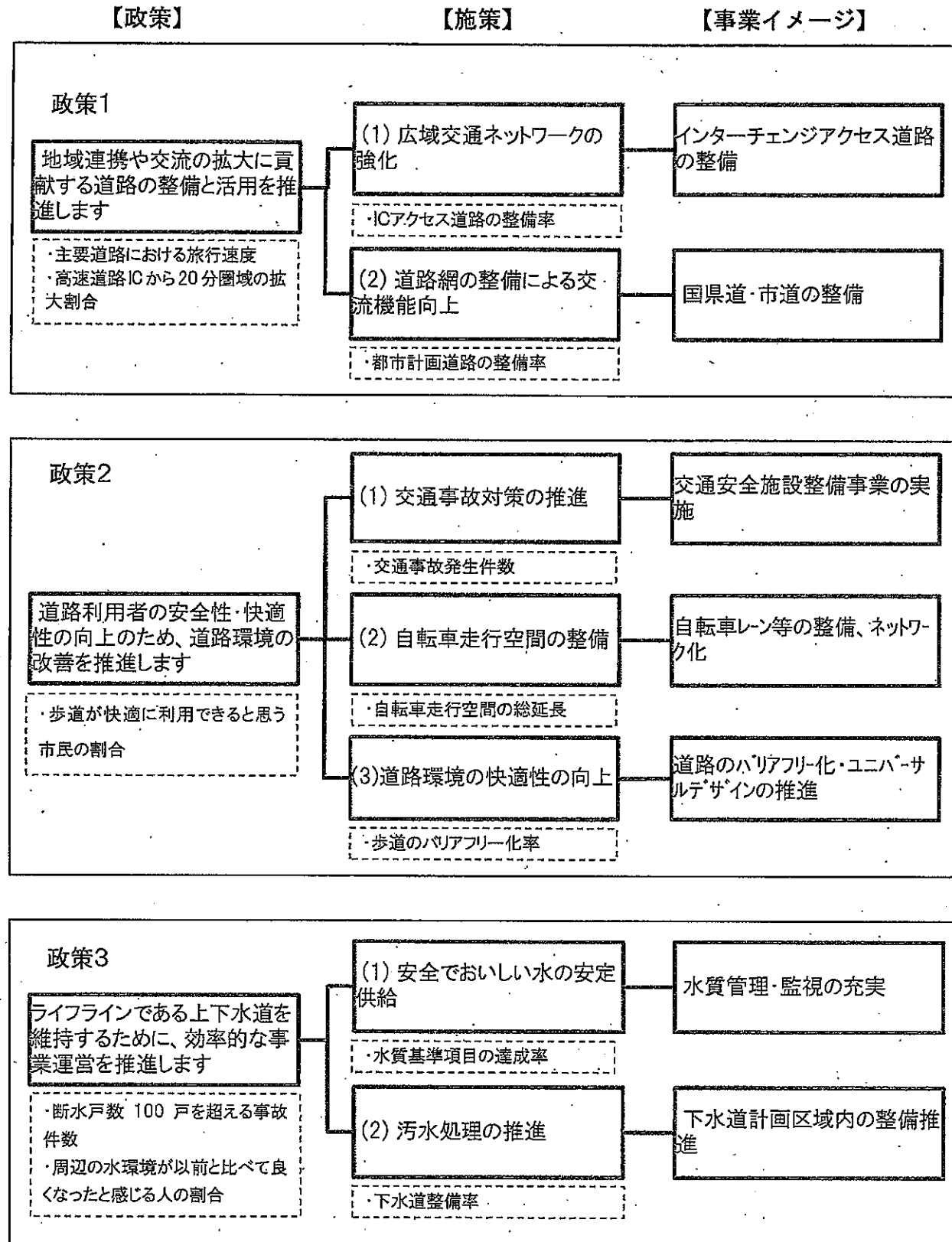
#### 5 地震や異常気象など自然災害に対する懸念

南海トラフ巨大地震の発生が叫ばれる中、近年多発している巨大台風や局地的豪雨も含めた自然災害から市民の生命や暮らしの安全を守るため社会基盤施設の強靱化が必要です。

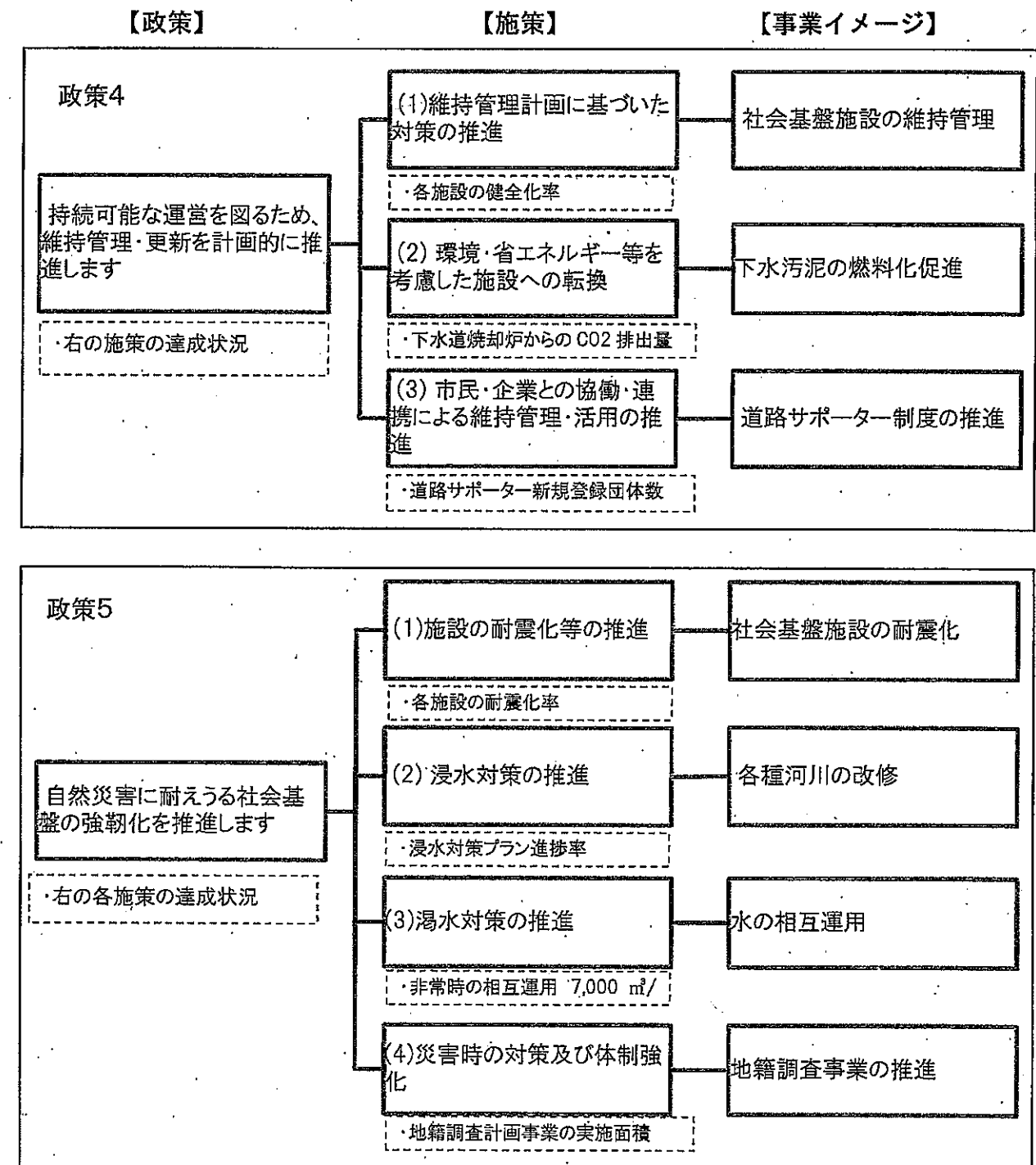
また、被災時には、迅速な復旧や早期復興を可能にする対策が必要になっています。

社会基盤

【課題解決に向けた取組の体系】



\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。



## 健康・福祉

誰もが健やかに自分らしく、地域で共に生きることのできるまちを実現します

### 【分野の役割】

本市は、温暖な気候と風光明媚な自然環境、また長い歴史に培われた多様な食文化に恵まれた健康長寿のまちとして、豊かな地域社会を築いてきました。

しかしながら、少子高齢化や核家族化の進行、個人の価値観の多様化などにより、地域社会の中で、人と人とのつながりが希薄になるなど、地域での支え合いの力の低下が懸念されています。

また、高齢者や障がいのある人、あるいは日々の暮らしの中で様々な困難を抱えている人に対しては、地域での支援体制を充実することが求められています。

このように何らかの支えを必要としている人々が、住み慣れた地域でいきいきと自分らしく暮らしていくためには、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される仕組みが必要です。

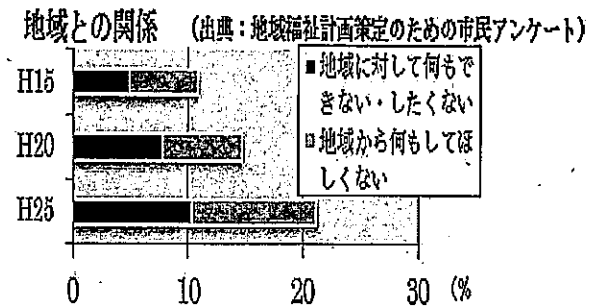
これにより、誰もが健やかに自分らしく、地域で共に生きることのできるまちを実現します。

### 【現況と課題】

#### 1 家庭や地域での支え合う力の低下

核家族化の進行や個人の価値観の多様化などにより、地域の連帯感がうすれ、支え合いの力が低下しています。

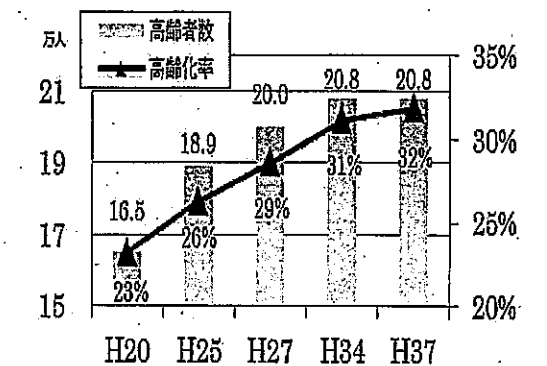
誰もが自分らしく安心した生活を送れるよう、市民・企業・行政等が協働して問題を解決する仕組みづくりや、人材の育成が必要です。



#### 2 急激な高齢化の進行と一人暮らし高齢者の増加

本市の高齢化率は26% (平成26年3月現在) を超え、今後もさらなる上昇が見込まれます。また、一人暮らしや認知症高齢者が増加しています。

高齢者が安心して生活を送るためには、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築や高齢者自身が活躍できる環境づくりが必要です。

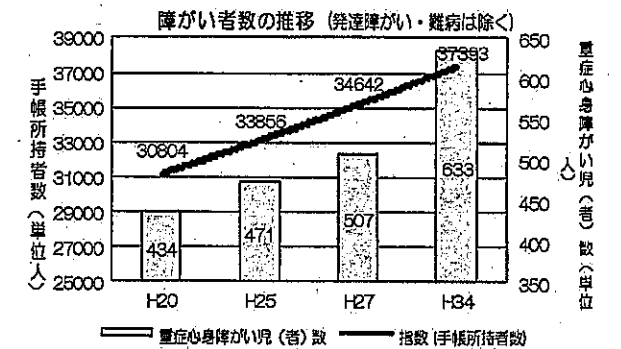


出典: 国立社会保障・人口問題研究所  
「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

#### 3 障がいのある人の増加、多様化

高齢化の進行や社会環境の変化などにより、障がいのある人は増加しています。また、障がいの重度化や発達障がい・難病など障がいの範囲が拡大しています。

障がいの有無に関わらず地域でともに暮らすために、障がいのある人に対するきめ細やかな支援や、互いを尊重し、支え合うことが必要です。

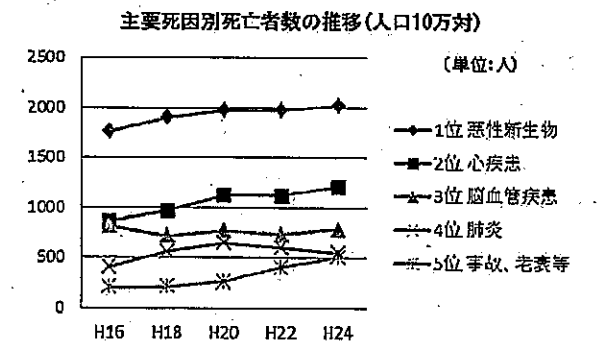


出典: 静岡市障害者福祉課推計

#### 4 様々な健康不安の増加

生活習慣の多様化による疾病構造の変化に伴い、様々な健康不安が増加しています。

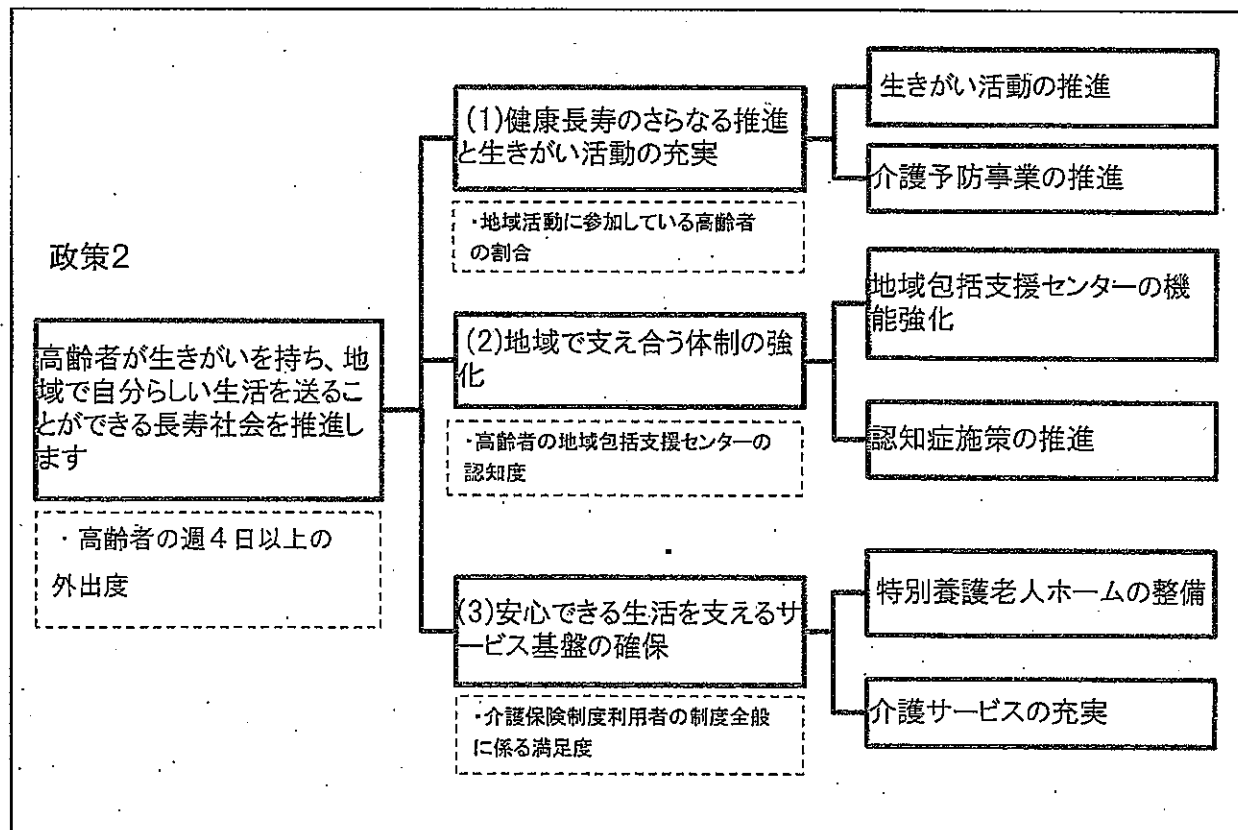
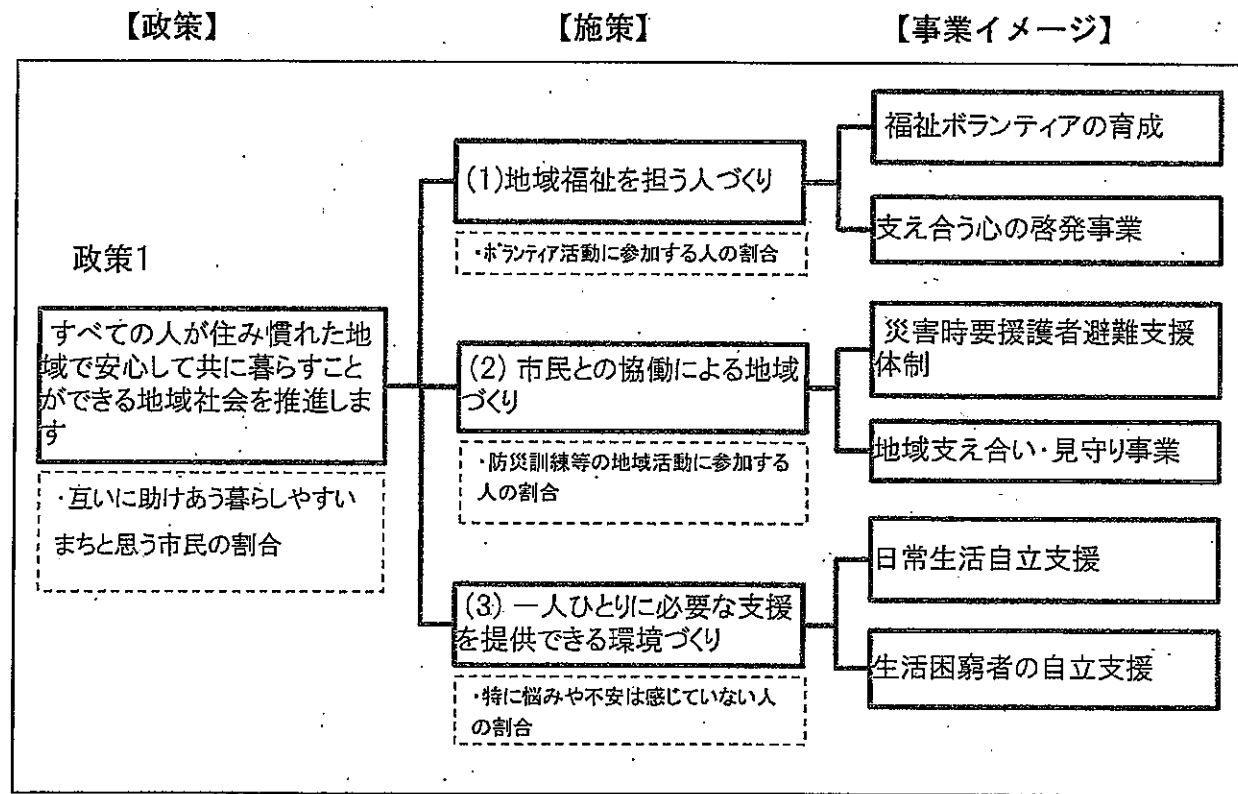
これらの不安を解消するために、生活習慣病予防等の推進、感染症対策、食の安全対策、精神疾患対策などを進めるとともに、地域包括ケアシステム構築に向けた在宅医療の推進体制の整備や、効率的で質の高い地域医療体制の充実が必要です。



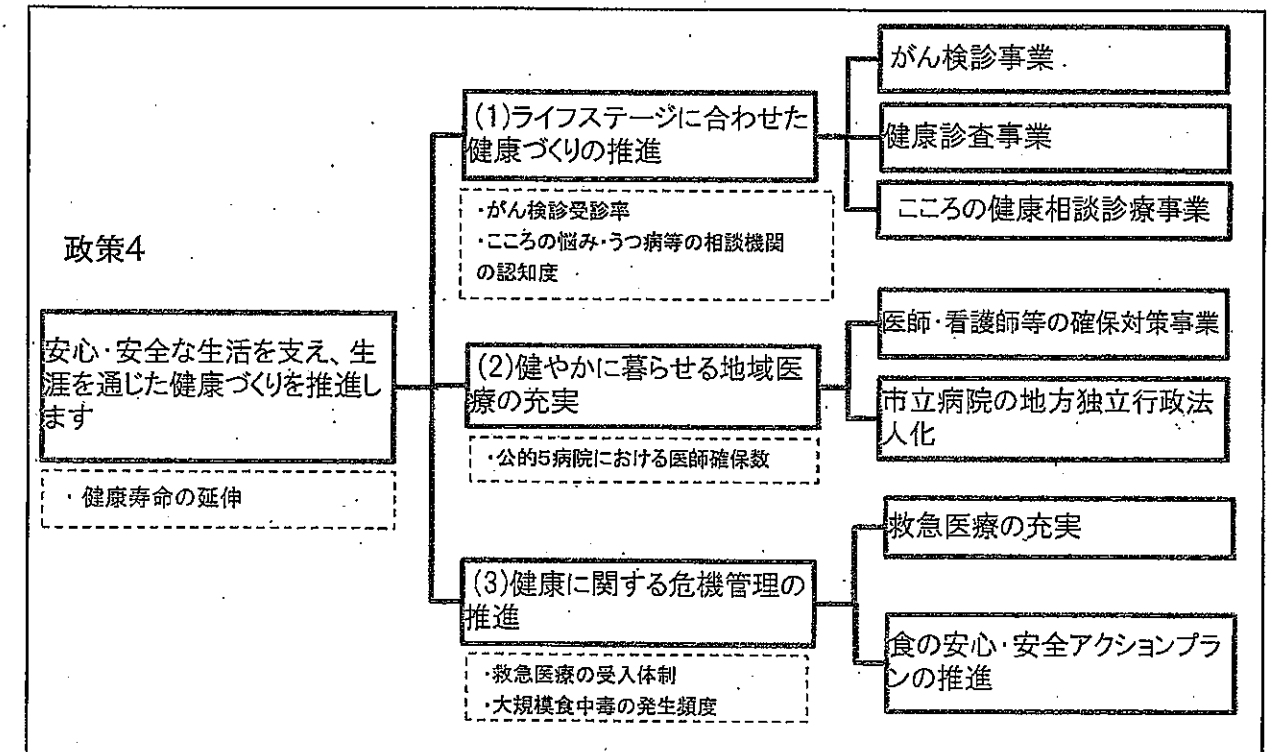
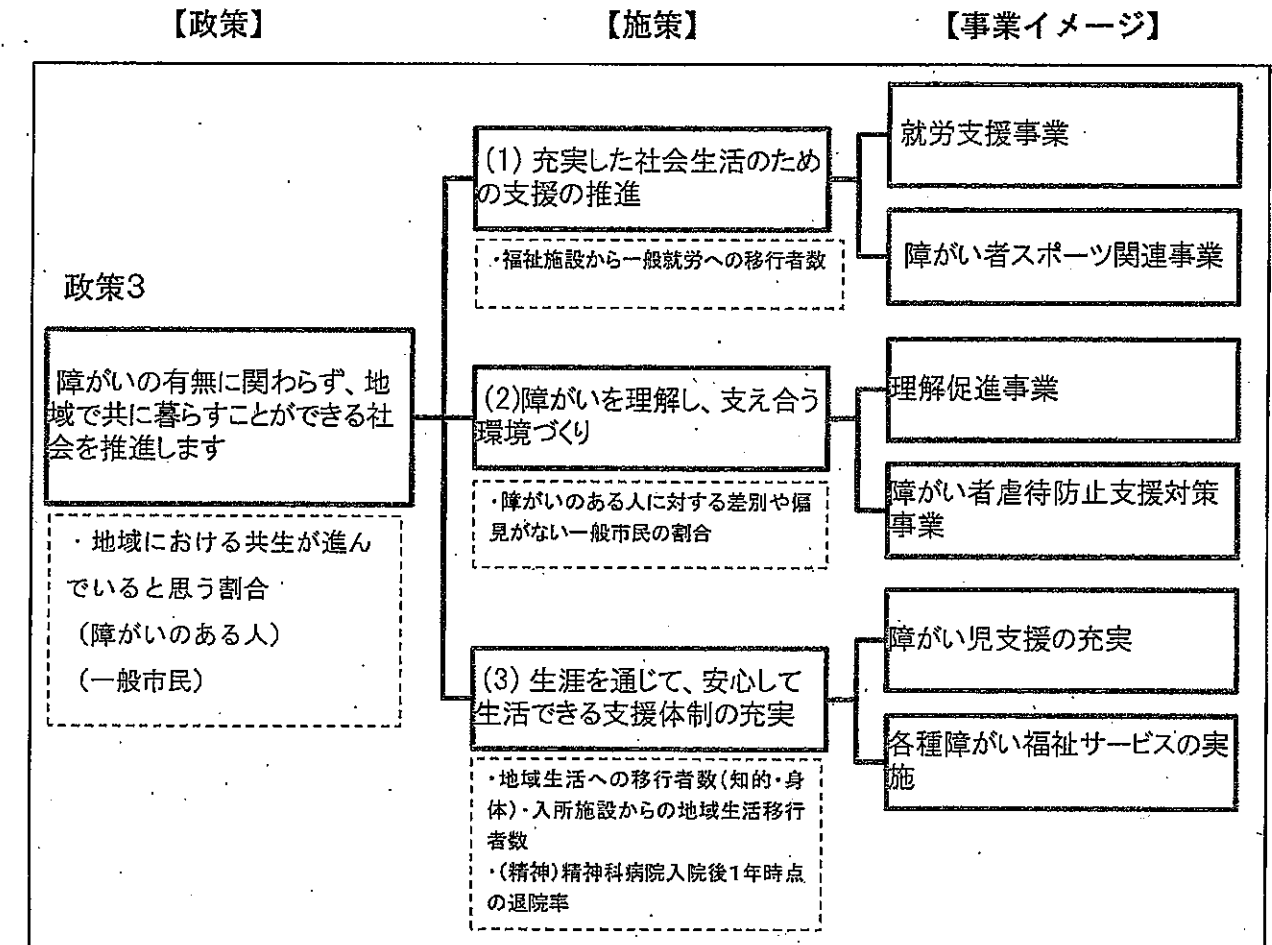
出典: 厚労省「人口動態調査」より本市分を抽出

健康福祉

【課題解決に向けた取組の体系】



\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。



## 防災・消防

災害から市民の生命や財産を守り、安心・安全に暮らせるまちを実現します

### 【分野の役割】

市民生活を脅かす災害には様々なものがあります。いつ来るかわからない上に、発生したときには甚大な被害が予想される「南海トラフ巨大地震」、年に数回必ず発生している台風や豪雨、毎日のように発生している火災や救急要請など、私たちは規模や頻度の異なる災害それぞれに対応していかなければなりません。

災害から生命や財産を守るためには、市民自らが主体的に取り組む「自助」、地域住民が、互いに手を取り合い助け合う「共助」、そして、行政が市民の「自助」や地域による「共助」の活動を支援し、自助、共助では対応できない課題に取り組む「公助」、それぞれが最大限に役割を果たす必要があります。

いかなる災害に対しても、生命を守ることを最優先とし、可能な限り被害を軽減するため、市域のすべての主体が、協力・連携して災害に備え、災害に立ち向かっていくまちづくりを進めていきます。

### 【現況と課題】

#### 1 巨大地震による甚大な被害の想定

現在想定されている最大級の地震・津波による被害は、これまでの予想をはるかに上回るものです。

地震を防ぐことはできませんが、市民が自らの命を守る自助、お互いに助け合う共助、行政が都市の基本的な安全性を高める公助によりそれぞれが持つ力を結集し被害を減らす「減災」を進める必要があります。

＝静岡市の想定死者数＝

第3次想定	第4次想定
約1,800人	約15,300人

(静岡県第4次地震被害想定)

## 2 集中豪雨などによる風水害の多発

近年、全国各地で台風や集中豪雨などによる大規模な風水害が発生しており、平成25年には災害の危険性が著しく高まっている場合に発表される「特別警報」が新設されました。

日頃より、河川改修といった風水害に強い一定レベルの社会基盤整備を進め、警報が発表された際には、避難勧告など市民の命を守るための対応を適時適切に行う必要があります。

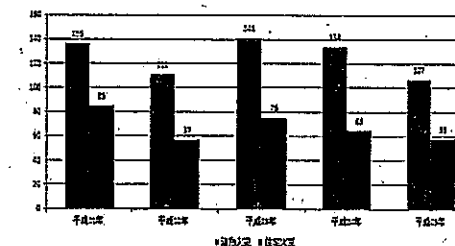
災害の種類	被害の状況
大雨	台風や集中豪雨により河川に一定の増水となる大規模な洪水が発生し、都市部や一部の地域の土壌が浸透しやすくなることにより大規模な土砂災害が発生する
暴風	暴風が吹くことによる被害
高潮	高潮による被害
波浪	波浪による被害
雪害	大雪による被害
大雪	大雪による被害

## 3 増加する災害出動件数

複雑化する社会構造の変化により災害出動件数は増加傾向にあります。特に、超高齢社会を迎え高齢者の救急搬送が増えています。

火災では、建物火災の過半数が住宅火災で、死傷者数も住宅火災において多く発生しています。

災害の複雑多様化、救急搬送者の高齢化に対応し、施設、装備及び救命体制を充実するなど、迅速・的確に火災等の各種災害から市民の生命・財産を守るため、救急や救助を含めた消防力の強化を図る必要があります。



## 4 感染症など様々な危機への懸念

自然災害以外にも、テロなどの武力攻撃事態、様々な感染症の流行、PM2.5などの大気汚染発生など、市民生活を脅かす様々な危機が懸念されています。これらの危機が生じた際には素早く対応できるよう、あらかじめ対策を立てておく必要があります。

また、未知の危機にも即応できる体制を整える必要があります。

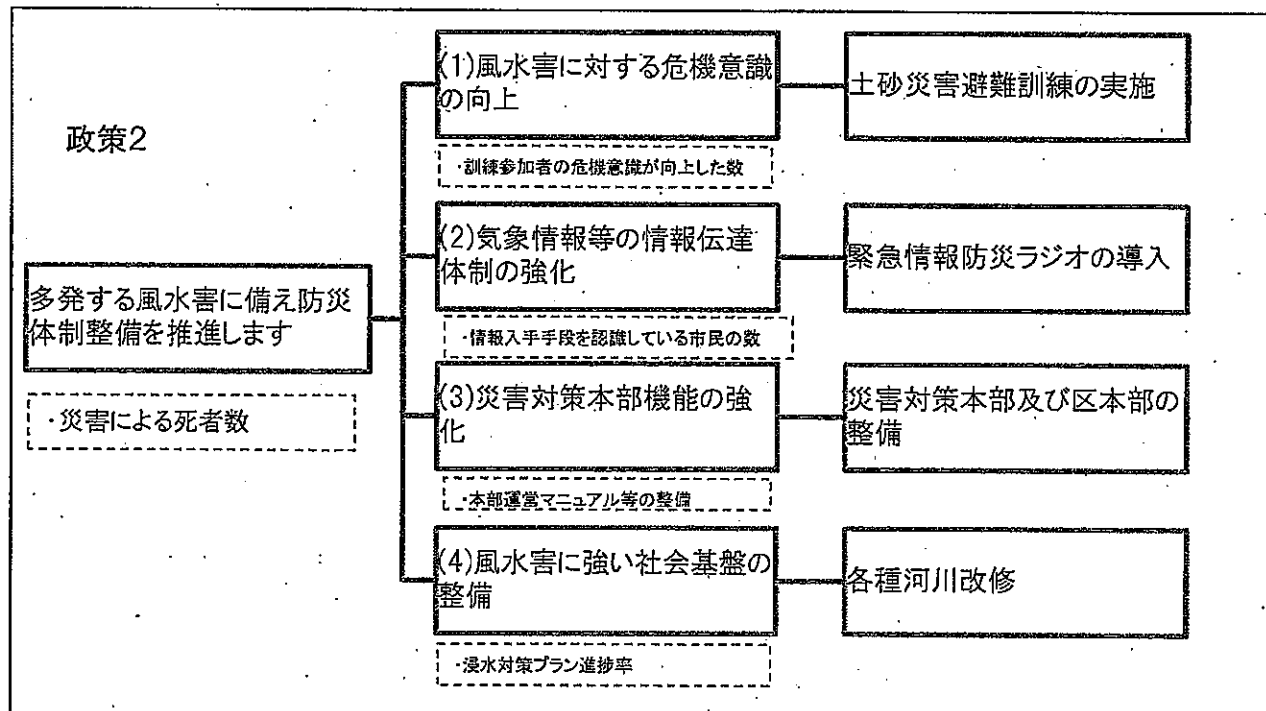
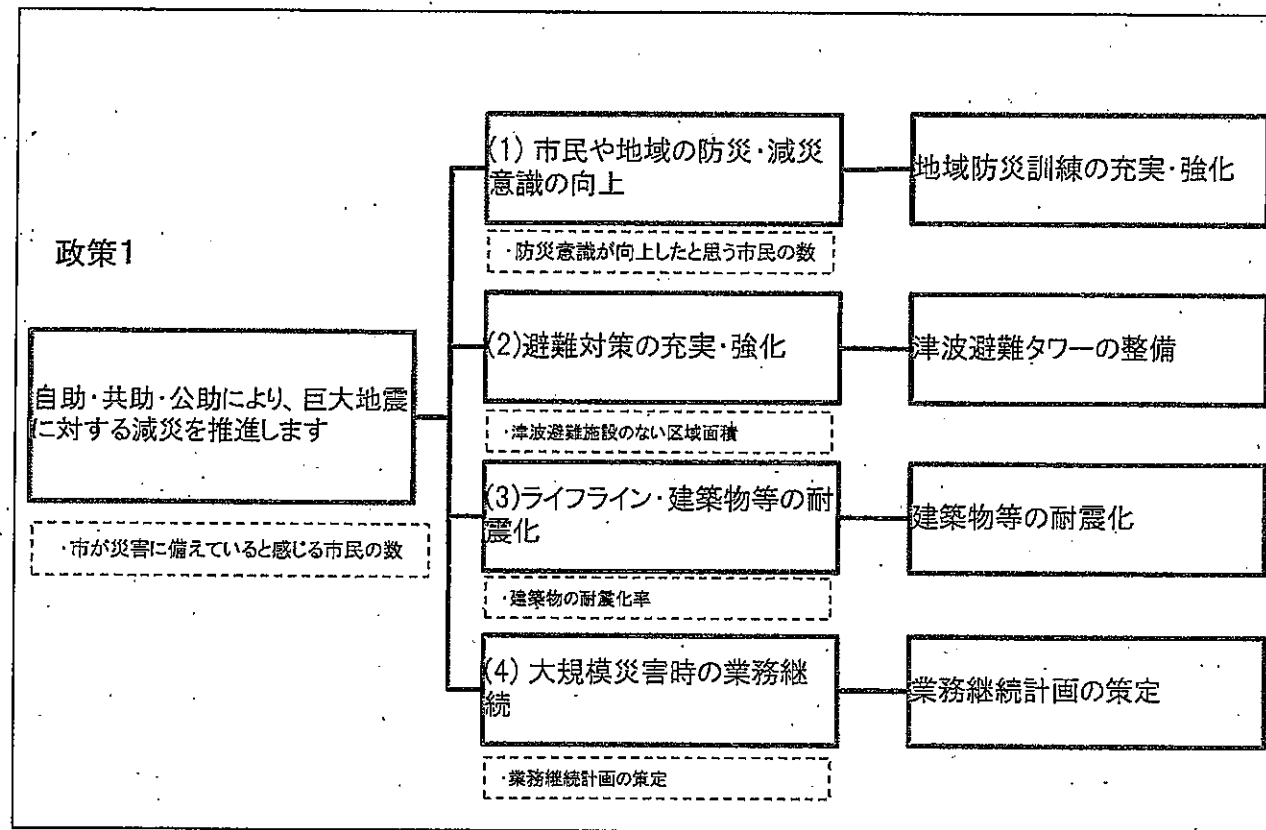
防災・消防

【課題解決に向けた取組の体系】

【政策】

【施策】

【事業イメージ】

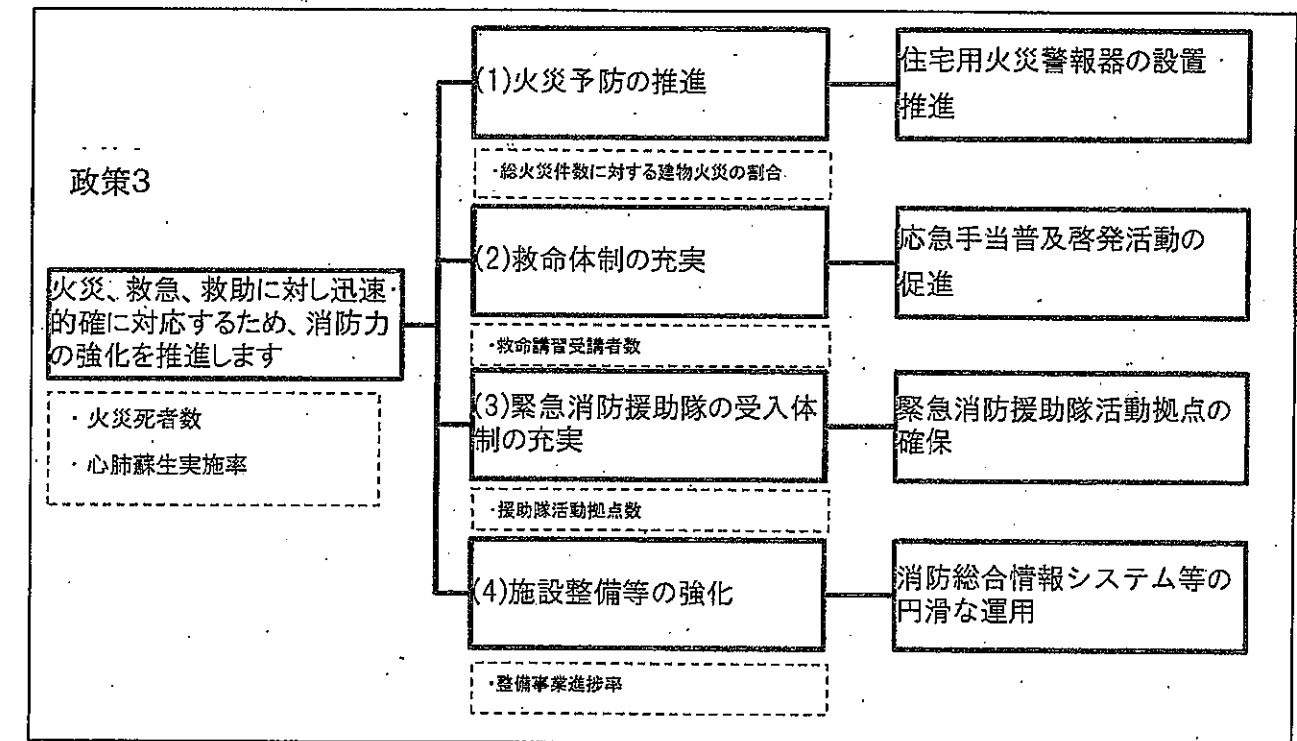


\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。

【政策】

【施策】

【事業イメージ】



政策4

様々な危機への体制整備を推進します

・危機による死者数

危機管理体制の強化

・危機管理マニュアル整備率

危機管理指針の強化

## 生活・環境

人と自然が共に生き、誰もが住み続けたいと思えるまちを実現します

### 【分野の役割】

本市は、南アルプスから駿河湾まで山、川、海の豊かで美しい自然に恵まれています。中でも、平成26年6月にユネスコエコパークに登録された南アルプスは、その希少な生態系をはじめとする価値が、世界から認められています。

このような中でも、近年急速に進む地球温暖化、外来種の生息域拡大、さらには新たな開発などにより、これら豊かな自然環境への影響が懸念されています。

私たちは、市民共有の財産である豊かな自然環境を守り、将来の世代へ引き継ぐという責務を果たすとともに、本市の素晴らしさを国内外に伝えることで、環境の保全と活用を図っていきます。

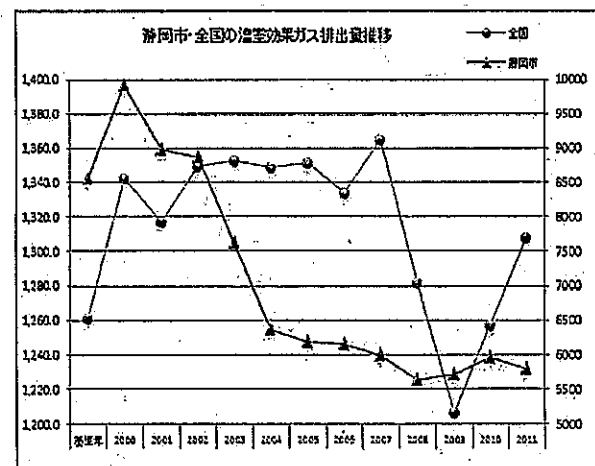
一方、市民の生活においては、身近なところで犯罪や交通事故が多く発生し、消費者問題も複雑化・多様化しています。誰もが安心・安全に暮らせるように、市民一人ひとりが自立し、また地域の一員として、互いに助け合うことで、誰もが住み続けたい環境づくりに取り組んでいきます。

### 【現況と課題】

#### 1 地球温暖化の進行

地球温暖化の進行により、風水害の激甚化や農作物被害が顕在化しており、これまで以上に温暖化対策に取り組む必要があります。

化石燃料に依存した従来の社会から脱却し、再生可能エネルギーなどを活用した低炭素社会への移行や、すでに進行しつつある温暖化に対し、適応していくことなどが求められています。



2011(平成23)年度の静岡市域における温室効果ガス排出等について

#### 2 自然環境の保全と活用

平成26年6月にユネスコエコパークに登録された南アルプスをはじめ、本市は世界水準の豊かさを誇る美しい自然に恵まれています。

これらの豊かな自然を守り、将来の世代へと受け継いでいくために、様々な自然の恵みを受けていることを改めて認識し、自然を守る心や誇りに思う心を育むとともに、自然の価値や魅力をさらに磨き上げていくことが求められています。

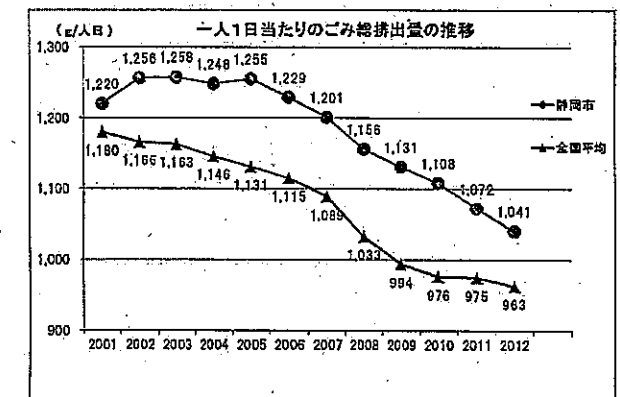
#### 3 暮らしを取り巻く環境の変化

超高齢社会の到来や地域における関わり合いの希薄化などにより、治安への不安や消費者問題、高齢者の交通事故など、暮らしに関わる様々な問題が生じています。

誰もが安心・安全で快適に生活できる環境を確保するためには、地域における防犯活動や消費者被害の早期発見・未然防止のための高齢者の見守りなど、地域ぐるみでの取り組みが求められています。

#### 4 資源循環型社会の推進

市民・事業者・行政の協働により、静岡版「もったいない運動」を推進してきた結果、一人1日当たりのごみ総排出量は減少傾向にあります。しかし、全国平均と比べると依然として上回っていることや、最終処分場がひっ迫していることから、さらなるごみの減量に取り組む必要があります。

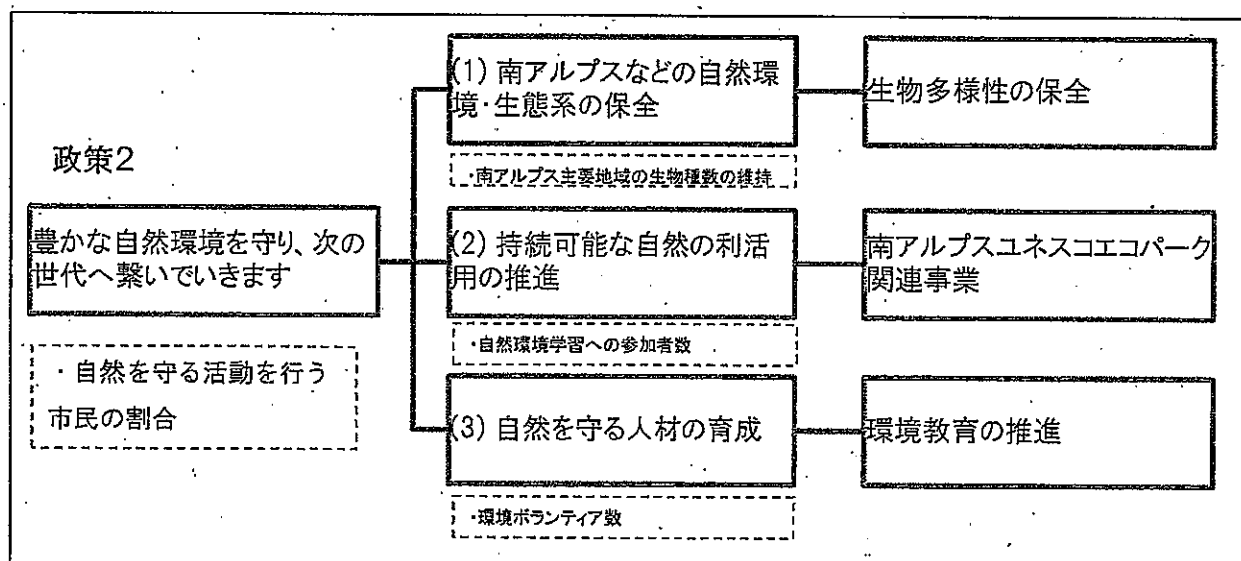
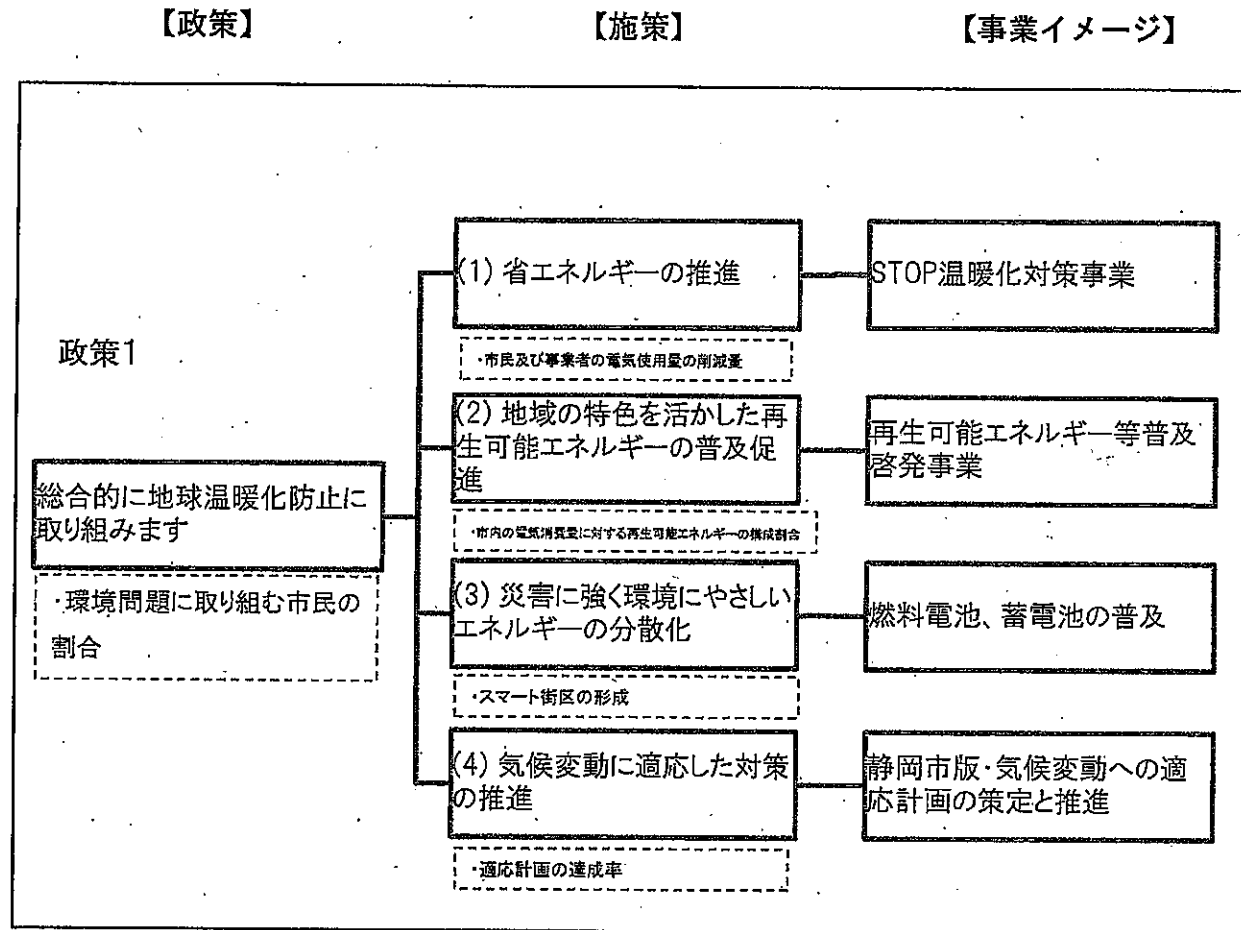


環境省「一般廃棄物処理実態調査」より

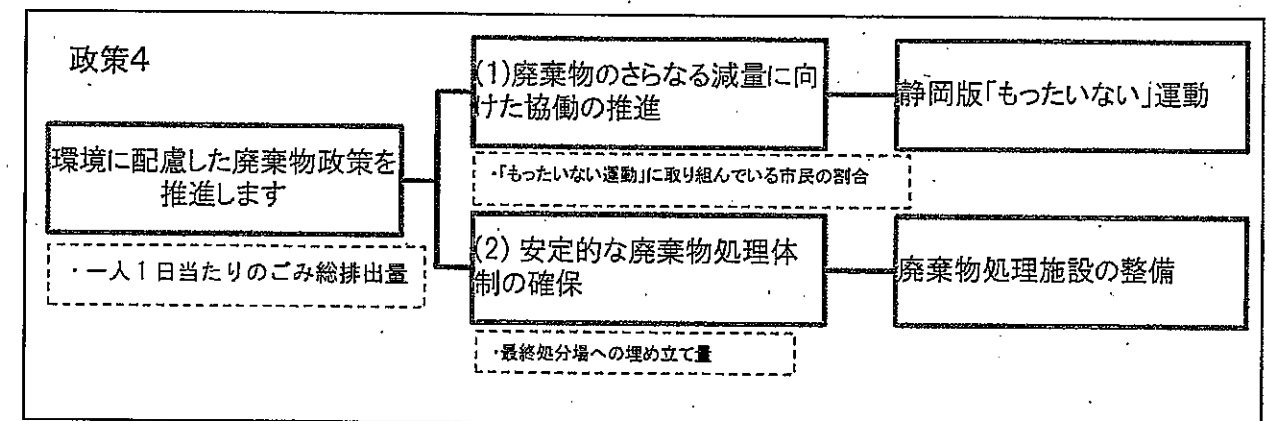
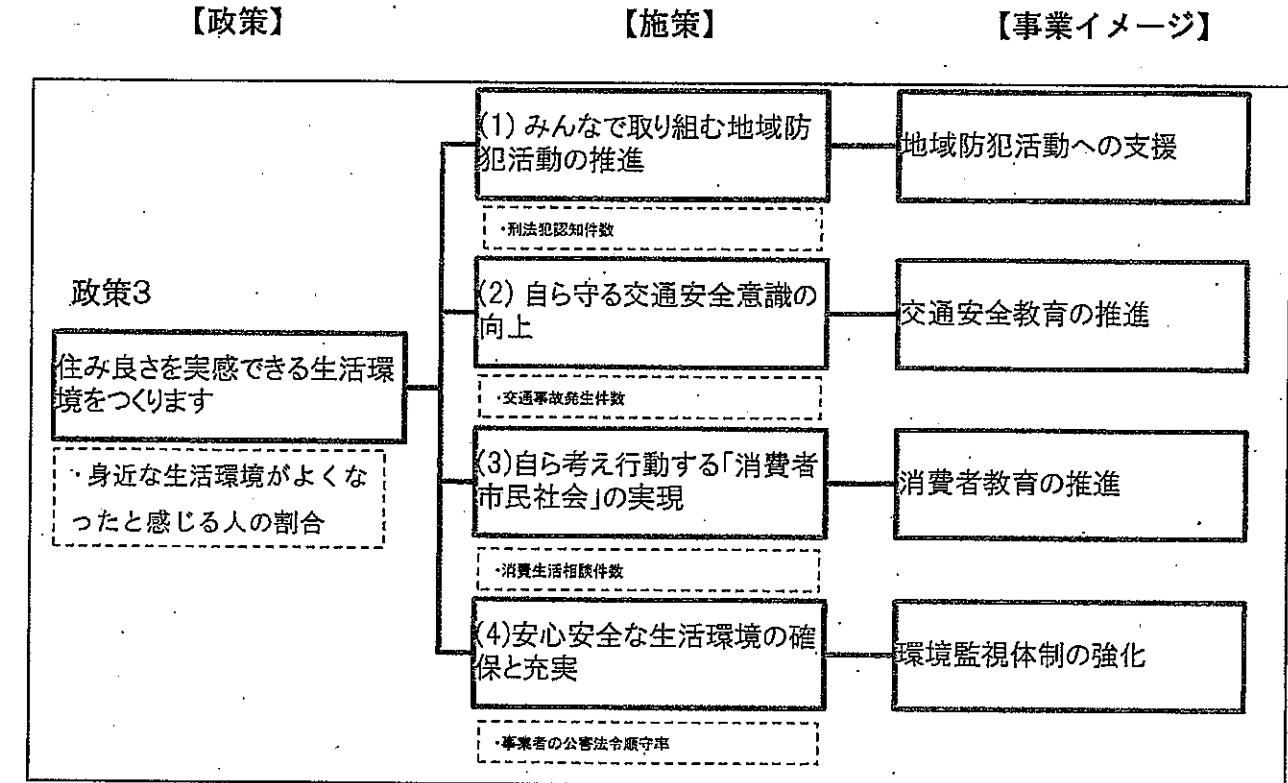


生活・環境

【課題解決に向けた取組の体系】



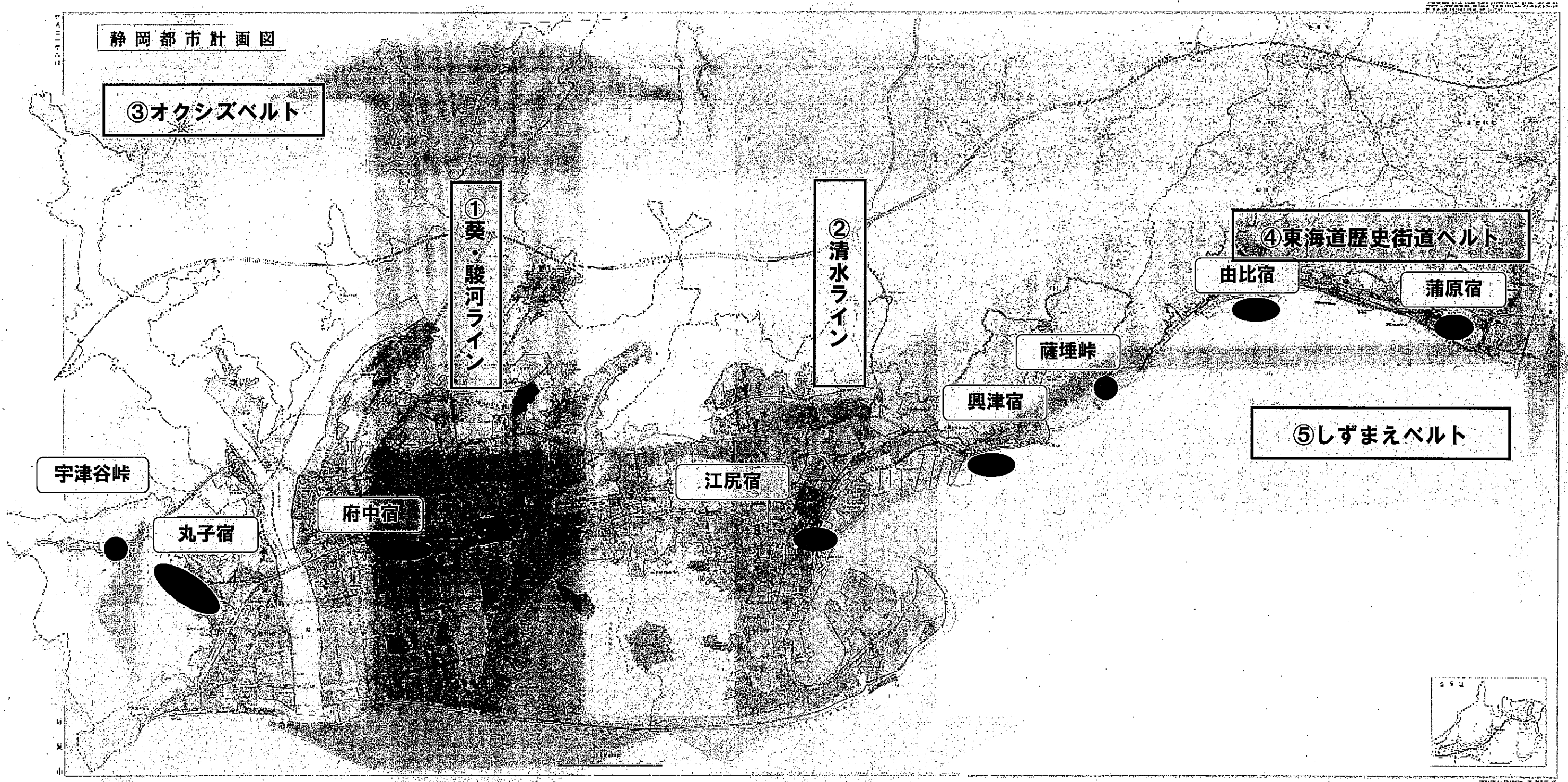
\*破線カッコ内の項目は、3次総の8年間で達成を目指す政策・施策の指標(案)です。なお、目標値については現在調整中です。



# 都市構造軸の考え方

本市の均衡ある発展を目指し、計画的に都市機能の集積や産業活動の充実を図り、魅力と活力にあふれた市域を実現するため、2つのラインと3つのベルトから構成される「都市構造軸」を定めます。

<p><b>①葵・駿河ライン</b></p> <p>大谷小鹿新IC、日本平、東静岡、麻機遊水地、新東名新静岡IC、オクシズを結ぶ軸上に連担した都市機能により都市内の発展を支えます。</p>	<p><b>②清水ライン</b></p> <p>三保、清水港ウォーターフロント、庵原の活性化や中部横断道の開通により、新たな交流と賑わいを生み出します。</p>	<p><b>③オクシズベルト</b></p> <p>南アルプスエコパークに代表される雄大な自然の魅力、都市の里山としての機能を持ち、人々に憩いと安らぎを与えます。</p>	<p><b>④東海道歴史街道ベルト</b></p> <p>駿府城天守閣の再建を目指すとともに、東海道2峠6宿それぞれに残る歴史資源を活用し、地域経済の活性化へつなげます。</p>	<p><b>⑤しずまえベルト</b></p> <p>駿河湾に恵まれた様々な産物を活かし、多様な価値を発信します。</p>
--	--	---	---	--



# 各区の取組

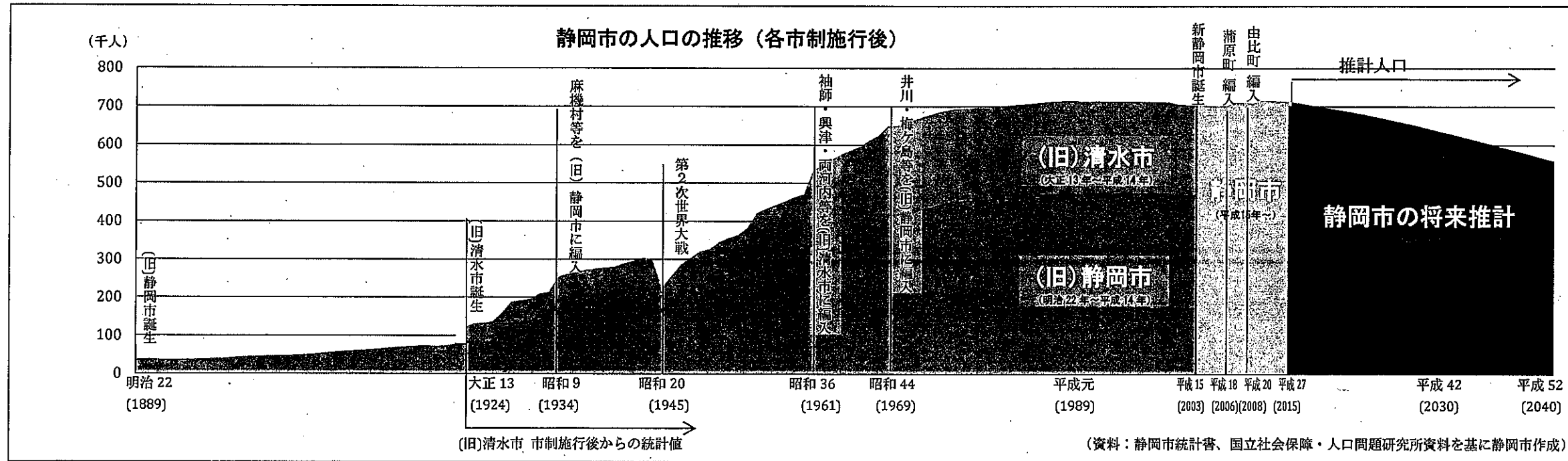
	各区の地勢、特色	今後の方向性	官民連携により 開発整備を進めていく エリア
葵区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区を中心部は、奈良時代に国府が置かれたと言われ、戦国時代は今川氏の城下町として栄えた。江戸時代には徳川家康公が、大御所として幕府政治の采配を振るった。</li> <li>・ 近代以降は、県庁所在地として、市や県の政治・経済・行政の中心地として発展。</li> <li>・ 歴史的・文化的資産が数多く残り、多くの伝統文化や伝統行事が受け継がれている。</li> <li>・ 大道芸ワールドカップなどのイベントが多数開催され、全国有数の賑わいを創出。</li> <li>・ 区の北部は、ユネスコエコパークに登録された「南アルプス」をはじめとする山々が連なり、自然に抱かれた山村エリアが広がっている。</li> <li>・ 山村エリアにおいては、近年、人口減少・高齢化が進み、自然環境の保全とともに、地域生活の維持という課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「人と自然」「都会と自然」が共生したまちづくり</li> <li>・ 都市機能の向上・集積、産業の活性化、賑わいの創出を進める。</li> <li>・ 中山間地域「オクシズ」の豊かな自然と、その自然を守る人々の生活・コミュニティを維持するため、産業振興や定住促進を図る。</li> <li>・ 「オクシズ」と都市部を人とモノが活発に行き交うよう取り組む。</li> <li>(2) 安心・安全で快適な「住民主体のまちづくり」</li> <li>・ 地域資源や文化を生かし、身近な課題に取り組む市民活動を支援する。</li> <li>・ 住民同士の結びつきや絆を強め、安心・安全で快適な「住民主体のまちづくり」を進める。</li> </ul>	<p>《麻機エリア》 麻機遊水地を活用し、豊かな自然環境との共生を目指すエリア</p>
駿河区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弥生時代のむら・登呂遺跡や、東海道 20 番目の宿場町・丸子宿、国宝・久能山東照宮などの歴史文化資産がある。</li> <li>・ 久能地区の石垣いちご・葉しょうが・ねぎ、広野地区のもも、丘陵地のみかん、地域ブランドの丸子紅茶など、多彩な農産物が生産されている。</li> <li>・ シラス等の水産物と美しい海岸線の魅力を合せて「しずまえ」ブランドとして活性化する取り組みが始まろうとしている。</li> <li>・ JR 安倍川駅と草薙駅の改築及びその周辺整備事業、東名高速道路新インターチェンジ整備に伴う小鹿・大谷地区の整備事業などが計画され、都市基盤の整備も進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地勢、特色を生かした地域住民主体のまちづくり</li> <li>・ 「安心・安全」、「自然環境」、「歴史・文化」、「人の交流」を中心に、区内の地勢、特色を資産として活用し、地域住民が主体となった「誰もが住みやすい駿河区の実現」を目指す。</li> <li>(2) 若い力を活用したまちづくり</li> <li>・ その地域に住む人々が、地域の歴史的・文化的資産、自然等を学び、それらを次の世代へ繋げていく若い人材を育てることが重要。若い世代が、主体的にまちづくりに関わることに喜びを感じて、積極的にまちづくりに参画できる仕組みを構築する。</li> </ul>	<p>《大谷・小鹿エリア》 新インターチェンジを活かし、循環型 6 次産業の創出を目指すエリア</p>
清水区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際拠点港湾に指定されている『清水港』を有し、近隣地域の産業を支える物流拠点である港湾都市として発展してきた。</li> <li>・ 東海道の宿場町として古くから栄えた蒲原・由比・興津・江尻地区には、街道筋に風光明媚な場所や名所旧跡が残されており、万葉の昔から知られる『三保松原』は、世界文化遺産 富士山の構成資産に登録され、国内外から多くの人々が訪れている。</li> <li>・ 『清水エスパルス』のホームタウンであり、『ちびまる子ちゃん』の舞台としても全国によく知られていることから、子どもたちが文化・芸術・スポーツの魅力を身近に感じながら、愛着と憧れを持って育つまちとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の魅力を活かしたまちづくり</li> <li>・ 「清水都心ウォーターフロント」や「オクシズ」など、陸・海の連携を図ることにより賑わいを創出し、山と海の多彩な特産物を活かして、国内外の交流を促進し、交流・定住人口の拡大を図る。</li> <li>・ 世界文化遺産 富士山の構成資産である『三保松原』をはじめ、数多くの歴史的・文化的資産を大切に保存、継承、活用する。</li> <li>(2) 地域と連携したまちづくり</li> <li>・ 地域が抱える人口減少や少子・高齢化、社会環境の変化などの課題について、住民と意見交換を行いまちづくりを推進する。</li> </ul>	<p>《庵原エリア》 中部横断道を活かし、産業と農業の調和により、地域経済の活性化を目指すエリア</p>



## 「附属資料」

# 静岡市の人口フレーム

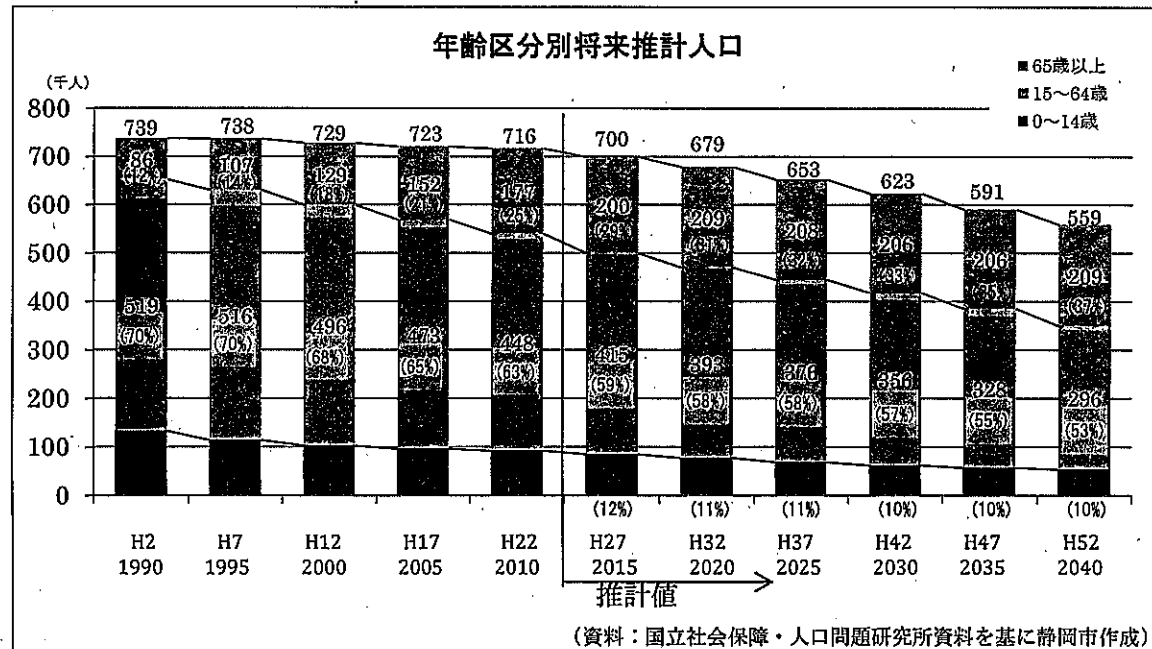
【静岡市の人口推移・将来推計人口】



## 【年齢区分別将来推計】

本市の将来推計人口は、平成22年(2010年)の716,000人を基準とすると、平成32年(2020年)には5%減の679,000人、平成52年(2040年)には22%減の559,000人となる見込みです。

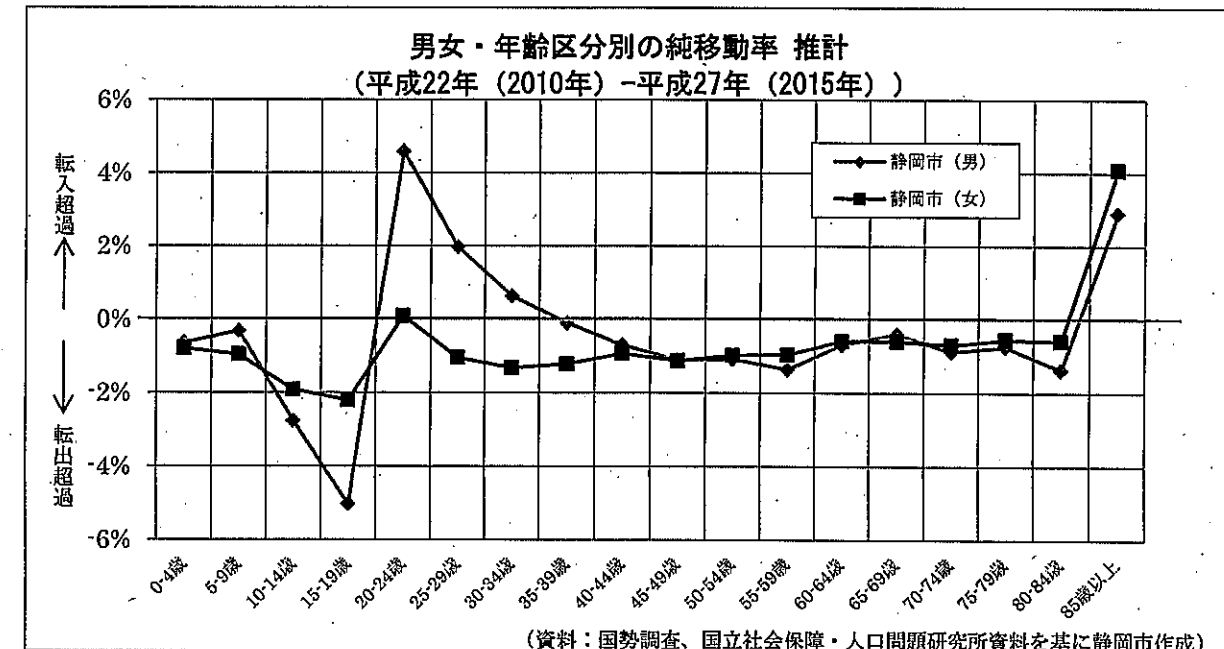
生産年齢人口(15~64歳)は、平成22年(2010年)の63%から、平成32年(2020年)には58%、平成52年(2040年)には53%と、減少を続ける一方、老年人口(65歳以上)は、平成22年(2010年)の25%から、平成32年(2020年)には31%、2040年(H52)には37%と、人口に占める割合は増加の一途を辿ると推計され、産業への影響や、福祉・医療・年金といった社会保障制度の維持に関わる問題が懸念されています。



## 【人口移動(平成22年(2010年)⇒平成27年(2015年)の純移動率推計】

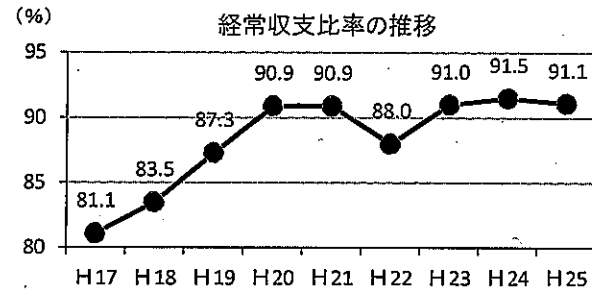
本市の人口移動を見ると、男性は、10~19歳で大きく転出超過ですが、20~34歳では転入超過となっています。

一方、女性はほぼ全ての世代において転出超過であり、一度市外に出た女性がある後も本市に戻っていないと考えられます。



## 市の財政状況

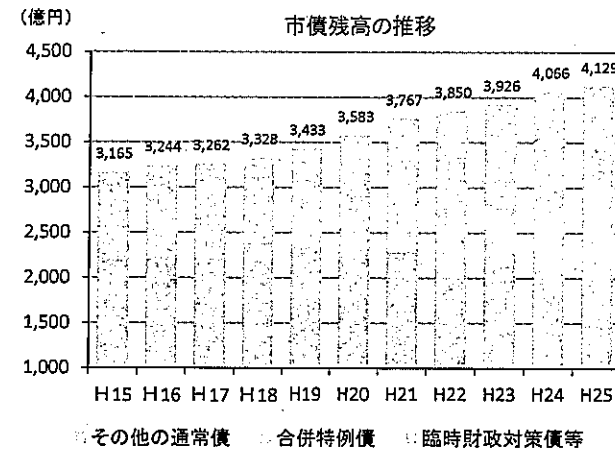
市の財政の自由度が狭まっています



政令市移行後、経常収支比率は年々上昇し、市の財政の自由度が狭まっています。

※経常収支比率：市税や地方交付税等の経常的収入が、人件費や扶助費、公債費などの経常的経費にどれだけ使われているかを示す指標で、数値が低いほど財政構造に弾力性があることとなります。

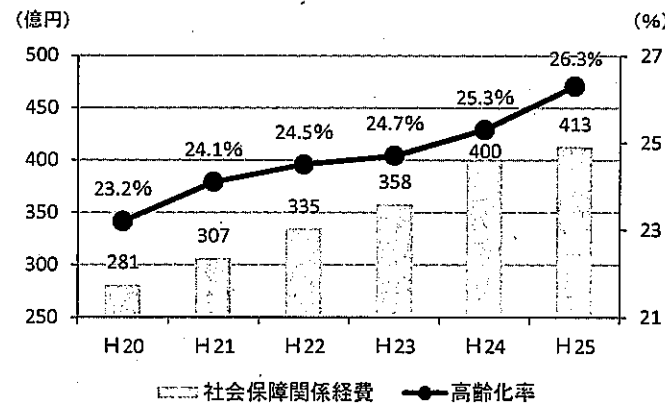
市の借金「市債」の残高が増えています



静清合併した平成15年度末と比べ、25年度末の市債残高は、臨時財政対策債、合併特例債の増により、約1,000億円増加しています。

※この残高は、満期一括償還方式で発行した市債償還の積立金を償還したものと差し引いています。

高齢化の急速な進展等により社会保障関係経費が増えています



高齢化の急速な進展等により、生活保護費をはじめとする扶助費が大きく増加しています。

※社会保障関係経費：ここでは、社会福祉費、老人福祉費、生活保護費の扶助費及び老人福祉費の後期高齢者医療広域連合負担金や介護保険事業会計への繰出金等の合計としています。

※高齢化率：静岡市統計資料（各年度9月末住民基本台帳）

市町村合併への財政支援の特例期間が終わります

合併特例債の発行が平成28年度以降できなくなります。また、地方交付税の算定における合併の特例（合併算定替）が平成27年度から段階的に縮小していきます。

## 行財政改革の状況

これまでの行財政改革の取組

限られた財源の中で、より効率的で質の高い行政経営を推進するため、平成17年から行財政改革に取り組み、24年度までの8年間で正規職員数を542人削減するなど、715億円の効果額を生み出してきました。

第1次行財政改革推進大綱（H17～21）

【効果額】 392億円

【職員削減】 420人

5年間の実績

【主な取組】

- 適正な定員管理などによる総人件費の削減
- 公共工事のコスト縮減
- 民間活力の活用
- 補助金等の見直し
- 事務事業市民評価会議などによる事務事業の見直し、統廃合

第2次行財政改革推進大綱（H22～26）

【効果額】 323億円

【職員削減】 122人

H24までの3年間の実績

新たな行財政改革の取組（平成27～34年度）

少子高齢化、人口減少など、本市を取り巻く環境が厳しさを増す中、環境変化に適切に対処し、安定的な市政運営を行っていくためには、「第3次総合計画」と「財政計画」及び「行財政改革」が三位一体となり、諸施策の選択と集中を図っていく必要があります。

そこで、3次総の策定と合わせ、新たな行財政改革推進大綱及び実施計画を策定していきます。この中で、「改革のスピード」、「改革の断行」、「行財政運営の効率」に留意し、更なる改革を推進していきます。

【新行革大綱中間案】

基本理念

基本方針

改革の方向

豊かな地域社会を実現するための  
最適な行財政運営

I 市民協働・官民連携の推進

- 市民参加・協働の推進
- 官民連携・民間活力の活用
- 開かれた市政の推進

II 質の高い行政運営の推進

- 人材育成・活用の推進
- 効率的な組織体制の確立
- ICTの高度利用による情報化の推進

III 持続可能な財政運営の確立

- 健全な財政運営の推進
- 適正なアセットマネジメントの推進
- 地方公営企業の経営改善



限りある資源（ヒト・モノ・カネ）を最大限に活用し、「世界に輝く静岡」の実現に向け取り組んでいきます

# アセットマネジメントの取組

## 公共施設の現状

### 公共施設の老朽化が問題となっています！

1970年代の高度成長期後半から90年代のバブル経済崩壊後の景気対策期まで、静岡市では、学校や市営住宅、道路、橋りょうなど、多くの公共施設を整備してきました。今後、これらの施設の老朽化が進み、一斉に改修や建て替えの時期を迎えるため、多額の費用が必要になります。

一方、人口減少や高齢化が進むなど、社会構造や市民ニーズは整備当時とは大きく変わっています。このような状況の中、持続的に公共サービスを提供していくためには、これまでの公共サービスのあり方を改めて見直す必要があります。

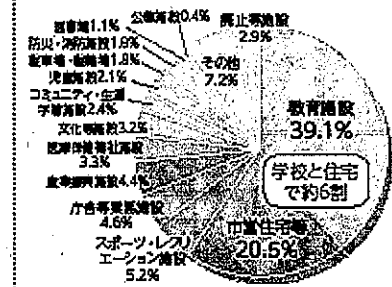
#### 公共建築物(学校、市営住宅等)

##### 公共建築物の数量と面積

- 施設数・・・約1500施設
- 延床面積・・・約230万㎡

東京ドーム50個分  
市民1人あたり約3.2㎡

##### 市施設類型別面積割合

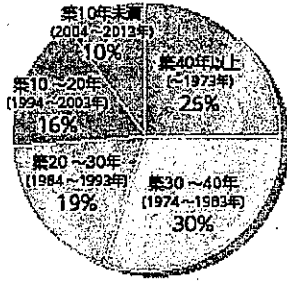


※平成24年3月末時点

##### 老朽化の進行

市は、これまで概ね築40年を目安に建て替えをしてきました。10年後には半数以上の建物が築40年以上となります。

##### 築年別延床面積の割合



※平成24年3月末時点

##### 必要となる多額の経費

今後30年間で建物の維持・建替えに要する費用を試算すると、約309億円/年となります。これまで実際に支出してきた金額は過去4年間の平均で約117億円/年なので、1年あたり約200億円不足することになります。これを生産年齢人口1人あたりの1年間の負担額にすると...

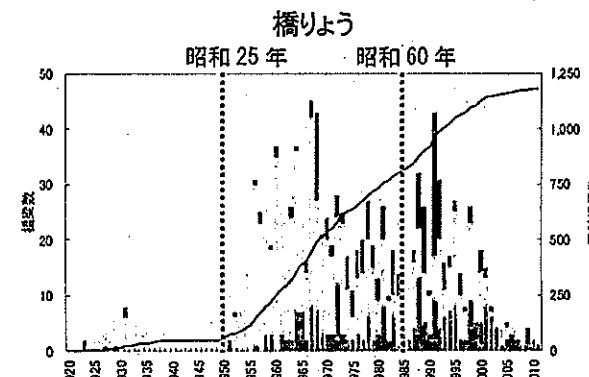
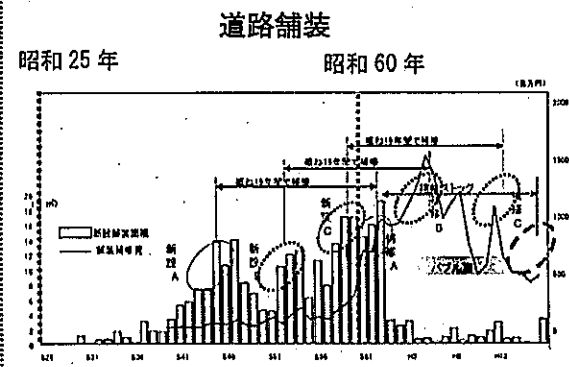


現在... 約2.6万円/人  
30年後... 約10.5万円/人

#### インフラ資産(道路、橋りょう等)

##### 道路や橋りょうの老朽化も進行

公共建築物と同じく、建設時期が集中していることがわかります。



出典:「静岡市土木構造物健全化計画(舗装編・橋梁編)関連資料」

## アセットマネジメントとは・・・

計画的な整備や維持管理を行うことで公共施設の寿命を延ばし、長期にわたり安心・安全に利用できる施設を提供するとともに、公共施設の利用促進や複合化・統廃合を進めることで、市民サービスの維持・向上と将来の財政負担の軽減を図る取り組みのこと。

### もう一度「公共サービス」のあり方を見直します！

- 同じようなサービスが民間で提供されていないか？
- あまり使われていない公共施設を違う用途で使うことができないか？
- 公共施設を長持ちさせて、限りある予算を有効に使えないか？
- これまでと同じ量の公共施設が必要か？

このような発想で、必要などころに必要な投資を行い、健全で持続可能な都市経営を実現していくため、市民の皆さんと一緒に「公共サービス」のあり方を改めて見直していきます。

#### 静岡市アセットマネジメント基本方針

##### 基本方針 1 総資産量の適正化

施設の複合化、用途変更、統廃合といった手法により、資産の量を減らします。公共建築物については、平成55年度までに20%の床面積を縮減します。

##### 基本方針 2 長寿命化の推進

定期的な点検、診断や計画的な維持修繕を実施することで、施設を長寿命化させ財政負担を平準化します。

##### 基本方針 3 民間活力の導入

民間事業者のノウハウや資金を積極的に導入するとともに、市民との協働を図り、サービスの向上と財政負担の軽減を図ります。

## 今からはじめる、30年後のまちづくり

アセットマネジメントを進める原動力は、市民の力です。子や孫の世代に、健全で活力のある都市を引き渡すためには、今から取り組みを始めなければなりません。市民と企業、行政が共にアイデアを出し合いながら、持続可能なまちを実現する、アセットマネジメントを推進します。

